

官報

號外

昭和二年三月十八日 金曜日

內閣印刷局

第五十二回衆議院議事速記第二十七號

昭和二年三月十七日(木曜日)午後一時十九分開議

議事日程 第二十六號

昭和二年三月十七日

午後一時開議

第一 商工會議所法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 鑛業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 商法中改正法律案(三浦數平君提出) 第一讀會

第五 恩給法中改正法律案(長峰與一君外三名提出) 第一讀會

第六 恩給法中改正法律案(松實喜代太君外三名提出) 第一讀會

第七 恩給法中改正法律案(一柳仲次郎君外六名提出) 第一讀會

第八 恩給法中改正法律案(山井儀重君外八名提出) 第一讀會

第九 治安警察法中改正法律案(山井儀重君外四名提出) 第一讀會

第十 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(坂東幸太郎君外三名提出) 第一讀會

第十一 架空索道ノ抵當ニ關スル法律案(清瀬一郎君提出) 第一讀會

第十二 被害水田改良事業助成法案(星康平君外二名提出) 第一讀會

第十三 金鷄勳章年金ニ關スル法律案(古川清君外一名提出) 第一讀會

第十四 北海道御料拂下地免租年期ニ關スル法律案(東武君外三名提出) 第一讀會

第十五 借地法中改正法律案(作間耕逸君外二名提出) 第一讀會

第十六 大正十五年法律第七十四號中改正法律案(市制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出) 第一讀會

第十七 大正十五年法律第七十五號中改正法律案(町村制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出) 第一讀會

第十八 大正十五年法律第七十六號中改正法律案(北海道會法中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出) 第一讀會

第十九 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(福田五郎君外八名提出) 第一讀會

第二十 「ローマ」字ヲ小學校教科科目中ニ加フルコトニ關スル法律案(松本君外二名提出) 第一讀會

第二十一 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(竹原一君外十六名提出) 第一讀會

第二十二 造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會

第二十三 京都市ニ關スル法律案(森田茂君外四名提出) 第一讀會

第二十四 橫濱市ニ關スル法律案(平沼亮三君外二名提出) 第一讀會

第二十五 大阪市ニ關スル法律案(武藤山治君外十一名提出) 第一讀會

第二十六 神戸市ニ關スル法律案(折原巳一郎君外二名提出) 第一讀會

第二十七 名古屋市中ニ關スル法律案(加藤謙五郎君外一名提出) 第一讀會

第二十八 秋田市ニ國立園藝試驗場設置ニ關スル建議案(信太儀右衛門君外三名提出) 第一讀會

第二十九 千曲川河畔ニ國立養蠶試驗場設置ニ關スル建議案(篠原和市君外七名提出) 第一讀會

第三十 農漁村振興上必要ナル法律制定ニ關スル建議案(山本勝次君提出) 第一讀會

第三十一 國有林ノ文化的施設ニ關スル建議案(村山喜一郎君提出) 第一讀會

第三十二 民林局設置ニ關スル建議案(村山喜一郎君提出) 第一讀會

第三十三 不要存置國有林野整理處分ニ關スル建議案(大島要三君外七名提出) 第一讀會

第三十四 農漁村ノ金融ニ關スル建議案(床次竹二郎君外十二名提出) 第一讀會

第三十五 小作農保護ニ關スル建議案(床次竹二郎君外十二名提出) 第一讀會

第三十六 森林法中改正ニ關スル建議案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會

第三十七 公有林野官行造林事業促進ニ關スル建議案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會

第三十八 林野基本調査ノ速行ニ關スル建議案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會

第三十九 農林保險ニ關スル建議案(小西和君外一名提出) 第一讀會

第四十 國立水產試驗場設置並地方水產試驗場統一ニ關スル建議案(小西和君外一名提出) 第一讀會

第四十一 水產講習所ヲ分チ水產專門學校及水產試驗場ト爲スノ建議案(小西和君外一名提出) 第一讀會

第四十二 自作農創設及維持資金ニ對スル利子補給ニ關スル建議案(村上國吉君外四名提出) 第一讀會

第四十三 宮城縣ニ國立米穀倉庫設置ニ關スル建議案(內ヶ崎作三郎君外三名提出) 第一讀會

第四十四 森林政策根本方針確立ニ關スル建議案(太田信治郎君外一名提出) 第一讀會

第四十五 萬國海事水產會議並內國海事水產博覽會開催ニ關スル建議案(小池仁郎君外五名提出) 第一讀會

第四十六 海事水產金融制度ニ關スル建議案(中村啓次郎君外五名提出) 第一讀會

第四十七 七尾港又ハ伏木港ニ生牛檢疫所設置ニ關スル建議案(石原正太郎君外二名提出) 第一讀會

第四十八 雨龍原野土地改良ニ關スル建議案(神部爲藏君外六名提出) 第一讀會

第四十九 市町村吏員優遇ニ關スル建議案(篠原和市君外三名提出) 第一讀會

第五十 市町村吏員優遇ニ關スル建議案(八田宗吉君提出) 第一讀會

第五十一 市町村吏員優遇ニ關スル建議案(清水長郷君提出) 第一讀會

第五十二 市町村吏員優遇ニ關スル建議案(金光庸夫君外一名提出) 第一讀會

第五十三 府縣會議員優遇ニ關スル建議案(金光庸夫君外三名提出) 第一讀會

第五十四 村落ニ關スル制度ノ調査及整備ニ關スル建議案(富永孝太郎君外一名提出) 第一讀會

第五十五 地方財政根本改革ニ關シ調査會設置ニ關スル建議案(馬場義典君提出) 第一讀會

第五十六 廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案(湯淺凡平君提出) 第一讀會

- 第五十七 廣島縣ニ於ケル三部制廢止
ニ關スル建議案(渡邊伍君外一名提出)
- 第五十八 廣島縣ニ於ケル三部制廢止
ニ關スル建議案(金田平兵衛君外一名提出)
- 第五十九 市町村ノ整理改善ニ關スル
建議案(荒川五郎君提出)
- 第六十 北海道二一級町村制改正ニ關
スル建議案(澤田利吉君外六名提出)
- 第六十一 樺太ニ地方制度施行ニ關ス
ル建議案(小池仁郎君外六名提出)
- 第六十二 樺太ノ拓殖促進ニ關スル建
議案(竹内友治郎君外五名提出)
- 第六十三 那賀川改修速成ニ關スル建
議案(谷原公君外一名提出)
- 第六十四 小貝川第二期改修速成ニ關
スル建議案(來栖七郎君外一名提出)
- 第六十五 肝屬川改修速成ニ關スル建
議案(津崎尚武君提出)
- 第六十六 川内川改修速成ニ關スル建
議案(寺田正君外四名提出)
- 第六十七 加古川改修工事完成ニ關ス
ル建議案(多木久米次郎君提出)
- 第六十八 木津川改修工事速行ニ關ス
ル建議案(長田桃藏君外一名提出)
- 第六十九 木津川改修工事急進ニ關ス
ル建議案(川崎安之助君外一名提出)
- 第七十 由良川改修工事速行ニ關スル
建議案(長田桃藏君外一名提出)
- 第七十一 淀川低水工事促進ニ關スル
建議案(長田桃藏君外一名提出)
- 第七十二 淀川低水工事改良ニ關スル
建議案(川崎安之助君外四名提出)
- 第七十三 古井川改修ニ關スル建議案
(清水長郷君提出)
- 第七十四 利根川及荒川改修工事速成
ニ關スル建議案(神谷彌平君外二名
提出)
- 第七十五 鶴見川改修速成ニ關スル建
議案(小野重行君外二名提出)
- 第七十六 筑後川改修工事ニ關スル建
議案(加藤十四郎君提出)
- 第七十七 筑後川改修工事ニ伴ヒ兩縣
聯絡架橋ニ關スル建議案(加藤十四
郎君外一名提出)
- 第七十八 矢部川改修工事ニ關スル建
議案(坂梨哲君外三名提出)
- 第七十九 大淀川架橋ニ關スル建議案
(長峰與一君外四名提出)
- 第八十 河川使用許可ニ關スル建議案
(川崎安之助君外十一名提出)
- 第八十一 河川法中改正ニ關スル建議
案(加藤十四郎君提出)
- 第八十二 八丈島ニ於ケル漁港修築ニ
關スル建議案(高木正年君外二名提
出)
- 第八十三 高砂港修築ニ關スル建議案
(多木久米次郎君提出)
- 第八十四 渚田港漁港修築ニ關スル建
議案(原夫次郎君外二名提出)
- 第八十五 濱益漁港修築ニ關スル建議
案(一柳仲次郎君外六名提出)
- 第八十六 北海道漁港並船入湖築設ニ
關スル建議案(黒住成章君外三名提
出)
- 第八十七 丸龜港改築國庫補助ニ關ス
ル建議案(三善清之君提出)
- 第八十八 岸和田港修築費國庫補助ニ
關スル建議案(井坂豐光君提出)
- 第八十九 岸和田港修築費國庫補助ニ
關スル建議案(山口義一君提出)
- 第九十 尾道港第二種重要港灣指定ニ
關スル建議案(嶋居哲君外一名提出)
- 第九十一 尾道港第二種重要港灣指定
ニ關スル建議案(横山金太郎君外三
名提出)
- 第九十二 徳山港ヲ第二種港灣編入ニ關
スル建議案(横山金太郎君外一名提
出)
- 第九十三 大淀川河口築港ニ關スル建
議案(長峰與一君外四名提出)
- 第九十四 福井縣和田港ニ運河開鑿並
避難港築設ニ關スル建議案(山口嘉
七君外二名提出)
- 第九十五 鶴戸神社昇格ニ關スル建議
案(津崎尚武君提出)
- 第九十六 尾張戸神社昇格ニ關スル建
議案(丹下茂十郎君提出)
- 第九十七 尾張戸神社昇格ニ關スル建
議案(西脇哲君外一名提出)
- 第九十八 官幣中社水無瀬宮昇格ニ關
スル建議案(植垣平君外二名提出)
- 第九十九 廣島市ニ明治聖帝記念館設
立並明治神宮分社造營ニ關スル建議
案(江藤榮吉君提出)
- 第一百 香取神宮神苑擴張ニ關スル建
議案(今井健彦君提出)
- 第一百一 水道費國庫補助金増額ニ關ス
ル建議案(倉元要一君外一名提出)
- 第一百二 消防組經費國庫補助並消防組
員優遇ニ關スル建議案(倉元要一君
外二名提出)
- 第一百三 消防組經費國庫補助並消防組
員優遇ニ關スル建議案(秋田寅之介
君提出)
- 第一百四 大日本聯合青年團國庫補助ニ
關スル建議案(秋田寅之介君提出)
- 第一百五 兵庫縣警察費國庫下渡金増額
ニ關スル建議案(土井權大君外六名
提出)
- 第一百六 京都府警察費國庫下渡金増額
ニ關スル建議案(森田茂君外六名提
出)
- 第一百七 移動警察制度完備ニ關スル建
議案(原夫次郎君提出)
- 第一百八 報德社普及獎勵ニ關スル建議
案(山宮藤吉君外九名提出)
- 第一百九 滿十五歳未満兒童映畫一般觀
覽禁止ニ關スル建議案(原惣兵衛君
外一名提出)
- 第一百十 古物商取締法改正ニ關スル建
議案(山本芳治君外九名提出)
- 第一百十一 北海道舊土人保護ニ關スル
建議案(手代木隆吉君外六名提出)
- 第一百十二 日西交通發祥地ヲ史蹟名勝
指定地ト爲スノ建議案(森島和君外
五名提出)
- 議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセ
マス
〔書記官朗讀〕
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
地租條例中改正法律案
提出者 熊谷五右衛門君
(以上三月十七日提出)
天鹽國初山別村字茂築別ニ無集配郵便局
設置ニ關スル建議案
提出者 淺川 浩君 一柳仲次郎君
小池 仁郎君 山本 厚三君
神部 爲藏君 澤田 利吉君
手代木隆吉君
邊別驛美瑛驛間ニ停車場設置ニ關スル建
議案
提出者 淺川 浩君 一柳仲次郎君
小池 仁郎君 山本 厚三君
神部 爲藏君 澤田 利吉君
手代木隆吉君
廣島縣ニ競馬場設置ニ關スル建議案
提出者 金田平兵衛君 神谷 彌平君
米麥鳩精ノ取締及制限ニ關スル建議案
提出者 荒川 五郎君 長岡 外史君
望月小太郎君 小西 和君
小野 重行君 中原徳太郎君
蟻川五郎君 増田 義一君
西村丹治郎君 淺賀長兵衛君
戰死公病死者及癈兵ノ遺族扶助料増額ニ
關スル建議案
提出者 蟻川五郎君 柏田 忠二君
(以上三月十五日提出)
山田大杉間鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 大石 大君
朝鮮金剛山國立公園設定ニ關スル建議案
提出者 牧山 耕藏君 陣 軍吉君
中林 友信君 福井 甚三君
寺田 市正君
(以上三月十七日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
商船學校生徒遭難ノ件並遠洋航海練習船ニ關スル質問主意書
提出者 三善 清之君
(以上三月十五日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)
一 去十四日辭任シタル常任委員左ノ如シ
第四部豫算委員 木戸 豐吉君
一 去十四日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第三部選出
豫算委員 吉植 庄一郎君(倉元要一君補關)
一 去十四日理事補關選舉ノ結果左ノ如シ
保險業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員
理事 松本 眞平君(理事梅田寛一君補關)
理事 菅原 英伍君(理事寺島權藏君補關)
今十四日辭任ニ付其ノ補關
一 去十四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

土地收用法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員
委員長 藏園三四郎君
理事 青木知四郎君 佐々木文一君
大正十三年度第一豫備金支出ノ件外十一件(承諾ヲ求ムル件)委員
委員長 樋口 秀雄君
理事 清水留三郎君 米原於菟男君
森 肇君

一 去十四日登錄稅法中改正法律案外三件委員嶋居哲辭任ニ付其ノ補關トシテ高木音藏君ヲ銀行法案外四件委員村上國吉君辭任ニ付其ノ補關トシテ川崎安之助君ヲ大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)委員小島七郎君辭任ニ付其ノ補關トシテ平井光三郎君ヲ保險業法中改正法律案委

員寺島權藏君辭任ニ付其ノ補關トシテ村上紋四郎君ヲ明治六年地租改正條例ニ依ル土地丈量立替費用償還ニ關スル建議案外二十件委員佐藤重遠君辭任ニ付其ノ補關トシテ前田兼實君ヲ義務教育年限延長ニ關スル建議案外三十一件委員井上敬之助君辭任ニ付其ノ補關トシテ高井商二君ヲ出版物法案委員原惣兵衛君辭任ニ付其ノ補關トシテ牧野良三君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
一 去十五日辭任シタル常任委員左ノ如シ
第五部豫算委員 橋本 喜造君
第七部豫算委員 吉川吉郎兵衛君
第四部豫算委員 山本 勝次君
一 去十五日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出
豫算委員 東 武君(木戸豐吉君補關)
一 去十五日理事補關選舉ノ結果左ノ如シ
電氣事業法中改正法律案(政府提出)委員
理事 植原悅二郎君(理事石原正太郎君補關)
君本月十一日辭任ニ付其ノ補關
一 去十五日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

一 去十五日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
保稅倉庫法中改正法律案外一件委員
戶井 嘉作君 山本 厚三君
武富 濟君 廣瀬 德藏君
戶田 由美君 石黒大次郎君
生方 大吉君 松本 眞平君
若尾幾太郎君 磯部 保次君
難波 清人君 佐々木長治君
小野 義一君 福井 甚三君
森 肇君 折原巳一郎君
井坂 豐光君 馬場 義典君

一 去十五日電氣事業法中改正法律案委員佐藤實君辭任ニ付其ノ補關トシテ深井功君ヲ王公族ヨリ内地ノ家ニ入リタル者及内地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ノ戶籍等ニ關スル法律案外一件委員杉宜陳君辭任ニ付其ノ補關トシテ山下谷次君ヲ京都府市ニ關スル法律案外四件委員木戸豐吉君

辭任ニ付其ノ補關トシテ矢野鉦吉君ヲ御料地拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル法律案委員神崎勤君辭任ニ付其ノ補關トシテ倉元要一君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
一 昨十六日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第四部選出
豫算委員 小島七郎君(山本勝次君補關)
第五部選出
豫算委員 橫山勝太郎君(橋本喜造君補關)
第七部選出
豫算委員 手代木隆吉君(吉川吉郎兵衛君補關)
一 昨十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

一 昨十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
王公族ヨリ内地ノ家ニ入リタル者及内地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ノ戶籍等ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
委員長 武藤 嘉門君
理事 菅原 英伍君 神村 吉郎君
保稅倉庫法中改正法律案(政府提出)外一件委員
委員長 福井 甚三君
理事 戶田 由美君 若尾幾太郎君
森 肇君

一 昨十六日不良住宅地改良法案委員太田信治郎君辭任ニ付其ノ補關トシテ村上紋四郎君ヲ大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)委員平井光三郎君辭任ニ付其ノ補關トシテ小島七郎君ヲ明治六年地租改正條例ニ依ル土地丈量立替費用償還ニ關スル建議案外二十件委員堤清六君辭任ニ付其ノ補關トシテ土屋清三郎君ヲ未成年者飲酒禁止法中改正法律案委員丸山五郎君辭任ニ付其ノ補關トシテ關矢孫一君ヲ南陽鐵道速成ニ關スル建議案外三十六件

委員中村清造君辭任ニ付其ノ補關トシテ山内範造君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、諮問事項ガアリマス、第三部選出豫算委員兒玉右二君、第二部選出豫算委員伊坂秀五郎君、第九部選出豫算委員隅田豐吉君、第八部選出豫算委員山崎達之輔君、第二部選出決算委員井上虎治君、右諸君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ハレ、議長ノ手許ニ御報告アラシコトヲ望ミマス、是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一、商工會議所法案ノ第一讀會ヲ開キマス、野村政府委員

第一 商工會議所法案(政府提出、貴族院送付)
商工會議所法案 (小字及ハ貴族院修正)
商工會議所法案 第一讀會
第一條 商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條 商工會議所ハ法人トス
第三條 商工會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ商工業ノ狀況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ町ノ區域ニ依ルコトヲ得
特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町市町村又ハ町町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得
第四條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ第十二條第一號ノ議員ノ被選舉權ヲ有スベキ者三十人以上發起人ト爲リ其ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第五條 商工會議所ハ前條ノ設立ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス
商工會議所成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人ノ之ヲ行フ
第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

第一 商工會議所法案(政府提出、貴族院送付)
商工會議所法案 (小字及ハ貴族院修正)
商工會議所法案 第一讀會
第一條 商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條 商工會議所ハ法人トス
第三條 商工會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ商工業ノ狀況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ町ノ區域ニ依ルコトヲ得
特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町市町村又ハ町町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得
第四條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ第十二條第一號ノ議員ノ被選舉權ヲ有スベキ者三十人以上發起人ト爲リ其ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第五條 商工會議所ハ前條ノ設立ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス
商工會議所成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人ノ之ヲ行フ
第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱、地區及事務所所在地
二 議員ノ定數並ニ其ノ選舉及選定ニ關スル規定
三 役員ノ定數、權限及選任ニ關スル規定
四 會議ニ關スル規定
五 事業及其ノ執行ニ關スル規定
六 庶務及會計ニ關スル規定
第七條 商工會議所ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一 商工業ニ關スル通報
二 商工業ニ關スル仲介又ハ斡旋
三 商工業ニ關スル調停又ハ仲裁
四 商工業ニ關スル證明又ハ鑑定
五 商工業ニ關スル統計ノ調査及編纂
六 商工業ニ關スル營造物ノ設置及管理
七 其ノ他商工業ノ改善發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第八條 商工會議所ハ商工業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得
商工會議所ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ
商工會議所ニ商業部及工業部ヲ置ク場
合ニ於テハ部ハ各前二項ノ建議又ハ答申ヲ爲スコトヲ得

第九條 行政官廳ハ商工會議所ニ對シ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得
第十條 商工會議所ハ商工業者ニ對シ商工業ニ關スル統計其ノ他ノ調査ヲ爲ス爲メ必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 商工會議所ニ議員總會ヲ置ク
第十二條 議員總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス
一 第十四條乃至第十八條ノ規定ニ依リ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉シタル議員

二 地區内ノ重要商工業ヲ代表セシムル爲メ第十九條ノ規定ニ依リ選定シタル議員

第十三條 議員ノ定數ハ五十人以上トシ前條第二號ノ議員ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一トス但シ地方ノ狀況ニ依リ其ノ割合ヲ五分ノ一未滿トスルコトヲ妨グズ
同一商工會議所ニ於テ前條第一號ノ議員ト同條第二號ノ議員トヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第十四條 左ノ條件ヲ具フル者ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有ス
一 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ナルコト但シ會社ニ在リテハ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民(帝國法令ニ依リ設立シタル法人ヲ含ム)ニ屬スルモノタルコトヲ要ス

二 商工會議所ノ地區内ニ於テ引續キ二年以上本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スルコト
三 自己ノ名ヲ以テ商行為ヲ爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鑛業業者ニシテ商工會議所ノ地區内ニ於テ營業收益稅、取引所營業稅又ハ鑛產稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項第三號ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス
會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ガ命令ノ定ムル金額以上ナル場合ニ於テハ第一項第三號ノ納稅ニ關スル條件ヲ具ヘザルトキト雖モ第一項ノ選舉權ヲ有ス

家督相續ヲ爲シタル者ニ付テハ第一項ノ選舉權ニ關スル條件ニシテ被相續人ノ具備シタルモノハ之ヲ其ノ者ノ具備シタルモノト看做ス
合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ選舉權ヲ有セズ
一 破產者ニシテ復權ヲ得ザル者
二 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
三 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
第十六條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ其ノ被選舉權ヲ有ス
第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ被選舉權ヲ有セズ
一 禁治產者及準禁治產者
二 女子及年齡三十歲未滿ノ者
第十八條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル
投票ハ選舉人自ラ行フ但シ會社及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ單記投票又ハ五人以内ノ連名投票ノ方法ニ依ル
選舉ハ選舉人ヲ二級ニ分チテ之ヲ行フコトヲ得
前五項ニ規定スルモノノ外選舉ノ方法、手續、取締其ノ他選舉ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條 第十二條第二號ノ議員ハ地區内ノ重要商工業一業種ニ付各一人トス
前項ノ重要商工業ノ種目ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 議員ハ第十四條第一項第一號ノ條件ヲ具フル者タルコトヲ要ス
第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者ハ第一項ノ議員タルコトヲ得ズ
前四項ニ規定スルモノノ外第一項ノ議員ノ選定ニ關シテハ定款ノ定ムル所ニ依ル
第二十一條 議員タル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代表者ヲ定ムベシ
前項ノ代表者ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ登記シタル支配人ニシテ帝國臣民タルコトヲ要ス
一人ニシテ同一商工會議所ニ於テ二以上ノ會社ノ代表者ト爲ルコトヲ得ズ
第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ代表者タルコトヲ得ズ
一 第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者
二 同一商工會議所ノ議員タル者
三 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權停止中ノ者
第二十三條 議員ハ名譽職トス
前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス
補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
第二十四條 第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル者ハ其ノ職ヲ失フ但シ納稅ニ關スル條件ヲ失ヒタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者亦前項ニ同ジ
第二十五條 左ノ事項ハ議員總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス
一 定款ノ變更
二 經費ノ豫算及賦課徵收方法
三 事業報告及收支決算ノ承認
四 借入金
五 顧問ノ選任又ハ解任
六 議員又ハ役員ノ解任
七 過息金ノ賦課
八 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ノ停止
九 商工會議所ノ解散
十 帝國商工會議所設立ノ同意
十一 其ノ他重要ナル事項
前項第一號、第二號、第四號及第九號ニ掲グル事項ノ議決ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第二十六條 議員總會ハ會頭之ヲ招集ス

議員總會ノ議長ハ會頭、會頭事故アルトキハ副會頭ヲ以テ之ニ充ツ會頭及副會頭共ニ事故アルトキハ出席議員ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

議員總會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

議員總會ノ議決ハ出席議員ノ過半数ニ依リ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

○第四號

前條第一項第一號及第六號乃至第九號ニ掲グル事項ノ議決ハ議員三分ノ二以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二十七條 商工會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人

副會頭 一人又ハ二人

會頭ハ商工會議所ヲ代表シ所務ヲ總理ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會頭及副會頭ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十八條 役員ハ議員總會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ會頭又ハ副會頭ニ限リ議員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 役員ノ任期ハ四年トス

前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

第三十條 議員中ヨリ選任セラレタル役員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ役員ノ職ヲ失フ

第三十一條 議員タル會社役員ニ選任セラレタル後第二十條第一項ノ規定ニ依ル其ノ代表者ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ會社ハ役員ノ職ヲ失フ

第三十二條 役員ノ職務終了シタル場合ニ於テ所務ノ遂行ニ支障ヲ生ズル虞アリ

ルトキハ退職シタル役員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ後任者ノ就職スル迄引續キ仍其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第三十三條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事項ニ付諮問ヲ爲ス爲議員定數ノ五分ノ一ヲ超エザル員數ノ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ商工業ニ關スル學識經驗アル者又ハ十年以上議員トシテ功勞顯著ナル者ヨリ之ヲ選任ス

顧問ハ名譽職トス

第三十四條 商工會議所ニ理事一人ヲ置ク

理事ハ會頭ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

理事ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十五條 商工會議所ハ必要ニ應ジ商業部、工業部又ハ其ノ他ノ部ヲ置クコトヲ得

部ノ名稱、組織、權限其ノ他部ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 商工會議所ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第四十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ選舉權ヲ停止セラレタル者ニ對シテハ停止中ト雖モ經費ヲ賦課スルコトヲ得

商工會議所ノ經費賦課ノ額ニ關スル制限及經費賦課ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第三十八條 經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工會議所ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ時効ニ付テハ市町村税ノ例ニ依

經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 商工會議所ハ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條 商工會議所ハ經費ヲ滯納シタル者ニ對シ其ノ滯納中、前條ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ニ對シ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第四十二條 商工會議所ハ收支決算ヲ主務大臣ニ報告スベシ

商工會議所ハ少クモ毎年一回其ノ事業成績ヲ主務大臣ニ報告スベシ

第四十三條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第四十四條 商工會議所解散シタルトキハ議員總會ニ於テ清算人ヲ選任スベシ

清算人缺ケタルトキ亦同ジ

清算人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス

第四十六條 清算人ハ商工會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十七條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

議員總會前項ノ議決ヲ爲サズ又ハ爲スコト能ハザルトキハ清算人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムベシ

第四十八條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖

モ其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十六條及第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 主務大臣必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法又ハ清算及財産處分ノ方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉法令又ハ定款ニ違反スルトキハ主務大臣ハ選舉又ハ當選ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 商工會議所ノ議決又ハ議員、役員若ハ清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 議員、役員又ハ清算人ノ解任

二 商工會議所ノ議決ノ取消

三 商工會議所ノ事業ノ停止

四 商工會議所ノ解散

第五十二條 主務大臣ハ不正ノ行爲アリタルニ因リ第五十條ノ規定ニ基キ當選ヲ取消サレタル者又ハ前條第一號ノ規定ニ依リ解任セラレタル議員若ハ役員ニ對シ取消又ハ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第五十三條 商工會議所ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ帝國商工會議所ヲ設立スルコトヲ得

日本

帝國商工會議所ハ法人トス

日本

帝國商工會議所ヲ設立セントスルトキハ六以上ノ商工會議所發起人ト爲リ商工會議所總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

日本

第五十四條 帝國商工會議所成立シタルトキハ商工會議所ハ總テ之ニ加入シタ

ルモノト看做ス
日本
帝國商工會議所ハ主務大臣ノ認可ヲ受
テ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國
ニ於テ設立シタル商工會議所ニ準ズル
法人其ノ他ノ團體ヲ加入セシムルコト
ヲ得

第五十五條 日本
帝國商工會議所ニ總會ヲ置
ク

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各
商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シ
タル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十六條 日本
帝國商工會議所ニ常議員會
ヲ置ク

常議員會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬
ノ商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定
シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス
常議員會ハ定款ニ依リ委任セラレタル
總會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス但シ
定款ノ變更及帝國商工會議所ノ解散ノ
議決ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十七條 日本
帝國商工會議所ノ役員ハ所
屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中
ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルト
キハ會頭又ハ副會頭ニ限リ所屬ノ商工
會議所其ノ他ノ團體ノ役員ニ非ザル者
ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

日本
帝國商工會議所所屬ノ商工會議所其ノ
他ノ團體ノ役員中ヨリ選任セラレタル
役員其ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役
員ノ職ヲ失ヒタルトキハ帝國商工會議
所ノ役員ノ職ヲ失フ

第五十八條 日本
帝國商工會議所ハ定款ノ定
ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他
ノ團體ニ對シ經費ヲ分賦シ及過息金ヲ
徵收スルコトヲ得

第五十九條 第五條第一項、第六條乃至

第十條、第二十條乃至第二十二條、第
二十五條乃至第二十七條、第二十八條
第二項、第二十九條第一項、第三十二
條乃至第三十五條、第三十六條第三
項、第三十八條第三項、第三十九條、
第四十條、第四十二條乃至第四十九條
及第五十一條ノ規定ハ帝國商工會議所
ニ之ヲ準用ス

第六十條 主務大臣ハ本法ニ規定シタル
其ノ職權ノ一部ヲ行政官廳ニ委任スル
コトヲ得
第六十一條 第三條及第三十八條中町村
トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テ
ハ之ニ準ズベキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
商業會議所法ハ之ヲ廢止ス
商業會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行
ノ際現ニ存スル商業會議所ハ之ヲ本法ニ
依リ設立シタル商工會議所ト看做ス
前項ノ規定ニ依リ商工會議所ニ付テハ議
員ノ選舉又ハ選定ニ關スル規定ハ次ノ總
選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ施行前ニ於ケル
議員ノ選舉ニ關スル事項ハ仍舊舊法ノ規定
ニ依ル

第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付テハ
施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム
日本銀行及橫濱正金銀行ハ本法ノ適用ニ
付テハ之ヲ會社ト看做ス
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六
號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處
セラレタル者ト看做ス

〔政府委員野村嘉六君登壇〕
○政府委員(野村嘉六君) 現行商業會議所
法ハ明治三十五年ノ制定デアリマシテ、爾
來大正五年及大正十二年二部分の改正ヲ
爲シタルデアリマス、併ナガラ部分の改
正ダケデハ、時勢ノ進運ニ副ハナイノデア
リマシテ、今回ハ會議所本來ノ職務ヲ發揮
セシムル上ニ於キマシテ、更ニ改正案ヲ提

出シタヤウナ次第デアリマス、サ
ウシテ今回改正シマシタル主ナル理由ハ、
第一、名稱ヲ商工會議所ニ改メマシテ、工
業者ニモ亦此組織ニ與ケルノ意味ヲ明ニ致
シタ事デアリマス、第二ニハ、會議所ノ地
區内ニ於キマスル所ノ、重要ナル商工業ノ
業種別ニ依リ代表者モ議員ニ加ヘタノデア
リマス、第三ニハ、議員選舉方法ヲ改正致
シタコトデアリマス、第四ニハ、全國ノ會
議所ノ聯合會ヲ法制上認メタコトデアリマ
ス、本案ニ付キマシテハ、貴族院ニ於テ、
帝國商工會議所トアルヲ、日本商工會議所
ト改メマシタル外二點ノ修正ガアツタバカリ
デ、他ハ全部可決セラレテ居ルノデアリマ
ス、而シテ右修正ハ政府ニ於テモ相當理由
アルモノト認メマシテ、之ニ同意シタ次第
デアリマス、何卒十分慎重御審議ノ上、御
協賛ヲ賜リタイノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテ質疑ノ
通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス、木暮
武太夫君

〔木暮武太夫君登壇〕
○木暮武太夫君 昨今議題トナツテ居
リマスル所ノ、商工會議所法案ニ付キマシ
テ、三種ノ點ニ付テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイ
ト考ヘル者デアリマス、先ツ第一ニ質問致
シマスルコトハ、此度從來ノ商業會議所法
ナルモノヲ、商工會議所法ト改メマシテ、
將來益、其權能ヲ發揮シ、其權威ヲ保持セ
ンコトニ努メラレテ居ルノデアリマスガ、
政府ニ於テハ、從來ノ如ク此商工會議所ナ
ルモノヲ、單ナル諮問機關トシテ其發達ヲ
助成スルノ考デアルカ、或ハ又外國ノ如ク
ニ、執行機關或ハ實行機關トシテ、其權威
ヲ發揮サセルダケノ御考ガアルカト云フコ
トヲ伺ヒタイノデアリマス、御承知ノ通り
ニ、歐羅巴大陸ニ於ケル所ノ、法律ヲ認メ
マシタル幾多ノ商業會議所ニ於キマシテ
ハ、商事行政事務ヲ國家ヨリ之ニ委任ヲ致
シマシテ、或ハ輸出物ノ検査デアリタルヲ
或ハ其他商慣習法ニ關スル所ノ法律ニ付テ
ハ、十分之ニ付テ實行スルコト云フ工合ニ、
幾多ノ商事行政事務ヲ國家ガ之ニ委任シ

テ、實行機關トシテノ其權能ヲ發揮サセテ
居ルノデアリマス、又英吉利ノ如ク、或ハ
亞米利加ノ如クニ、法律ヲ致シマセヌデ、
任意ニ私設ニ會員組織ニ依テ出來テ居リ
マス所ノ商業會議所法ニ於キマシテモ、矢
張或ル程度マデハ實行機關ト致シマシテ、
商事行政事務ノ委任ヲ受ケテ居ル事實ガア
ルノデアリマス、政府ハ從來ノ商業會議所
法ナルモノヲ、今度ハ商工會議所法ト改ム
ル際シマシテ、單ナル諮問決議ノ機關ト
シテ其發達ヲ助成スル考デアルカ、或ハ諸
外國ニ於ケル其例ノ如クニ、實行機關トシ
テ、其發達ヲ助成スル考デアアルカト云フコ
トヲ、先ツ第一ニ伺フデ置キタイノデアリ
マス、第二ニ、從來ノ如クニ諮問機關トシ
テ、商工會議所ノ將來ノ發達ヲ豫期致シマ
シテ、其權能ヲ發揮セシムルコト云フコトヲ
期待致シテ居ルコト致シマスルナラバ、從來
ノ如キ態度デハ、私ハ決シテ其目的ヲ達成
スル所以デナイト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、從來ニ於キマシテモ、幾多ノ問題ニ付
キマシテハ、政府ハ之ニ諮問シテ、商業會
議所ガ之ニ各申フ爲メベシト云フコトヲ法
律ヲ定メテ居リマスガ、政府ノ其時々ノ都合
ニ依テ、或ハ諮問シ、或ハ諮問セズ、或ハ
建議致シマシタルモノニ對シテモ、何等之ヲ
採用致スト云フコトガ無クシテ、此諮問機
關トシテノ權威ハ申スマデモナク、法文ハ
全ク空文ニ歸シタコトハ、是ハ從來ニ於ケ
ル事實デゴザイマス、此點カラ考ヘテ參リ
マスルナラバ、諮問機關トシテ將來其權威
ヲ發揮セシムルニ於テハ、十分政府ガ考慮
致シマシテ、從來ノ如キ態度ヲ執ラズ、十
分商工業ノ發達ニ關係致シマスル法規ノ制
定ニ付テハ、必ズ商工會議所ニ諮問スルコ
ト云フ御考ガアルカドウカト云フコトヲ御伺
ヒタイノデアリマス、或ハ一例ト致シマシ
テ、佛蘭西ノ商業會議所ノ法律ノ如クニ、
或ハ商慣習法ニ關スル所ノ法律ニ付テハ、
商業會議所ニ諮問シナケレバナラヌト云フ
ガ如クニ、商業會議所ニ諮問致スベキ所ノ
事項ヲ、法律ヲ例示スルコト云フ國モアルノ
デアリマスカラ、寧ろ進ンデ此諮問事項ヲ

倒而致シマシテ、諮問機關トシテノ商工會議所ノ權威ヲ發揚セシムルコトガ、必要デハナキカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ文部省關係ニ於キマシテハ文政審議會ガアリ、鐵道省ニ於キマシテハ鐵道會議ガアルト云フ工合ニ、當業者、關係業者ノ利害ニ關スル法制ヲ定メマスル場合ニ於キマシテハ、十分之ニ攻究サセテ其意見ヲ容レルコトガ、即チ國民政治ノ確立ノ上ニ必要ナル今日ニ於キマシテハ、從來ノ如クニ唯、諮問機關デアルカラ、之ヲ聽イタ場合ニ答申スベシト云フ位ナ、生溫イ所ノ法律ヲ作シテ置イテ、從來ノ如ク之ヲ空文ニ置クト云フコトハ、決シテ諮問機關トシテ將來商工會議所ナルモノ、權威ヲ、十分發揚セシムル所以デナイト考ヘテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテ政府ノ明確ナル御答辯ヲ伺ヒタイ、第三ニ伺ヒタイ事ハ、商工會議所ノ基礎ハ即チ選舉人ニ在ルノデアリマス、商工會議所ヲ組織致シマスル所ノ選舉人ノ選舉權ト云フコトニ付キマシテ、御同致シタイノデアリマス、御承知ノ通りニ從來ノ商業會議所ト云フモノハ、一部ノ富裕階級ノ代表機關ノ如ク、富裕階級ノ所謂社交機關ノ如クニ看做サレマシテ、權威ガ乏シイト云フコトハ、我國ノ商工業ノ發達ノ上ニ洵ニ遺憾デアルト私ハ考ヘテ居ル一人デアリマス、是ハ何所ニ缺陷ガアルカト云フト、從來ノ選舉權納稅額ノ制限ト云フモノガ、非常ニ高キニ失シテ居タト云フコトハ、總テノ論者ノ意見ノ一致致ス所デアリマス、此點ニ付キマシテハ、政府ハ果シテ云フ御考ヲ持テ居ルカ、今度ノ法案ニ於キマシテ、同業組合ノ代表者ヲ議員ノ中ニ入レルト云フコトヲ御改正ニナリマシタコトハ、此小サナル商工業者ノ代表者ヲ商工會議所ノ構成分子トシテ入レルト云フ、進歩シタル御意見デアルト考ヘルト共ニ、此趣旨ト矛盾ナキヤウニ實施致シマスルノニハ、選舉權ニ付キマシテモ從來ノ高キ制限ト云フモノ或ル程度マデ低メルト云フコトガ、商工會議所ト云フモノヲ大勢ノ基礎ノ上ニ置イテ、其權威ヲ高メル所以デア

ト私ハ考ヘテ居ルガ、此點ニ付キマシテハドウ云フ御考ヲ持テ居ルカ、次ニ御同致シタイコトハ、商工會議所ノ組成ノ上ニ極メテ必要デアル所ノ此選舉人ノ選舉權、即チ資格納稅額ノ制限ト云フモノヲ命令ニ讓シテ、法律ニ書イテナイト云フコトハ、時代錯誤ノ甚シイモノデアルト私ハ考ヘテ居ル、商工會議所法ナルモノヲ作シテ、サウシテ其商工會議所ノ基礎ガ、即チ選舉人ニ在ルト致シマスナラバ、其選舉權、即チ納稅額ノ制限ト云フモノニ付キマシテハ、明ニ兩院ノ協賛ヲ受クベキ所ノ法律ニ明示スルト云フコトガ、進歩シタル遺方デハナキカ、之ヲ今回ノ法律ニ於キマシテ、此納稅額ト云フモノ、制限ヲ命令ニ讓シテ居ルト云フコトハ、時代錯誤ノ甚シイモノデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此點ニ付テ御明答ヲ煩シタイノデアリマス、ソレカラ次ニ御同致シタイコトハ、今度ノ商工會議所法ノ第八條ニ、商工會議所ガ商業部及工業部ヲ置ク場合ニ於キマシテハ、一部ハ各前二項ノ建議又ハ答申ヲ爲スコトヲ得トアリマシテ、商工會議所ノ商業部又ハ工業部ヲ置ク場合ニ於キマシテハ、各部ガ獨立ニ政府ニ對シ建議ヲ爲シ、答申ヲ爲スコトヲ力ヲ認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ若シ政府ガ商工會議所ノ統制アル、統一アル所ノ發達ヲ期待致スナラバ、此執行機關デアル所ノ正副會頭、常議員ト何等關係ガナク、此商業部ナリ、工業部ト云フ各別ノ部ガ直接ニ政府ニ答申ヲ爲シ、建議ヲ爲スコト云フコトハ、矛盾ヲ致スノデハナカラウカト考ヘル、政府ハ果シテ將來ニ於テ商工會議所ノ統一アル發達ヲ御期待ニナルナラバ、此點ニ付テハ寧ろ御改メニナル御考ハナキカドウカト云フコトヲ伺テ置キタイノデアリマス、最後ニ私ハ伺テ置キタイコトハ、政府ハ産業ノ構成分子トシテ資本ト勞動ト云フモノハ常ニ同位置ニ置カルベキモノデアルト云フコトヲ、事毎ニ御力説ニ相成テ居ルノデアリマス、私ハ洵ニ當然デアルト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、勞動組合法ヲ御出シニナリマシ

タ場合ニ、現在勞動組合ノ聯合體ガアルニ拘ラズ、之ヲ法律上認メスト云フコトヲ盛ニ御聲明ニナシテ居リマス、ニ對シテ、此勞動ト産業上ノ關係ニ於テハ同位置ニ立ツベキ所ノ此企業資本ニ對シマシテハ、今回帝國商工會議所ナルモノヲ御認ニナシ、サウシテ其商工會議所ノ聯合體ヲ御認ニナタト云フコトハ、勞動ト資本トノ間ニ非常ナル、差違ヲ政府ガ御付ケニナシタモノデハナカラウカ、此點ニ付キマシテハ法文ニ於キマシテモ既ニ商工會議所ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ、帝國商工會議所ナルモノガ出來マシタ以上ハ、其他ノ商工會議所ノ希望スルト希望セザルト看做スト云フヤウニ、強制的ニ意味ヲ以テノ此帝國商工會議所ナル聯合體ヲ認メテ居ルガ、一方ニ於テハ勞動者ノ保護ト稱スル所ノ勞動組合ニ於キマシテ、現在發達シテ居ル所ノ聯合體ヲ全然認メナイト云フ所ニ、政府ノ方針ニ矛盾ヲ生ジハシナイカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテモ、明確ナル御答辯ヲ煩シタイノデアリマス

〔政府委員野村嘉六君登壇〕

○政府委員野村嘉六君 木暮君ノ第一ノ御質問ハ、行政ノ一部ヲ商工會議所ニ委任シテ、其機能ヲ發達セシメタ方ガ宜シイデハナキカト云フ御質問デアアルノデアリマス、御尤ナル御質問デアリマシテ、當局ト致シマシテハ行政ノ一部ヲ、直ニ此法案ノ中ニ委任スルト云フコトヲ書クト云フコトハ面白クナイ、併ナガラ内容ニ於キマシテハ本幕君ノ御考ノ通りニ、行政ノ一部ヲ委任スル考デアルノデアリマス、例ヘテ見マスル場合ニ於キマシテハ、政府自ラ之ニ當リマセズシテ、商工會議所ニ委嘱シテ、其經營ニ與ラシメルガ如キ、或ハ又商工業ニ關スル通報ヲ商工會議所ヲ介シテ行フヤウナ場合ハ、今御述ニナシタ御意見ト同趣旨ナノデアリマス、併シ總テノ事ハ商工會議所ヲシテ其機能ヲ發達セシメルニハ、自治體ノ機關トシテ、其權限ヲ十分ニ付與シテ

置イタ方ガ宜シイト考ヘマシタカラ、第七條ニハ商工會議所ノ目的範圍ヲ定メテアルノデアリマス、商工業ニ關スル通報、商工業ニ關スル仲介又ハ斡旋、商工業ニ關スル調停又ハ仲裁、商工業ニ關スル證明又ハ鑑定、商工業ニ關スル統計ノ調査及編纂、商工業ノ改善發達ヲ圖ルノ必要ナル事業、斯ノ如ク商工業ニ自治ノ機能ヲ發揚セシムルニ足ルベキ種々ノ權限ヲ付與シテアルノデアリマス、併ナガラ其向上尙行政ノ一部ヲ委任シタ方ガ宜イト云フ御意見デアリマシタガ、其事ハ法文ニハ規定致シマセヌガ、御趣旨ト同一意味合ニ於キマシテ、將來外國ノ見本市又ハ博覽會ヘ參加スル權能等ハ、商工會議所ヲシテ當ラシメルノデアリマス、第二ニハ必ズ商工會議所ニ諮問スベシ、サウシテ商工會議所ノ諮問ヲ經ナケレバ、立法其他ノ行政ヲ行フコトノ出來ナイヤウナ規定ニシタ方ガ宜シイデハナキカト云フ御趣旨ト思ヒマシタ、此點ニ對シマシテハ、主ニ木暮君ハ現在ノ商業ノ現狀ニ鑑ミラレテノ御議論ト私ハ思フノデアリマス、現在ノ商業會議所ニ對シマシテハ、其活動振ガ餘リ面白クナイト云フコトハ、世間一般ノ風評デアリマス、今回商工會議所ト改メ、各種ノ改正ヲ致シマシタノハ、商工會議所ノ機能ヲシテ、十二分ニ發揮セシムル爲ニ改正ヲ行ウタ次第デアアルノデアリマス、隨ヒマシテ此改正案成立ノ曉ニハ、御趣旨ノ通りニ當局ト致シマシテハ、事商事ニ關シ、工業ニ關スル問題ニ對シテハ、必ズ一々諮問ヲシテ、サウシテ其答申ニ基キマシテ、政府自ラ行政事務ヲ處理スル考デアルノデアリマス、詰リ法文ニ書カナクテモ、御趣旨ノ點ハ必要ナリト認メタ爲ニ、改正事項ノ一部トシタヤウナ次第デアアルノデアリマス、第三ハ今日ノ商業會議所ハ儀禮機關ノヤウナ感ガアル、言換ヘレバ内容ニ於テ餘リ仕事ヲシテ居ラヌデハナキカ、此點ニ付テノ御批評ハ吾々モ聞ク所デアリマス、是ハ思フニ選舉制度ガ惡イ結果デアリハセヌカ、當局モ此點ニ鑑ミマシテ、

今回ハ選舉方法ヲ改正スル考デアリマス、
ツレニハ第一ニ納稅別ノ、即チ今日マデノ
如ク唯、地位アリ、名譽アルト云フガ如キ
方面ノミナラズ、事實ニ於キマシテ代表サ
ルベキ必要ナル、重要ナル商業工業ノ其代
表者ヲ加ヘテ、サウシテ審議セシムル考デ
アルノデアリマス、今一ツハ選舉資格ノ低
下、即チ今日選舉資格ヲ得ル所ノ納稅額ヲ
下ゲマシテ、サウシテ從來ヨリハ廣ク有權
者ヲ得テ、此點ノ調和ヲ得テ眞ノ商工機關
タル、即チ助長機關、指導機關ノ本能ヲ發
揮セシムル考デアリマス、ソレカ
ラ第四ニハ、本幕若ハ此納稅資格ナルモノ
ヲ、法律ヲ以テ一定セシメタ方ガ宜イデハ
ナイカ、事重大デアッテ是ハ法律ニ於テ規定
スベキモノデアルト云フ御話デアリマス、
他ノ縣會議員トカ、或ハ衆議院議員選舉法
ノ如キハ御説ノ通りデアリマスアレドモ、
此商工會議所、現今ノ商業會議所法ナルモ
ノ、性質ハ、地方ノ商工業發達ノ爲ニ作ル
規定デアリマスルカラシテ、地方ノ資産狀
態、地方ノ商業狀態、工業狀態ヲ參照シテ
其資格ヲ定メナケレバナラヌノデアリマ
ス、ソレデアリマスカラ今日ト雖モ、地方
ニ依テ或ハ百圓ヲ以テ程度トシ、或ハ三十
圓ヲ以テ程度トシ、或ハ二十圓ヲ以テ程度
トシ、其土地ノ商業工業ノ盛衰ノ狀態ニ應
ジテ有權者、即チ選舉者ヲ造ル必要ガアル
ノデアリマスカラシテ、是ハ一律ニ法律ヲ
以テ造ルヨリハ、今日ノ如キ勅令ヲ以テ、
或ハ命令ヲ以テ其地方ノ力ニ應ジテ、サウ
シテ有權者ヲ定メルト云フノガ實際ニ適シ
タ事ナリト信ジタ次第デゴザイマス、第五
ハ商工會議所法、即チ原案ノ第八條ニ對ス
ル御質問デアリマシタガ、是ハ必ズ商業部
或ハ工業部ヲ置カナケレバナラヌト云フ規
定デアリマス、即チ地方ノ狀
況ニ依テ商業部或ハ工業部ヲ置クコトヲ
得ト云フ規定デアリマス、而シテ現在ニ於
キマシテモ、矢張地方ニ依テハ商業部並
ニ工業部ヲ置イテ居ル事ガアルノデアリマ
ス、當局ハ是等ノ實際ニ鑑ミマシテ、サウ
シテ今度此法文ニ規定シタノデアリマス、

而シテ置クコトヲ得ト書イテゴザイマスカ
ラシテ、其土地ノ狀況ニ應ジマシテ、商工
會議所ヲ設立スル御方々ガ、此所ノ處ニハ
置ク必要ガ無いト云フナラバ、置カナクテ
モ宜イノデアリマスカラシテ、私ハ地方ノ
實情ニ適當シタ處置ナリト考ヘルノデアリ
マス、或ハ此點ニ對シテ意見ノ相違デモア
リハセヌカト云フ御懸念デアアルカモ知レマ
ス、其意見ノ相違デモアルヤウナ點ニ
對シテハ、置カナイ方ガ私ハ商工業發達ノ
爲ニ適當ナリ、又必要ノアル所ニハ置イテ
宜シト、斯ウ云フ考ヲ持テ居ルノデアリ
マス、第六ハ、此帝國商業會議所、此問題
ト勞動立法ノ問題ニ付テノ御述デアリマシ
タガ、貴族院ニ於キマシテ帝國商工會議所
ガ日本商工會議所ト訂正サレタノデアリマ
ス、當局モ之ニ同意致シマシタ、是ハ御承
知ノ通りニ國外關係デアリマス、國外カラ
日本ニ對シマシテ、商業ノ狀態ニ對シテ諮
問ヲ受ケル時ニ、帝國商工會議所即チ改メ
マシタ日本商工會議所ニ諮問シテ、サウシ
テ統一シタル意見ヲ答申シタ方ガ、最も機
宜ニ適シテ居ルモノデアアル、此意味カラ
出來テ居ルノデアリマス、今日尙ホ聯合商
業會議所ガアッテ、外國ノ問合セ等ニ對シテ
其意見ヲ答申シテ、其任務ヲ盡シツ、アル
譯デアリマシテ、此國外ニ對セル立場上、
此改正ヲ致シタノデアリマシテ、其内容ハ
現在ノ商業會議所聯合會、之ニ該當スルモ
ノデアルト云フコトヲ、御諒察ヲ願ヒタイ
ノデアリマス

○本幕武太夫君 簡單デアリマスカラ、此
處カラ御許ヲ願ヒマス
○議長(粕谷義三君) 許シマス
○本幕武太夫君 モウ一ツ伺ヒタイ事ガア
リマス、今回ノ商工會議所法ガ制定ニ時弊
ヲ穿テ、ソウシテ時勢ニ適合シタヤウナコ
トヲ世間デ云テ居リマス、其中デ私共ガ今
回ノ商工會議所ノ改正法ニ於キマシテ、商
工會議所ガ自治ノ精神ト全ク反對シテ居
ル、時代ト逆行シテ居ルト看做スベキ所ノ
モノハ何デアアルカト云フト、從來ト異テ今
回ノ改正法ニ於キマシテハ、正副會頭ト云
フ者ハ、議員外ノ他ノ者カラ備入レテ來ル
コトヲ御定メニナシタコトハ、是ハ時代ニ逆
行シテ居リ、又自治ノ精神ヲ破壞スルモノ
デアルト私ハ考ヘテ居リマス、即チ商工會
議所ハ選舉人ノ商工會議所デアアル、即チ選
舉人ノ代表者デアアル所ノ議員ノ商工會議所
デナクテハナラナイノニ、選舉人ノ委任ヲ
受ケズ、選舉人ノ代表者デナイ所ノ、何等
關係ノナイ他ノ者カラ備入レテ來テ、サウ
シテ議長ノ職ニ就ケルコトハ、商工會議
所ノ自治ヲ破壞スルモノデアリ、時代ノ精
神ニ逆行スルモノデアルト私ハ考ヘテ居ル
ノデアリマス、而シテ實際ノ場合ニ於キマ
シテ、可否同數ノ場合ニ、此議長ガ議決權
ヲ持テ居ルカドウカト云フコトヲ御同致
シタイノデアリマス、議決權ハ勿論其背後
ニ在ル所ノ選舉人ニ選バレタト云フ代表者
ノ資格ニ於テ議決權ヲ持ツベキモノデア
ルト考ヘテ居リマス、然ラバ議決權ノナイ此
正副會頭ト云フ、他所カラ備入レタ者ガ入
テハ、可否同數ノ場合ニ其執行機關ノ能力
ニ於テ疑フベキモノガアルト私ハ考ヘテ居
リマス、此點ニ付キマシテ政府ハドウ云フ
致シテ置キタイノデアリマス

〔政府委員(野村嘉六君)登壇〕
○議長(粕谷義三君) ドウゾ少シク私話ヲ
御慎ミヲ願ヒマス
○政府委員(野村嘉六君) 御答ヲ致シマ
ス、會頭並ニ副會頭ヲ議員以外カラ選ブト
云フノハ、自治ニ對スル矛盾デアルト云フ
御意見デアッタノデアリマス、當局ト致シ
マシテハ無論自治權ヲ尊重スルノデアリマ
ス、其議員ニ對シテ會頭、或ハ副會頭ノ地
位ニ就カル、人ガアッタナラバ、飽迄之ヲ獎
勵シテ、其議長ナリ又ハ副議長ノ任務ニ從
事シテ貰ヒタイノデアアル、此點ニ付キマシ
テハ本幕若ト同意見デアリマス、併ナガラ
實際ノ狀態ヲ見マスルト云フト、動トモス
ルト云フト議員間ニ議論ガ出來タリ、色々
ナ關係ガアリマシテ、議員ノ中ヨリ選ムヨ
リハ寧ろ局外者カラ選ンダ方ガ、却テ商工
會議所ノ機能ヲ發達セシムルニ都合ノ好イ
コトガアリマス、是ハ實際問題デアリマス
ガ、當局ハ勿論商工會議所ノ自治ハ尊重致
シマス、ソレハ本幕若ト同意見デアリマス、
併ナガラ事ノ實際ニ當テ其機能ヲシテ十
分ニ發揮セシムルコトノ出來ナイヤウナ場
合ニハ、他カラ選ンデ、サウシテ商工會議
所ノ機能ヲ十二分ニ發揮セシムルコト云フコ
トハ、自治權ヲ阻害スルニアラズシテ、自
治權ヲ重シズル結果ナリト當局ニ於テハ、認
メテ居ルヤウナ次第デアアルノデアリマス、
又此點ニ對シマシテハ、例ヲ申シテ善イカ
惡イカ知レマセヌガ、市會ノ如キ即チ地方
ノ自治體ノ機關デアリマス、市長ハ之ヲ
他ヨリ選ンデ、サウシテ自治ノ事務ニ當ラ
シメテ居ルヤウナ他ノ法制モアルノデアリ
マス、而シテ議長トシテノ投票權ハ、可否
同數ナル時ニハ之ニ依テ採決スル、斯ウ
云フノデアリマスカラシテ、是亦私ハ自治
權ヲ害スルモノニアラズト考ヘルヤウナ次
第デゴザイマス(拍手)

○本幕武太夫君 議決權ハ...
○政府委員(野村嘉六君) 可否同數ノ時デ

ヲ持テ居ラナケレバナラヌ、此商工會ガ左様ナ法規ノ制定ナク、且ツ公法人トシテ之ヲ認メラレテ居ナイノデ、隨テ之ニ會員タルベキ者ガ其入會或ハ脫退ニ對シテハ何等ノ法規ガ無い、此取締其他ニ付テモ非常ニ商工業ノ發達ノ上ニ於テ、若クハ其促進ヲ促ス上ニ於テ法規ノ無いト云フ爲ニ、非常ニ不利益ヲ蒙ルテ居ルノデアリマス、幸ニ政府ハ茲ニ鑑ミル所ガアツテ、此商業會議所法ナルモノヲ商工會會議所法ニ改正サレレ

此機會ニ於テ、此商工會ニ對シテモ一ツノ法規ヲ御作りニナツテ、サウシテ小都市及町村落ノ爲ニ特ニ左様ナ法律ヲ制定サレルト云フコトハ、最も必要ナル事デアラウト思フノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ既ニ之ニ對シテハ御研究ナサツテ、如何ナル所マデ御進ミニナツテ居リマスルカ、或ハ此事ニ付テハ何等御考ヲ御持ニナツテ居リマセムカ、或ハ居リマスルカ、或ハ之ニ付テ十分研究サレテ、サウシテ政府ニ於テモ其意思ガ十分アリト云フナラバ、此商工會ニ對シテ特別ナル法規ノ發布ヲ何時ノ時機ニ於テ御斷行ニナルカ、或ハ御斷行ニナル御豫定デアラレルカト云フヤウナ點ニ付テ、忌憚ナキ御所見ヲ承リタイノデアリマス

〔政府委員野村嘉六君登壇〕

○政府委員(野村嘉六君) 御答ヲ致シマス、地方商工會ハ今日ハ地方ニ澤山出來テ居リマス、サウシテ之ヲ統一スベキ法規ヲ設ケテ吳レト云フ請願モアルノデアリマス、而シテ今日マデノ地方ニ於ケル商工會ノ狀態ヲ見マスと云フト、縣ニ依リマシテハ地方ノ其縣ダケノ取締ヲ出シテ居ル所ガアリマス、其數ハ正確ニ覺エテ居リマセムカ、確カ十縣位ハアルト信ジマス、而シテ商工會ナルモノハ地方ノ商工業ノ發達ノ機關デアアルノデアリマスカラ、御説ノ通り必要ナ機關デアリマス、併シ之ヲ一ツノ統一シタル法律ニ致シマスニハ總テノ經過、各縣ノ狀態ヲ能ク見マシタ上デ、是ガ法制ニ著手ヲシヤウト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、而シテ今御問ノ當局ニ於テ何等之ニ手ヲ觸レテ居ラヌカト云フ御質問ニ對

シマシテハ、實ハ現ニ請願モ出テ居リマス、又各地ノ狀況ヲモ觀察シテ居リマス、又商工會ニ對スル會議モヤツテ居ルヤウナ次第デアリマスカラ、何レ是等ノ總テノ點ヲ調査致シマシテ、相當ナ時機ニ於テ法制ニ致シタイト云フ考ヲ持テ居リマス、併ナガラ今直ニ此所デ統一シタル法制ヲ作ルト云フコトハ申上兼ル次第デアリマス(拍手)

○嶋居哲君 縣令保護ノ下ニ在ルト云フコトハ、是ハ現在アルノデス、併ナガラソレデハ殆ド何等役立テ居ナイノデアル、今政府當局ノ御答辯デハ、實際ニ於テ地方ノ狀況ヲ能ク調べタ上デ考ヘルト云フコトヲ仰シヤツタ、ソレデアルト政府當局ハ斯ウ澤山ニ商工會ガ出來テ居テ、現ニ相當ナル機能ヲ發揮シテ居ル其商工會ト云フモノニ付テ、マダ何等御調査ニナツテ居ナイ、地方ニ應ジタル狀況ニ對シテハ何等御研究ニナツテ居ラヌト云フコトヲ御答辯ニナツテ居ルノデアリマス、私ハ是ハ甚ダ怪シカラヌ御答辯ト考ヘル、現ニ商工會ト云フモノガ存シテ居テ、相當ニ地方ノ商工業ノ發達ノ爲ニ盡シテ居ルノデアル、之ニ對シテ政府ガ何等御研究ナク、何等御調査ヲ進メテ居ラヌト云フ御答辯デハ、甚ダ私ハ政府ノ態度冷淡極メタモノデアル、斯様ナコトデ商工業ノ發達ヲ期スルコトゴドウシテ出來ルカト思フ、私ハ其御答辯ニ付テハ甚ダ不満足ニ感ズル者デアル、私ハサウ云フ程度ノ御調査ハ當然出來テ居ルモノナリトシテ、之ヲ前提ニ置イテ質問シタルノデアル、所ガ今ノ御答辯デハ何等之ニ對シテハ知ル所ガナイ、故ニ研究シタ上デ何分ノ事ヲヤラウト考ヘテ居ルト云フ、甚ダ漠然タル御答辯デアアルノデアリマス、併シソレ以上ノ御答辯ハ出來ナイノデアリマス、今一應此事ニ付テ……

〔政府委員野村嘉六君登壇〕

○政府委員(野村嘉六君) 私ノ言葉ガ足ラナカタ結果カモ知レマセムカ、決シテ調査シテ居ラヌ譯デハナイノデアリマス、其數ニ於キマシテモ非常ニ多イノデアリマシテ、サウシテ地方々々ノ商工業ノ利益ヲ發

達スル爲ニ出來テ居リマス、併ナガラ之ヲ一ツニ統一シタル法律ニ纏ムル上ニ於キマシテハ、府縣令ヲ以テ取締シテ居ル處モアルシ、又未ダニ府縣令モ發布セズニ居ル處モアル、併ナガラ府縣令ヲ發布セナクテモ、實際ニ於テ商工會ノ發達シテ居ル處モアルシ、又實際左様ニ發達シテ居ラヌ處モアリマス、要スルニ統一ノ立法ヲ致ス時ニハ、總テノ關係ヲ十分ニ調査シテ、サウシテ十分ナリト信ジタ時ニ致スベキモノナリト考ヘテ、先程答辯シタルデアリマス、言葉ノ點ニ於テ足ラヌ點ガアツタカモ知レマセムカ、今申上ダレ趣旨ヲ御諒察願ヒタイノデアリマス(拍手)

○嶋居哲君 能ク御答辯ノ趣旨ガハッキリセヌノデアリマス、後ハ委員會ニ於テ御尋致シタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 次ハ森田金藏君

(森田金藏君登壇)

○森田金藏君 只今御提案ニナリマシタル商工會會議所法案ニ付テ、政府ノ御意見ヲ少シ伺フテ置キタイト思フノデアリマス、元ト商業會議所法案ハ先程政府委員ノ御話ニハ、三十五年ト云フ御話デアリマシタガ、明治三十六年ノ六月ニ發布サレタ古イ法案デアリマシテ、爾來幾多ノ改正ヲ加ヘラレタノデアリマス、所ガ此度商工會會議所法ト名ヲ變ヘラレマシテ、御提出ニナツタ案ガ今上程サレテ居ルモノデゴザイマスルカ、既ニ商業會議所ナルモノハ明治三十六年以來、法令ニ依テ都市及地方ヲ問ハズ、今日迄モ相當ナル貢獻ヲシテ來テ居ルノデアリマス、又諮問機關トシテ政府ガ御使ヒニナツタコトモ多クアルノデアリマス、所ガ是ハ外ノ法律ト異リマシテ全ク單行法デアツテ、商業會議所其モノ、即チ此度出タ商工會會議所其モノ、機能ヲ如何ニ發揮セシメ、又如何ニ商工業ニ此效果ヲ及ボシ、産業ノ發達ヲ之ニ依テ助長セシメル、斯ウ云フコトガ政府ノ改正サレタ所ノ大趣旨デナケレバナラヌ、サレバ此法律ヲ一單行法ヲ御出シタル前ニハ、即チ總テ外ノ事デモ諮問サレル商業會議所ニ向テ、今度ノ改正法

ハ商業會議所其モノゴドウ考ヘテ居ルカト云フコトニ付テ、政府ハ諮問サレタニ違ヒナイト思フノデアリマス、サレバ諮問サレタモノニ付テ商業會議所ガ答案ヲ出シテ居ル、全國商業會議所ニ諮問サレ、全國商業會議所ガ到ル處ノ會議所ノ見ル所ガ違タカモ知ラヌガ、之ニ相當ナル答案ヲ出シテ居ルノデアリマス、而シテ其上ニ今御話ニナツタ此度貴族院デ名ヲ變ヘラレタ、帝國商工會會議所ヲ日本商工會會議所ト變ヘラレマシタモノハ、商業會議所聯合會デアアルノデアリマス、其聯合會ガ幾度カ會議ヲ開イテ、サウシテ之ニ相當ナル答案ヲ奉テ居ルノデアリマス、其關係ヲ政府ニ御尋致シタイ、此御諮問ニナツタ趣旨ニ付テ商業會議所ガ答案ヲ差出シタモノハ、如何ナル程度ニ之ヲ參酌ナサツテ、此新ナル所ノ改正法律案ガ出來マシタカ、何等參考ニナル答案ガ出ナカッタカ、出タ答案ハドレ程重キヲ置イテ之ヲ御用ヒニナツテ居ルカ、是ガ第一ニ御聞シタイノデアリマス、ドウモ私ハ此法案ヲ見マスルト、聯合會ニ御諮問ニナリ、或ハ全國商業會議所ニ御諮問ニナツテ、相當會議所ガ日數ヲ要シテ答案ヲ差出シタモノニ、何等御レテ居ラナイヤウナ氣ガスルノデアリマス、然ラバ自治團體アル所ノ商業會議所ガ、答案ヲ出シタモノガ參考ニナラナカッタカ、ナツタカ、ナツタナラバドノ點ヲ大ニ此改正法ニ自治團體ノ意見ヲ御用ヒニナツテ居ルカドウカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、大體商業會議所法ガ商工會會議所法ト變ルコトハ名ノ問題デアリマシテ、農商務省ノ管下ニ在ツタモノガ、二ツノ省ガ出來テ商工省ノ管下ニナツタ、商業バカリデナク、商工ト之ヲ廣クシタト云フ意味ニ於テハ、此名前ハ適當デアラウト思フノデ、私ハ何等反對ノ意見ハ持タナイノデアリマス、併ナガラ是ダケ改正ニナルナラバ、前ニ木暮君カラモ御質問ニナリマシタガ、其商工業ニ對スル行政機關トシテ、ドレ程重ク御認ニナツテ居ルカト云フ點ニ付テハ、政府委員カラシテ既ニ御返事ガ木暮君ニアリマシタ、併ナガラ我ガ商工業者ヲ愈、自治

的ニ發達セシメ、其自由意思ヲシテ愈、向上セシメヤウト思フナラバ、相當ニ之ニ重キヲ置イテ政府ガ視ルト云フコトハ、當然ノ事デアリマス、前ニモ色々例ガ出テ居リマシタガ、私嘗テ佛蘭西ノ「マルセーユ」ノ商業會議所ヲ見タコトガアリマスガ、此「マルセーユ」ノ商業會議所ナドハ、商工業ノ行政事務ドコロデハナイ、港灣ノ事務ヲ全部持テ居ルノデアリマス、アノ「マルセーユ」ノ大ナル港灣ヲ商業會議所ノ經濟ニ依テ之ヲ經營シテ居ル、港其物ヲ商業會議所ガ造テ、サウシテ船ノ出入ノ噸稅ヲ商業會議所ガ取テ居ル、是カラ二十年ノ後ニハアノ「マルセーユ」ノ「グレート・マルセーユ」ヲ造ル所ノ、アノ大ナル設備ハ何等政府ガ干涉スル所ナク、「マルセーユ」商業會議所其モノガ非常ナ大ナル費目ヲ入レテ、サウシテアノ「マルセーユ」ノ全都市ニ及ボス所ノ大影響ノアル大キナ港ヲ造ラントシテ居ルコトモ實見シツ、アルノデゴザイマス、斯ノ如ク各國ノ例ハ法律ニ依テ許サレテ居ル所ハ、獨リ佛蘭西ノカリデハナイ、他ニモ多クアリマス、貴族院ニ於テモ森平兵衛君カラ詳シク其邊モ御述ニナツテ居ルヤウデアリマスカラ私ハ省キマスガ、大體商工業者ノ發達ヲ促ス所ノ原則カラスレバ、是ハドウシテモ商工業者ノレ自身ガ會員組織ニデモシテ、全ク自治體ノモノト成テヤルベキコトガ本當デアルノデアリマス、ケレドモ今日ハマダ其域ニ達シテ居ラスト云フコトデ、此改正案ヲ御出シニナツタトシマシテモ、矢張此改正案ハ前後ヲ通ジテ古イ方ノ商業會議所法案ト較ベテ見テ、殆ド進歩シテ居ル所ハ少イノデアリマス、曩ニ木暮君ノ御質問ニ對シテ御答ニナツタ第七條ノ如キハ、多數ノ機能ヲ發揮スベキ項目ヲ示シテアルト云フヤウナ政府委員ノ御答モアリマシタケレドモ、マダ「是ダケ」ノモノニ依テ發達シテ進歩シタト云ヘナイ、舊商業會議所法ノ七條ト較ベテ見テモ、大シタ差ガナイノデアリマス、此邊ハ此法案ヲ作リマシタ所ノ骨子ガ唯、名ヲ變ヘルト云フコトダケデアツテ、大シタ深い

意味ガナカッタト云フヤウナ御考デハナイノデアリマセウカ、之ヲ一ツ御導致シタイノデアリマス、第二ニ御導致シタイ事ハ、第八條ノ「商工會議所ハ商工業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得」其中ニ「商工會議所ニ商業部及工業部ヲ置ク場合ニ於テハ各前二項」云々ト云フ、茲ニ貴族院デハ「定款ノ定ムル所ニ依リ」ト云フ訂正ガ出來テ居ルヤウデアリマスガ、是ハ曩ニ政府當局ノ御答辯デハ、貴族院ノ訂正案ニハ全然御同意ナサツタヤウニ承テ居リマスガ、是ハ間違ナイコトデアルカ、尙ホ承テ置キタイト思フノデアリマス、ソレカラ其次ハ、第十二條カラ續イテ居ル第十三條デアリマス、第十三條ニ「議員ノ定數ハ五十人以内トシ、斯ウ書イテアリマスガ、是ハドウ云フ譯デ之ヲ五十人以内ト御定メニナツタノカ、其根本義ニ付テ御伺シテ置キタイト思フノデアリマス、是迄モ商業會議所法ニ依リマスルト、五十人以内トナツテ居リマシタ、此度ハ十二條ニ於テ、二ツノ選舉人ノ資格ガ現レテ居リマスルカラ、若シ此後ノ方ノ地區内ニ於ケル重要商工業ヲ代表セシムル爲ト云フ此モノヲ除キマスルト、至テ少クナルト思フノデアル、實際ハ五十人ニアラズシテ、或ハ四十人ニモ足ラナイヤウナコトニナル、或ハ四十人前後ト思フノデアリマス、是ハ大體此法案ノ趣旨ガ商工業ヲ愈、發展セシムル、自治體ノ發展ヲ御望ミニナルノデアラナラバ、是ハ少クトモ六大都市ノ如キ所ハ、ドウシテモ之ヲ六十人ニスル必要ガアルト云フコトヲ御認ニナレマセウカ、何故私ハ斯ウ云フコトヲ御尋スルカト申シマスレバ、此五十人カラ第二地區内ニ於ケル重要商工業者ノ代表ヲ除キマス、今日ノ六大都市ノ有シテ居ル實際ノ議員ヨリモ少クナルト思フノデアル、二十世紀ノ大勢ハ、大都市ニ多クノ者ガ集中スル傾向ヲ持テ居リマスルカラ、此商工會議所ノ如キハ、最も此ニ重キヲ置イテ、少クトモ五十万或ハソレ以上ノ大都市——先ヅ今日ノ日本カラ言ヘバ、六大都市ノ如キ所ハ、ドウシテモ六十人位置クト

云フコトガ、當然ノ事デナケレバナラヌト思フ、此ニ舊法ヲ脱シテ居ナイ、舊套ヲ脱シテ居ナイコトガ、此人數ノ制限ニ於テモ、何等舊法カラ改マツテ居ラスト云フコトガ明ノヤウニ思ハレルノデアリマス、此點ニ於テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ第十四條デアリマスガ、第十四條ハ「左ノ條件ヲ具フル者ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有ス」斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、而シテ此「帝國臣民」又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ナルコト但シ會社ニ在リテハ資本又ハ財産ノ目的トスル出資ノ半額以上及議決權ノ過半數ヲ有含ム」此事モ當然ナコトデ、舊法ト何等變リアリマセウカ、其第二ノ「商工會議所ノ地區内ニ於テ引續キ二年以上本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スルコト」、此二年ト云フコトハ何所カラ御割出シニナツタモノデアリマセウカ、今日ハ總テ選舉權ヲ擴張サレル時デアツテ、此法案ニモ其意味ハ含シテ居ルノデアリマスガ、然レニ商工業者ガ其土地ニ來テ二年引續イテ居ラナケレバナラヌト云フ理由ハ、ドウシテモ私ハ認メルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、當然是ハ滿一箇年以上其地ニ居ルモノデアツタナラバ、此權利ヲ御與ヘニナルト云フコトガ、此法案ヲ新ニ爲サル、擴張サレル大趣意デナケレバナラヌト思ヒマス、此點ニ付テモ、政府ハ何ガ故ニ之ヲ二年ト御切リニナツタカ、明確ナ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラズツト先ニ行キマシテ、二十五條ノ項目ノ中ニ借入金ト書イテアリマスルガ、第四項目、政府ハ此商工會議所ニ借入金ト云フ項目ヲ御置ニナラナケレバナラヌト云フ御考ハ、何所カラ起ツタカト云フコトヲ聞キタイノデアリマス、申スマデモナク在來ノ商業會議所モ、餘リ借入金ナドヲ多ク持テ居ルモノハナカラウト思フノデアリマス、借入金ヲスルヤウナ場合ハ、ドウシテモ主務大臣ノ許可ヲ受ケル必要ガアラウト思フ、或ハ其營造物ト云テモ、會議所ノ建物位ヲ拵ヘルノデアラウ

ト思ヒマス、其他ニ殆ド商業會議所ハ借入金ヲシテ事業ヲ爲スヤウナ必要ハナカラウト思ヒマス、此點ハドウ云フ必要カラ此法案ヲ御拵ヘニナルノ、借入金ト云フ項目ヲ御置ニナツタカ、何ノ必要ガアツテ御置ニナツタコト云フコトヲ承テ置キタイト思ヒマス、ソレカラ其五項目ニ「顧問ノ選任又ハ解任」トアリマスガ、是ハ在來ノ商業會議所ノ特別議員ノ制度ヲ廢メテ、顧問ヲ置クト云フ制度ニ御變ヘニナツタモノト思フノデアリマス、何故ナラ新法ニハ特別議員制度ガ一ツモアリマセウカ、併ナガラ此顧問ト特別議員トノ權限ハ大ニ違フト思フ、在來ノ特別議員ヲ置クコトニ之ヲ復活スル必要ヲ御認ニナラヌカ、顧問ト云フ名前ト特別議員トノ區別ハ如何、是モ承テ置キタイト思ヒマス、サウシテ二十六條ノ貴族院デ修正ニナツテ居リマスル、頁ノ終リカラ二行目ニ「前條第二項第一號及第四號」ト云フヤウニ、四號ト云フ字ガ加ヘラレテ居リマス、是デ政府ハ御同意ニナツテ居ルヤウデアリマスケレドモ、是ハ借入金ガ必要デナイナラバ、何モ斯ナ必要ハナカラウト思ヒマス、借入金ヲ置クト云フ根本義ニ於テ疑問ガアリマスカラ、此事ガ明瞭ニナレバ、或ハ必要ガナイナラバ、其四號ノ貴族院ノ訂正ハ、何等意味ヲ爲サヌモノデアラウト、私ハ思フノデアリマス、ソレカラ曩ニ木暮君モ御尋ニナリマシタガ、二十八條ノ問題デアリマス、二十八條ハ特ニ會頭又ハ副會頭ニ限テ議員以外ノ者カラ之ヲ選任スルコトヲ得トアル、是モ矢張政府委員ハ御答辯ニナツタ如ク、法ノ精神ハ自治體デアルカラ、無論議員ノ中デ會頭、副會頭ヲ選ブコトハ當然デアル、サウシテ貴ヒタイノデアル、サウシテ除外例ノ如ク何カノ場合ニ差支ガ起ツタ時ニ、斯ウ云フ者ヲ置ク便法ノ爲ニ置イタカノ如キ御答辯デアツタ、是ハ私ハ甚シキ誤解デアルト思フノデアリマス、此自治體ヲシテ、マルデ自治體ノ其權限ヲ破毀スルモノ、破壞スル所ノ法律デアルト思フ、苟モ選舉人ガ自分等ノ選ンダ所ノ議員ニ依テ會議所ヲ拵ヘルモノデア

テ、而シテ商工會議所ナルモノハ、決シテ他カラ容喙ヲ受クベキモノデナクテ、商工會議所ノ議員ノ會議所デナクテバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ其議席ヲ持タナイ、又議決權ヲ持タナイ、何等ノ權限ノナイ會頭、副會頭ヲ他カラ備テ來ルト云フヤウナコトハ、時代ニ最モ齟齬シテ、殊ニ自治權ヲ無視シ、破壞スル所ノ愚案デアリカノ如ク、私ハ考ヘルノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ、貴族院デモ、此事ニ付テハ多少委員會ヲ異論ガアツタヤウデアリマスガ、既ニ御研究ニナッテ、衆議院ニ於テハ之ヲ御取リニナル御考ハナイカ、之ヲ確メテ置キタイト思ヒマス、終リニモウツツ伺テ置キタイコトハ、舊法ニ依リマス人頭稅ニ依テ選バレタ所ノ法人ノ重役ガ、之ニ今度ハスツカリ取ラレテ居リマスノデアリマスガ、會社重役ニ議員ノ選舉權ヲ與フルト云フコトハ、如何ナルコトニ差支ガアリマスカ、之ヲ伺テ置キタイ御存知ノ通りニ現在ノ商業會議所ニ於テ、各法人ノ重役ガ議席ヲ持テ居ルト云フコトハ、實ニ大切ナル故ガアルト思フノデアリマス、何故ナラバ商業ノ發達ヲ來サシメル所ノモノハ、十分其業ニ精通シ、經驗ガアリ、又其業ノ前途或ハ從來——過去、現在、未來ニ於テ相當ナ抱負經驗ノアル者ガ之ニ任ズルト云フコトハ、此業ヲシテ發達セシムル所ノ大ナル分子デナクテバナラヌト思フ、然ルニ政府ハ之ヲ御變ヘニナツタ、サウシテ是ノ權利ヲ奪テシマハレタト云フコトハ、如何ナル理由デアリマセウカ、或ハ政府ハソレハ二重ニナル、今度ノ新法ニハ法人ノ選舉權ヲ許シテ居ルト云フコトハ、而シテ此新法ニ許シテ居ルト云フコトハ、何等ノ新味モ何ニモナイ、舊法ニモ法人モ矢張選舉權ハアツタノデアリマス、サレバ之ヲ二重ニナルト云フヤウニ疑ヒニナルコトハ、那邊カラサウ云フ疑ヒガ起リマシタカ、貴族院ノ多額納稅者モ矢張二重ニ之ヲ選ブコトガ出來ルヤウニナッテ居ルノデアリマス、故ニ其業ニ多クノ經驗ガアリ、多

クノ負擔ヲスル所ノ者ガ、當然法人重役トシテ選舉權ヲ持ツタ所デ、何等差支ガナイノミナラズ、寧ろ口ハサウ云フ者ニ權利ヲ與ヘルコトガ至當デハナカラウカト、私ハ思フノデアリマス、之ヲ御變ヘニナツタ所ノ根本義ガ、非常ナ強イ議論ガナイ以上ハ、既ニ商業會議所聯合會ガ此點ニ付テハ、是非復活ヲシテ貫ヒタイト云フ意見書モ出シテ居ルコトデアリマスカラ、私が縷々申上ダナクテモ、政府ハ此點ハ十分御覽ニナッテ居ルコトデアラウト思ヒマスカラ、是ハ復活爲サル御意思ハナイカドウカ、此點モ確メテ置キタイト思フノデアリマス、他ハ委員會ニ讓リマスガ、今御尋申シタ趣旨ヲ明瞭ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○議長(粕谷義三君) 野村政府委員

○野村嘉六君 只今森田君ハ八項ニ分ケテ御質問ニナリマシタ、隨ヒマシテ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、本案ヲ草案スル時ニ、商業會議所ノ意見ヲ徵シ、即チ商業會議所ニ諮問シテ立案シタルデアアルカ、自分ノ見ル所ニ依ルト云フト、諮問シ或ハ意見ヲ徵シタ點ガ無サ、ウニ考ヘルト云フ第一ノ御質問デアツタノデアリマス、此點ニ對シマシテハ當局ハ商業會議所ニ對シマシテ、全部トハ申シマセウカ、大體ニ於テ諮問ヲ致シタルデアリマス、サウシテ其答申ノ最モ適當ナルモノ、宜シイモノナリト信ジタ點ハ、此改正案ニ書イテ居ルノデアリマス、而シテ此各條中、下ノ點ガ諮問ニ依テ材料ヲ得タカト云フ個々ノ點ニ對シマシテハ、是ハ何レ委員會ニ於テ申上グル考デアルノデアリマス、ソレカラ第二ニハ、第八條ノ改正、此點ニ對シマシテハ、既ニ本幕君ニ御答致シテ置キマシタルデアリマスカラシテ、アノ質問ヲ以テ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ更ニ機能ヲ發揮セシムル上ニ於テハ、寧ろ會員組織ガ宜シイデハナイカト云フ御意見モアツタノデアリマス、併ナガラ明治十年初メテ商業會議所ヲ起シマシテ以來、會員組織デナクシテ今日ノ法律ヲ以テ、商業會議所ノ機能ガ發

達シツ、アツタノデアリマス、之ニ對シテハ相當ノ歴史モアリマス、又沿革モアリマス、今之ヲ連ニ英米ニ倣フ會員組織ニ變更スルト云フコトハ、其當ヲ得ナイト考ヘルノデアリマス、第十三條ノ五十人トシタルハ不當デアアル、今少シク人員ヲ増スト云フ案ヲ採ラナクツカ、隨テ改正ニナラヌデハナイカト云フ御説デアリマスガ、當局ニ於キマシテハ、必要ナ點ヲ改正スル考デアリマスガ、諸君事實ニ付テ見マスルト云フト、今日日本ニ於キマシテ、七十七箇所ノ商業會議所ガアルノデアリマス、此中五十八人以下トシテアリマスケレドモ、其實五十二箇所必要デナクシテ、三十人ノ箇所簡所モ相當ニアルノデアリマス、漸ク五十人ノ所ガ東京外三四縣シカナイノデアリマス、サウ致シマスレドモ、其實五十人マデ必要デナイコトガ、一般的ニ推測サレルノデアリマス、當局ニ於テ立法致シマスル以上ハ、否、原案ヲ作リマス時ニハ、總テノ點ヲ觀察致シマシテ、七十七箇所ノ中五十二箇所マデハ三十人程度デアリマス、以上ハ更メテ今日ノ五十人ヲ六十人ニ改正スルコト云フコトハ、事實ニ於テ當ヲ得ナイモノナリ、必要ノナイモノナリト考ヘタ結果、此點ヲ其儘ニ致シタル次第デアリマス、ソレカラ第十四條ノ點ニ對シテ、引續キ二箇年以上營業ニ從事シタル者トアルノハ、ドウ云フ考カラ斯クシタカト云フ御尋デアリマスガ、御承知ノ通りニ商工會議所ハ、商業ニ從事シテ居ル人ノ利益ヲ發達セシムル爲ニ、一ノ自治體ヲ組織シテ助長機關ヲ拵ヘルノデアリマス、隨ヒマシテ商業工業者ト云フ特定ノ關係ガアリマスカラシテ、今日甲ノ地ニ居テ商業ヲ爲シ、明日乙ノ地ニ引越サウナ連中ヲ直ニ有權者ニスルト云フコトハ、如何ナモノデアリマセウカ、其地利害關係ヲ等クシテ、其地方ノ狀況ニ精通シ、又將來其地方自治ニ貢獻スルト云フ茲ニ觀念ガ必要デアラウト思ヒマス、仍テ先ヅ大體ニ於テ二箇年以上ト致シタ次

第デアリマス、然ラバ其基準點ハ何所ニ在ルカト、斯ウ申シマスルト云フト、今日ノ市町村ノ選舉ニ於キマシテモ、二箇年以上同一土地ニ於テソレノ關係ヲ持タナクテバ、公民權ト云フ地位ヲ得ナイヤウナ次第デアリマスカラシテ、是等他ノ法律ヲ參酌致シマシテ定メタルヤウナ次第デアリマス、ソレカラ第五ニ借入金——一體商業會議所ハ、借入金ヲスル場合ガアルカ、サウ云フ場合ガナイデハナイカ、併ナガラ他國ニ於テハ、現ニ工場マデモ持テ居ルト云フ御意見デアリマシタガ、今日ノ商業會議所ニ於キマシテ、大ナル營造物ハ持テ居リマセウカ、兎ニモ角ニモ或ハ博物館トカ、陳列館トカ云フ營造物ヲ所有シテ居ル所ハ、間ミアルノデアリマス、隨ヒマシテ此商工會議所ノ自治ノ機能ヲ發揮セシムル必要上或ハ借入金ヲシテ、サウシテ是等ノ目レ達成セシムル必要ガナイトハ限ラヌ、ソレデアリマスカラシテ此所ニ借入金ト云フコトヲ書イタルデアリマス、而シテ此借入金ニ對シマシテハ、商工會議所本來ノ使命トハ申サレスカモ知レヌノデアリマスカラ、成タク嚴重ニスル、貴族院ニ於キマシテハ此點ニ對シテハ、議員三分ノ二以上出席シテ、サウシテ議決權ニ對シテモ其三分ノ二ト云フコトヲ修正ガアツタノデアリマス、是ハ一面ニ於テハ、商工會議所ノ費用ハ強制徵收デアリマス、斯ウ云フ強制徵收ト云フ一ツノ強制的ノ義務ヲ負ハセマス以上ハ、成タク嚴重ニ、本來ノ使命トハ幾分隔テ居ルヤウナ借入金ニ對シマシテハ、三分ノ二以上ヲ以テ決議スル、議事ヲ重大ニスルト云フコトモ當然ナリト考ヘマシテ、本案ヲ作リ、又貴族院ノ修正案ニ賛成シタルヤウナ次第デアアルノデゴザイマス、ソレカラ第六ニハ、更ニ顧問制度ヲ設ケタルハ如何、特別議員ト云フ制度ヲ廢シテ顧問制度ヲ設ケタルハ、其趣旨ガ分ラヌト云フヤウナ御話デアリマシタガ、今日ノ實際ニ於キマシテハ、特別議員ト云フモノハ、相當ニ商業會議所ノ議員ヲ勤メ、殊ニ地位、名望、經驗ノアル者ヲ以テ其任ニ當テ、居ルノデアリマ

スルガ、併ナガラ實際ニ於キマシテハ、議決權ヲ行使スルコトハ餘リ少イ、ソレヨリハ寧ロ地位、經驗、サウシテ先輩ト云フヤウナ、其地位モ信用スベキ人ハ、顧問トシテ絶エズ商工業ノ問題ニ對シテ、是等ノ人ニ就テ意見ヲ聽キ、指導助長ノ助ケニシテ方ガ却テ宜クアリハセヌカ、單ニ議決機關ニ參與セシムルバカリデハ、或ハ特別ノ知識又ハ經驗アリ先輩ニ對スル禮儀上カラ申シマシテモ、實效ヲ舉グル上ニ於キマシテモ、寧ロ顧問制度ニシテ方ガ宜シイ、斯ウ云フ考カラ、今度顧問制度ニシテヤウナ次第デゴザイマス、ソレカラ會頭、副會頭ニ對スル御質問デアリマスルガ、是ハ先程本基君ニ御答シタ通りデアリマスカラ、私ハ再ビ申上ダマセヌ、ドウゾアレヲ以テ御諒承ヲ願ヒタイ、ソレカラ更ニ人頭稅、此點ニ對シテ今日ノ兩業會議所ハ、御承知ノ通りニ法人ニ選舉權並ニ役員ニナル資格ヲ與ヘテアル、其上ニ法人ノ重役ナルガ故ニ、更ニ選舉權並ニ被選舉權ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、私ハ其法人ナルモノガ、既ニ代表權ヲ有シ、議員選舉權ヲ有シテ居ル以上ハ、其執行機關トモ申スベキ重役ニ、更ニ權利ヲ與ヘルト云フコトハ、論理上如何ニシテモ其當ヲ得ナイモノナリト思フノデアリマス、ト申シマスノハ、法人トシテ營業シテ居ルモノハ既ニ法人トシテ代表サレテ、サウシテソレノ利害關係ノ意思表示ガ出來ルノデアリマス、其上ニ又執行機關マデニ選舉權並ニ被選舉權ヲ與ヘルト云フコトハ、論理上ノ矛盾ノミナラズ、事實ニ於テモ其當ヲ得ナイモノナリト思フノデアリマス、是ニ於キマシテ今回ハ世ニ謂フ人頭稅ヲ廢シテ、其會社ノ利害ニ對シテハ、其會社ヲ代表スル人ヲシテ選舉セシメル、又役員タル資格ヲ得セシメルヤウニシタ次第デアリマス、簡單デアリマスガ、第一項カラ八項ニ互リマシテ、答辯ヲ致シテ置キマス

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○井本常作君 本案ハ議長指名、特ニ二十八名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシター 日程第三、鑛業法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長増田義一君

第三 鑛業法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 鑛業法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二年三月十五日
委員長 増田 義一

衆議院議長粕谷義三殿
〔増田義一君登壇〕
○増田義一君 鑛業法ニ於テ、鑛業權所有者ニ對シテハ鑛業稅ヲ課スルカラ、營業稅ヲ課セズト云フコトニナシテ居リマス、所ガ大正十五年三月營業收益稅ヲ制定セラレマシテ、營業稅ガ廢止ニナッタノデアリマス、所ガ獨リ樟太ノミハ此營業稅ガ殘ラテ居ルノデアリマス、其結果ト致シマシテ、鑛業權所有者ニ對シテハ、營業稅ト共ニ營業收益稅ヲ免除スルト云フコトニナラナケレバ、首尾貫通シナイコトニナリマス、ソユデ鑛業法第八十二條ヲ「鑛業權者ハ其鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス」斯ウ云フコトニ修正ニナルノデアリマシテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シマシテハ、何等發言ノ通告ガアリマセヌ、仍テ直ニ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○井本常作君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決セラレシコトヲ望ミマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

鑛業法中改正法律案 第二讀會(確定議)
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレマシタ
○井本常作君 議事日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、此際日程第二十三乃至第二十七ノ各案ヲ繰上ダテ議題ト爲シ、逐次委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス
〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二十三、京都市ニ關スル法律案、日程第二十四、橫濱市ニ關スル法律案、日程第二十五、大阪市ニ關スル法律案、日程第二十六、神戸市ニ關スル法律案、日程第二十七、名古屋市ニ關スル法律案、右各案ヲ一括シテ第一讀會ヲ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長森田茂君
第二十三 京都市ニ關スル法律案(森田茂君外四名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第二十四 橫濱市ニ關スル法律案(平沼亮三君外二名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第二十五 大阪市ニ關スル法律案(武藤山治君外十一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第二十六 神戸市ニ關スル法律案(折原巳一郎君外二名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十七 名古屋市ニ關スル法律案(加藤鐵五郎君外一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 京都市ニ關スル法律案(森田茂君外四名提出)
一 橫濱市ニ關スル法律案(平沼亮三君外二名提出)
一 大阪市ニ關スル法律案(武藤山治君外十一名提出)
一 神戸市ニ關スル法律案(折原巳一郎君外二名提出)
一 名古屋市ニ關スル法律案(加藤鐵五郎君外一名提出)
右ハ本院ニ於テ五案ヲ併合シテ一案ト爲シ表題ヲ「京都市大阪市名古屋市神戸市及橫濱市ニ關スル法律案」ニ改メ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二年三月十一日
委員長 森田 茂

〔別紙〕
第一條 京都市、大阪市、名古屋市中、神戸市及橫濱市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス
第二條 京都市、大阪市、名古屋市中、神戸市及橫濱市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令若ハ慣例ニ依リ府縣若ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス
第三條 京都市、大阪市、名古屋市中、神戸市及橫濱市ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ交通衛生消防其ノ他保安ニ關スル警察事務ヲ處理ス
第四條 市中稅ノ賦課ニ關スル規定ノ外府縣稅ノ規定ヲ準用ス
從來府縣ニ於テ賦課スル賦金ノ徵收ニ付テハ市稅ニ準シ市ニ於テ之ヲ賦課シ其ノ支辨ハ從來ノ規定ニ據ル
第五條 京都市、大阪市、名古屋市中、神戸市及橫濱市ハ內務大臣之ヲ監督ス第六條 市中府縣知事又ハ府縣參事會

○議長(粕谷義三君) 是ニテ質疑ヲ終リマシタ、日程第二、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

告ナルモノハ、委員會ニ於キマシテハ一致

第二讀會(定議)

テ順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス

右建議ス

樺太ノ拓殖促進ニ關スル建議案理由書
樺太ハ領有以來二十二年ノ歳月ヲ閱シ逐年相當ノ發達ヲ見ツアルモ廣袤二千三百三十九方里ノ土地ニ於テ人口僅ニ二十萬人農耕既墾地一萬八千町歩生産總額六千萬圓ニ過キス如キハ地理的關係ニ支配セラレルノ廉ナキニ非サルモ主トシテ政府ノ樺太拓殖ニ關スル對策ハ既往及現在共ニ姑息ニシテ植民地經營上其ノ施設至テ貧弱ナルニ依ル今ヤ我カ邦ハ人口食糧ノ二問題ニ逢著シ之方解決ハ最重要ナル國策タリ此ノ際ニ際シ内地人ノ移住ニ適シ海ニ陸ニ資源豐富ナル樺太ノ拓殖ヲ現下ノ狀態ニ放置スルハ斷シテ當ヲ得タルモノト謂フヲ得即チ政府ヲ當リテ彼ノ地無人ノ野ニ人口ヲ移植シ北方開發ノ促進ヲ期スルカ爲ニ根本方策ヲ立テシムルノ急要ヲ認ム是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

〔竹内友治郎君登壇〕

○竹内友治郎君 樺太ノ開拓促進ニ關スル建議案ノ趣旨ヲ暫ク説明スルノ御許ヲ請ヒマス、本案ハ各派一致ノ提案デゴザイマシテ、又賢明ナル諸彦ハ此必要ヲ十分御承知ノ所デゴザイマスルガ、私ガ殊ニ茲ニ一言御説明致サナクバナラヌコトハ、本案ハ樺太ニ於ケル二十二万ノ在住民ガ舉ゲテ熱心ニ希望シテ居ル所デアリマス、然ルニ御承知ノ通り樺太ハ法制上此立法部ニ於テ適當ナル代表者ヲ持テ居リマセヌノデアリマス、不十分ナガラ私カラ代テ之ヲ御説明シナクバナラヌコト云フコトデアリマス、樺太在住二十二万人ハ、實ニ全ク自己ノ力ヲ以テ今日マデ開拓シ來タ剛健敢爲ノ人メデアルノデアリマス、此熱烈ナル二十二万ノ希望ト云フコトヲ滿場御承知下サイマシテ、何卒此案ヲ詳細御審議上、御賛成アラント切ニ希望スル次第デゴザイマス
○井本常作君 兩案ヲ一括シテ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異

議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次ハ日程第四、商法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者三浦數平君
第四 商法中改正法律案(三浦數平君提出)
商法中改正法律案 第一讀會
商法中左ノ通改正ス
第五百三十四條第一項中「其年月日ヲ小切手」ノ下ニ「又ハ其補箋」ヲ加フ
〔三浦數平君登壇〕

○三浦數平君 只今上程ニナリマシタ商法中改正法律案提出ノ理由ヲ一言致シマシテ、皆様ノ御賛成ヲ仰ギ、本案ノ成立ヲ希望致シマス、改正ノ要點ハ現行商法第五百三十四條第一項ノ小切手所持人ガ、其前者ニ對スル求償權ノ保全及行使ヲ完全ナラシメル意味ニ於キマシテ、現行商法ノ規定ハ同條第一項ニ於キマシテ、其小切手所持人ガ支拂人ノ拒絕ニ會ヒマシタ場合ニ、其拒絕ノ旨ヲ小切手面ニ記載セシメルコトニ限定ヲサレテ居ルノデアリマス、此點ハ約束手形及爲替手形拒絕ノ場合ニ、拒絕證書ノ作成ニ代ヘタ一便法デゴザイマスルカラ、是等ニ比シマスルト、小切手ノ實際取引ハ非常ニ便宜ニナリテ居ルヤウデアリマス、尙且ツ實際ノ取引ヲ見マスルト、多クハ小切手ニ附箋ヲ附シマシテ、ソレニ支拂拒絕ノ旨及年月日ヲ記載セシメ、且ツ署名セシムルヲ以テ足ルト相成テ居リマス、此附箋ニ支拂拒絕ノ旨ヲ記載セシメキマシテハ、之ヲ無効ト爲シテ居ルノデアリマス、是ハ現行商法ハ折角ニ斯ル便法ヲ設ケタルニ拘ラズ、實際ノ取引ガ斯ル附箋ヲ以テヤッテ居ル爲ニ、手形所持人ノ求償權ヲ無効ヲラシメルト云フコトガ、商慣習ヲ無視致シテ居ルヤウナ嫌ガアルヤウニ思フノデアリマス、現ニ關西地方ニ於ケル在野法團體ハ、此不便ヲ救済致シマスルガ爲ニ、附箋ヲ附シテ其拒絕ノ旨ヲ附箋ニ記載セシメテモ、又手形面ニ記載セシメテモ、其自由擇一二委セルコトガ商慣習ニモ

適ヒ、又實際上ノ取引ニモ便利ナリト致シマシテ、商法ノ改正ヲ要望致シテ居ルコトハ、頗ル切デアルノデゴザイマス、本商法ノ實施以來今日マデ年月ヲ經テ居リマス、其間實例ニ依リ、實際ノ取引ニ微シ、斯ク改正スルコトガ商慣習ヲ尊重シ、又小切手ノ運用ヲ滑カナラシムル點ニ於テ、最も緊切ナルヲ認メテ、本案ヲ提出シタ次第デゴザイマスルカラ、茲ニ重ネテ各位ノ御賛同ヲ仰ギ、本案ノ成立ヲ切ニ祈ル次第デアリマス(拍手)
○井本常作君 本案ハ土屋清三郎君提出、人ノ資格ニ對スル破産ノ效果ニ關スル法律案外一件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトノ動議ヲ提出致シマス
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次ニ日程第五乃至第八ハ、同種ノ議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、恩給法中改正法律案、日程第六、同様ノ案デアリマス、日程第七、第八モ同様ノ案デアリマス、右各案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、日程第五ニ付テ提案者長峰與一君
第五 恩給法中改正法律案(長峰與一君外三名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス
第九十一條第一項中「加算ス」ノ下ニ「在外指定學校職員其ノ職務ヲ以テ外國ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキ亦同シ」ヲ加フ
附則
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六 恩給法中改正法律案(松實喜代太君外三名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、恩給法中改正法律案、日程第六、同様ノ案デアリマス、日程第七、第八モ同様ノ案デアリマス、右各案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、日程第五ニ付テ提案者長峰與一君
第五 恩給法中改正法律案(長峰與一君外三名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス
第九十一條第一項中「加算ス」ノ下ニ「在外指定學校職員其ノ職務ヲ以テ外國ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキ亦同シ」ヲ加フ
附則
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六 恩給法中改正法律案(松實喜代太君外三名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス

第三百三條第一項中「屯田兵ノ現役」ノ下ニ「及之ニ準スヘキ屯田兵ノ服役」ヲ加フ
附則
本法ハ大正十二年十月一日ヨリ本法ニ該當スヘキ者ニ之ヲ適用ス
第七 恩給法中改正法律案(一柳仲次郎外六名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス
第三百三條第一項中「屯田兵現役」ノ下ニ「及之ニ準スヘキ屯田兵ノ服役期間」ヲ加フ
附則
本法ハ大正十二年十月一日ヨリ本法ニ該當スヘキ者ニ之ヲ適用ス
第八 恩給法中改正法律案(山折儀重君外八名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案 第一讀會
恩給法中左ノ通改正ス
第九十九條第二項中「教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲グル在職年トノ間ニ付亦同シ」ヲ削ル
〔長峰與一君登壇〕

○長峰與一君 恩給法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、在外指定學校ノ教育職員ハ、海外ニ於ケル居留民ノ童兒ノ教育ニ從事致シマスル重要ナル職務ヲ有スル者デアリマシテ、僻遠ノ地、不健康ノ地域、時ニ或ハ危險ナル地域ニ於テ、是等ノ勤務ニ從事シテ居ル者デアリマシテ、是等ノ待遇ニ付テハ、特ニ厚キヲ加ヘテ酬インケレバナラヌト思フノデアリマス、是ハ今日我カ國民ガ海外發展ヲ以テ第一義ト致シマスルニ於テハ、特ニ留意シナクバナラヌ問題デアリマス、然ルニ是等ノ教育職員ハ、身上ノ安固ヲ圖リマスル恩給ノ恩典ニモ、十分ニ浴スルコト能ハズシテ、是ト略、同様ノ境遇ニ在リマスル植民地、即チ臺灣、朝鮮、樺太等ノ教職員ニ對シテ、恩給ノ加算法ノアルノニ比シマスルバ、不權衡モ甚シト謂ハナクバナラヌノデアリマシテ、是等ハ海外ニ於ケル國民教育ノ阻碍トナリ、又國民海外發展ノ銳鋒ヲ鈍ラシムル所ノ基トナ

ルト存ジテ居ル次第アリマス、是等ノ缺陥ヲ補フ爲ニ、本法案ヲ提出致シタ所以デアリマスガ、殊ニ此法案ハ山口政二君ガ熱心ナル提案者デアリマシタガ、同君突如御逝去ニナリマシテ、私ガ代テ説明申上ダタルノデアリマシテ、足ラザル點モアラウト思ヒマスケレドモ、速ニ御賛成ヲ得テ、成案ヲランコトヲ希望スル次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第六ニ付テ松實喜代太君

(松實喜代太君登壇)

○松實喜代太君 只今議題ニ供セラレタ恩給法ノ改正案ハ、元北海道ノ屯田兵豫備役ニ對スル恩給ノ恩典ニ浴セラレンコトヲ希望スル法律案デアリマスガ、此屯田兵ノ豫備役ニ恩典ヲ給スルト云フ事ニ對シテハ、詳細ニ御説明ヲ申上ダナケレバ、頗ル諒解ニ苦ム點ガ多クデアル、即チ若シサウナレバ師團ノ豫備兵ハドウスルカト云フコトニモナリマス、又既ニ屯田兵ノ現役ニ恩給ヲ與ヘラレテ居ルノデアアルガ、此現役ト豫備役トノ關係如何ト云フ問題ニ觸レテ來ルノデアリマス、只今申シマシタヤウニ、此問題ハ詳細ニ説明シナケレバ御諒解ヲ得ナイト思ヒマスガ、茲ニ私ハ草稿ヲ持テ來テ、只今諸君ノ御清聴ヲ煩ハス積リデアリマシタガ、時間ヲ取リマスルカラ、議長ノ御許ヲ得テ之ヲ速記ニ留メテ戴キタイト思ヒマス、殊ニ此事ハ貴族院ニモ、無論本院ヲ通過スレバ送付サレノデアリマスカラ、其詳細ガ貴族院ノ方ニモ、此速記ニ依テ御諒解ヲ得ナケレバナラヌト云フ關係モアリマスルカラ、ドウカサウ御願致シタイト思ヒマス

(參照)

本法案ハ北海道ノ元屯田兵豫備役ニ服シタル者ニ恩給ノ恩典ニ浴セシメントスル法案デアリマス北海道ノ元屯田兵ハ明治八年ニ設置セラレテ以來同三十七年廢止ニ至ルマデ三十年間此ノ長キ間ニ於テ一面ニ於テハ北門警備ノ任ニ膺リ軍務ニ服シ他面ニ於テハ開拓ノ先驅ト爲リ樵薪荆

棘ヲ斫リ開キ耕耘ニ從事シ所謂兵農兩全ノ任務ヲ盡クシ、國家ニ對シ多大ノ貢獻ヲ爲シタルノミナラズ日清日露ノ兩役ニ從軍シ偉大ナル勳功ヲ奏シタルノデアアルニ屯田兵ハ食費其他僅カナル給與ヲ與ヘラレタル爲ニ特別ノ任務ニ例令ハ靴工、縫工ノ如キ……ニ服シタルモノハ別トシテ一般屯田兵服務期間ハ恩給年限ニ加算セラレナカッタノデアリマス而シテ大正十二年即チ第四十六議會ニ於テ一般恩給法改正案ガ提出セラレタル際ニ於テモ政府原案ニハ矢張元屯田兵ニ恩給ヲ與フルコトハナカッタノデアリマス私ハ深く此事ヲ遺憾ニ思ヒ同志ノ諸君ト共ニ原案ヲ修正シテ一般屯田兵ノ服務期間ヲ恩給年限ニ加算スルコトニ努力シタル結果トシテ屯田兵ノ現役期間ヲ恩給年限ニ加算スルコトニ政府ハ同意ヲ表セラレ其一部分ハ目的ヲ達スルコトヲ得タノデアリマスルガ豫備役ヲ恩給年限ニ加フルコトハ政府ガ同意シナカッタノデアリマス其ノ理由ハ一ハ現役ト豫備役ト名前ニ拘ハレタルコト、今一ツノ理由ハ若シ屯田兵ノ豫備役年限ヲ恩給年限ニ加フルコトナセバ他ノ師團ノ豫備役ト均衡ヲ失スルト云フノデアリマス當時私ハ恩給法改正案ノ特別委員デアリマシタカラ委員會ニ於テ屯田兵豫備役ニモ恩給ヲ與フルコトノ動機ヲ提出シタルノデアリマスシナカッタノデアリマス斯様ナ次第遺憾ナガラ本問題ハ取り殘サレタルノデアリマス故ニ本法案ノ必要ナル所以ヲ説明スルニハ第一ニ屯田兵ノ現役ト豫備役トノ服務ハ何等相異ナカリシコト第二ニ屯田兵豫備役ト師團豫備役トハ全然相違シテ居ルコトノ二點ニ就キ説明スルノ必要デアリマスルカラ今茲ニ申上ダテ諸君ノ御參考ニ供シタイト思フノデアリマス抑、モ元屯田兵制ハ一種特殊ノ制定ナリシヲ以テ其服役ノ實況モ又自ラ異ナツタノデアリマス故ニ之ヲ各師團ノ豫備役ト屯田兵現役同様ノ勤務ヲ爲セシ豫備役服務ノ實況トハ豫備ト云フ字句ハ同一デアアル

其制度、目的、組織、勤務等ニ至ルマテ全然異ニセラレ其間幾多ノ懸隔アリタルコトハ明白ナル事實デアリマス然ルニ大正十二年第四十六議會ニ於テ恩給法改正ノ際現役ハ恩給ノ恩典ニ浴スルヲ得タルモ此ノ豫備役ニ服シタル屯田兵ガ恩給ノ恩典ヨリ除外セラレタルハ其ノ事實ヲ審調精査セズシテ各師團兵豫備役ト一視セラレタル誤解ニ基キタルモノデアリマス又明治八年ヨリ同二十三年マデ屯田兵ハ現役豫備役、後備役ト云フ如キ役種ノ區別ヲ爲サズシテ唯單ニ屯田兵服役ト稱セリ而シテ大正十二年法律第四八號恩給法改正ノ屯田兵現役ニ服シタル公務員中ニハ此ノ屯田兵服役ヲ加ヘラレタルニヨリ長ク服役ノモノハ十六年間現役ト同様ニ加算セラレタルモ豫備役ハ除外セラレタルノ奇ナル現象ヲ呈スルニ至タノデアアル斯ノ如キ軋軋ヲ生ジ當年折角至誠公ニ奉ジタル豫備役屯田兵ノ勤務ヲ水泡ニ歸セシムルハ深甚ノ遺憾デアリマス今左ニ屯田兵豫備役ト師團兵豫備役ト異ナル重ナル事實並屯田兵現役ト同様ナリシ點ヲ列舉シ聊カ御參考ニ供セントスル次第デアリマス

一、屯田兵制ハ一種ノ家族制度ニシテ一家舉テ北門ノ警備ト北海道開拓ノ任ニ膺リタルモノニシテ所謂兵農兩ナガラ全フシタルモノデアアル
二、屯田兵ニ對シテハ當時扶助又ハ土地家屋等ヲ支給セシヲ以テ優遇セラレタルヲ唱フルモノナキニアラズト雖モ當時ハ獨リ屯田兵ノミナラズ唯單ニ拓殖政策上ヨリ募集セラレタル移民ニ對シテモ土地家屋並扶助等ヲ給助セル實例アリ而シテ軍務ノ拘束ヲ受ケサル自由移民ノ中ニハ多クノ成功者アルモ屯田兵ハ軍務ニ拘束セラレ自由ノ活動ヲ得ズ成功者少ナキハ爭フベカラザル事實デアアル
三、屯田豫備役中ハ現役ト共ニ常備軍トシテ軍隊編成下ニ屯營セシメラレタルモノナレバ恰モ各師團豫備役者ノ勤務

召集中ニ等シク服務セシメラレタルノデアアル
四、屯田兵司令官ハ訓示トシテ「屯田兵ノ豫備役ハ各師團ノ豫備役ト異ナリ特殊ノ制定ニ基クモノナレバ常ニ現役同様ト心得ベシ」トノ訓達ヲ爲サレタルデアアル
五、屯田豫備役中ハ屯田兵司令官ノ定期檢閱ハ勿論機動演習等ニモ參加シ又幹部中ヨリ選拔セラレ管外大隊ヘ新兵教育等ニモ派遣セシメラレタルデアアル
六、明治二十七年發令屯田兵司令官諭告中ニ「夫レ屯田兵ハ現役ト云ヒ豫備役ト稱セラルルモノ之共ニ常備軍ニシテ」云々トアリ此ヲ以テ見ルモ屯田豫備役ハ現役同様ノ趣旨ヲ以テ服務セシメラレタルヲ證據立ツルモノデアアル
七、豫備役中ノ各兵員ノ勤務實況左ノ如クデアリマス

イ、衛兵六箇中隊交々巡番勤務二十四時間交代司令上等兵一喇叭手一兵卒六計八名宛六日毎二各自ノ中隊ヨリ出勤ス歩哨ノ位置ハ營門一箇所火藥庫一箇所ノ二箇所ニシテ各一時間交代勤務シタルデアアル
ロ、大隊當番ハ大隊本部ニ出勤兩中隊ヨリ一人宛毎日二人出勤二十四時間巡番交代ヲ以テ服務シタルデアアル
ハ、中隊當番ハ各中隊本部ニ出勤各中隊毎二二人宛二十四時間巡番交代毎日大隊ヲ通シテ十二人宛出勤セシメタルモノデアアル
二、以上定例勤務ノ外使役トシテ必要ニ應ジ出勤セシメタルモノニシテ臨時必要ノ勤務ニハ更ニ不時使役トシテ出勤セシメタルモノデアアル
ハ、屯田兵後備役ニ編入セラレ始メテ軍隊組織ヲ解除セラレタルモ尙且各師團兵豫備役一同トノ旨ヲ屯田兵司令官ヨリ屯田兵後備役下士兵卒心得トシテ發布セラレタルモノニシテ以テ其ノ制度ノ一般ヲ知ルニ足ル、ノデアリマス

九、屯田兵服役條令ハ他ノ法令ニ照シ極メテ苛酷ニシテ嚴法ナリシヲ以テ後備役編入後ニ於テ右條令ニ依リ土地家屋等ノ沒收處分ヲ爲シタルモノ左ノ如クデアリマス

山形兵村 一 琴似兵村 七

新琴似兵村 六 篠路兵村 四

野幌兵村 四 江別兵村 一四

美瑛兵村 二 高志内兵村 一

茶志内兵村 一 釧路兵村 六

永山兵村 一 釧路兵村 一

東旭川兵村 一 輪西兵村 二〇

和田兵村 六四 太田兵村 二九

計百六十三戸ノ多キニ達シタルデアアル
十、屯田兵制度ハ創立當初服役年限モ定メズ永世服役トセシモ其後屢々改正セラレテ明治二十三年ノ改正ニ於テ軍事教育ノ方針一變シ現役三年豫備役四年後備役十三年ノ二十箇年ト制定セリ而シテ現役後豫備役ト通シテ七箇年間ヲ常備軍トシテ陸軍中少佐ノ大隊長ノ下ニ各中隊ニハ陸軍大尉ノ中隊長ヲ駐屯セシメ中隊ハ之ヲ四區ニ分チ各小隊ニハ陸軍中少尉ノ小隊長ヲ各受持區ニ駐屯セシメ監督セラレタルモノニシテ當時ノ實況ニ於テハ恰モ兵屋ハ各師團ノ兵營ト心得兵村ハ營内區域ト心得ヘシトノ旨ニ屯兵セシメラレタルデアリマス而シテ後備役ニ編入セラル、ヤ茲ニ始メテ軍隊組織ヲ解除セラレ監督將校ハ何レモ他隊ニ轉任セラレ兵事務ノ一切ハ兵村監視ニ引繼キ一般行政事務ハ戶長役場ニ引繼ガレタルデアリスノ如ク現役同様ニ將校ヲ駐屯監督勤務セシメタル事實ニ徴シテモ豫備役中ハ當然現役ト認ムヘキハ正當ノ理由ヲ有スルノデアリマス

十一、屯田兵下士卒心得ヲ見レバ如何ニ屯田兵ノ服務規律ガ嚴格ナリシカノ一斑ヲ知ルコトヲ得ルノデアリマス今左ニ其ノ概要ヲ申述ベ御參考ニ供セントスルノデアリマス
イ、屯田兵ハ常ニ給與ノ兵屋ニ居住シ

兵農ニ從事スルモノナリ左レバ軍事ヲ情リ農事ヲ勵ムマスシテ召集ニ應セ給與ノ土地ヲ荒蕪ニナシ置ク等召集ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサル時ハ給與ノ土地運物ヲ沒收セラルヘキニヨリ常ニ其心得肝要タルヘシ
ロ、屯田兵ノ後備役ハ各師團ノ豫備役ト同シク有事ノ日ニハ第一ニ召集セラルヘキモノナレバ常ニ其覺悟アルヘキハ勿論召集ノ命アレハ速ニ出サレタル時刻ニ其地ニ到著スルヤウ諸事油斷ナク兼々心掛肝要タルヘシ
ハ、屯田兵服役年令ハ滿十七歳ヨリ下士ハ四十五歳兵卒ハ四十歳迄トス故ニ其年令ニ達スレバ退役スルモノナレハ其旨大隊區司令官ニ届出ルモノトス

ニ、屯田兵ハ移住以來二十箇年兵役ヲ帶ヒルモノナレバ死亡又ハ年令滿限ニ達セシトキ傷病若クハ疾病ニテ兵役ヲ免セラルトキハ其旨監視區長ニ届出テ家族中適當ノ男子ヲシテ兵役殘期ノ相續者ヲ定メ屯田兵司令官ニ願出ヘシ若シ該相續者幼弱ナルトキハ滿十七歳ニ達スルトキ兵役相續ヲ願出ヘシ
ホ、年令滿期ニ達セサルモノニシテ止ヲ得サル事故アリ家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ヲ相續セシメントスル者ハ屯田兵司令官ノ許可ヲ受クルモノトス

以上列舉セシ事實ノ外其當時ノ屯田兵ノ隊長並ニ關係將校即チ陸軍歩兵中佐橋内元吉、元第七師團副官陸軍歩兵中佐大塚嘉輝、陸軍歩兵大佐野崎貞次、陸軍少將渡邊水哉並ニ屯田兵團參謀長陸軍大將男爵淺田信興諸氏ノ證明書等(此等ノ證明書ハ第五十一議會ニ於テ東代議士ノ演說中ニアルヲ以テ之ヲ略ス)ニ徴スレバ屯田兵豫備役ハ全然師團ノ夫ト異ニシテ屯田現役ト同様ナルコトハ火ヲ睹ルヨリモ瞭デアリマス然ルニ大正十二年恩給法改

正ノ際屯田兵現役ニ服シタルモノハ恩給ノ恩典ニ浴セシメタルニ拘ラズ豫備役ニ除外シタル爲メ同一ノ大隊ニ於テ同一ノ勤務ニ服シタルモノニシテ甲ハ恩給ニ浴セズ乙ハ恩給ヲ受クルニ至リタルノ不公平ヲ生ズルニ至リタルデアリマス其一例ヲ申セバ左ノ中隊ハ同一大隊デアアル(屯田兵ノ大隊編成ハ概ネ六個中隊千二百人ヲ以テ大隊ト爲シタルデアアル)

明治二十四年徵募兵四百戸 上川郡永山村ニ移住ス

之ヲ第一、二中隊ト稱シタリ

明治二十五年徵募兵四百戸 上川郡東旭川村ニ移住ス

之ヲ第三、四中隊ト稱シタリ

明治二十六年徵募兵四百戸 上川郡當麻村ニ移住ス

之ヲ第五、六中隊ト稱シタリ

以上三箇年ヲ以テ漸ク大隊完成ヲ告ケ之ヲ屯田歩兵第三大隊ト稱シタリ明治二十七年四月右二十四年徵募ノ第一、第二ノ二個中隊ハ豫備役ニ編入セラレ同二十五以降徵募ノモノハ同二十七年七月制度改正ニ依リ豫備役ヲ廢シ現役ニ延長セラレタリト雖モ單ニ制度ノ改正ニ止リテ其實務ハ現役モ豫備役モ以上申述ベタルガ如ク何等異ナルコトナク交々同一ノ巡番勤務ヲセシメタルニモ拘ハラズ大正十二年恩給法ノ改正ニハ右二十四年兵ヲ除外シ同一大隊中ニ於ケル二十五五年兵ト二十年兵ノ四箇中隊而已ニ恩典ヲ與ヘラレタノデアアル、又第二大隊中ノ瀧川、江部乙ノ中隊ノ如キモ此ト同様ノ不公平ヲ來タシタルデアリマス

以上申述ベタルガ如キ理由デアリマスカラ、是非トモ本案ノ御協賛ヲ願フ次第デゴザイマス
○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第七ニ付テ、神部爲藏君——小池仁郎君
○小池仁郎君 至極簡單デアリマスカラ、當席ヨリ申上ゲマス、恩給法中改正法律案ハ、只今上程ノ日程第六松實君提出ノモノト同一ノ趣旨デアリマシテ、屢本院ヲ煩

シタ案デアリマスカラ、當局ニ於キマシテモ、一日モ速ニ此法律ノ實行セラル、處置ヲ執ラレンコトヲ希望シテ、茲ニ此法律案ヲ提出致シタ所以デアリマス
○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第八ニ付テ山形儀重君 簡單デアリマスカラ、當席ヨリ御許ヲ願ヒマス
○議長(粕谷義三君) 許シマス

○山形儀重君 只今上程セラレテ居リマスル恩給法中改正法律案ハ、曩ニ大正十二年ニ恩給法ガ整理統一セラレマシタ際ニ、新ニ恩典ガ與ヘラレタルデアリマス、其恩典ハ判任官ニ非ザル者ニシテ後判任官ニナッタ場合ニ、前ノ勤続年限ノ半數ヲ恩給年數ニ加算スルト云フ恩典デアリマシタ、更ニ是ト同様ノ趣旨ヲ以テマシテ、小學校ノ准訓導並ニ幼稚園ノ娼母モ、又訓導又ハ正娼母ニナリマシタ際ニ於テ、同ジク此恩典ニ與カルコトニナッタデアリマス、然ルニ此准、教職員ニ限リマシテ、第九十九條ノ二項ニ於テ、當分ノ内ニ之ヲ實施シナイコトニ規定セラレテ居ルデアリマス、此爲ニ此恩典ニ與カリ得ナイ者ガ准訓導並ニ娼母ヲ合セマシテ一万五千人ニ達スルデアリマス、故ニ此第九十九條ノ二項ノ中、之ニ關スル事項ヲ削除致シマシテ、直ニ是等ノ恩典ニ與カラシメタイト云フデアリマス、何卒御贊成アラント御願致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、土屋清三郎君

(土屋清三郎君登壇)

○土屋清三郎君 私ハ本案ニ關聯致シマシテ、政府ノ所見ヲ御尋致シタイデアリマス、恩給法五十一條ノ規定ニ依リマスレバ、公務員ガ懲戒、懲罰、又ハ教員免狀發給ノ處分ニ依リマシテ退職致シマシタル場合ニハ、其引續キタル在職ニ付キ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フコトニナッタ居ルデアリマス、言換ヘマスレバ公務員ガ恩給年限ニ達シマシタ後、一旦退職シテ恩給權ヲ確保シテ、然ル後再び公務員ノ職ニ就キマシタ場合ニハ、懲戒免官等ニ依リテ恩給權ヲ失ヒ

シタ案デアリマスカラ、當局ニ於キマシテモ、一日モ速ニ此法律ノ實行セラル、處置ヲ執ラレンコトヲ希望シテ、茲ニ此法律案ヲ提出致シタ所以デアリマス
○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第八ニ付テ山形儀重君 簡單デアリマスカラ、當席ヨリ御許ヲ願ヒマス
○議長(粕谷義三君) 許シマス
○山形儀重君 只今上程セラレテ居リマスル恩給法中改正法律案ハ、曩ニ大正十二年ニ恩給法ガ整理統一セラレマシタ際ニ、新ニ恩典ガ與ヘラレタルデアリマス、其恩典ハ判任官ニ非ザル者ニシテ後判任官ニナッタ場合ニ、前ノ勤続年限ノ半數ヲ恩給年數ニ加算スルト云フ恩典デアリマシタ、更ニ是ト同様ノ趣旨ヲ以テマシテ、小學校ノ准訓導並ニ幼稚園ノ娼母モ、又訓導又ハ正娼母ニナリマシタ際ニ於テ、同ジク此恩典ニ與カルコトニナッタデアリマス、然ルニ此准、教職員ニ限リマシテ、第九十九條ノ二項ニ於テ、當分ノ内ニ之ヲ實施シナイコトニ規定セラレテ居ルデアリマス、此爲ニ此恩典ニ與カリ得ナイ者ガ准訓導並ニ娼母ヲ合セマシテ一万五千人ニ達スルデアリマス、故ニ此第九十九條ノ二項ノ中、之ニ關スル事項ヲ削除致シマシテ、直ニ是等ノ恩典ニ與カラシメタイト云フデアリマス、何卒御贊成アラント御願致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、土屋清三郎君
(土屋清三郎君登壇)
○土屋清三郎君 私ハ本案ニ關聯致シマシテ、政府ノ所見ヲ御尋致シタイデアリマス、恩給法五十一條ノ規定ニ依リマスレバ、公務員ガ懲戒、懲罰、又ハ教員免狀發給ノ處分ニ依リマシテ退職致シマシタル場合ニハ、其引續キタル在職ニ付キ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フコトニナッタ居ルデアリマス、言換ヘマスレバ公務員ガ恩給年限ニ達シマシタ後、一旦退職シテ恩給權ヲ確保シテ、然ル後再び公務員ノ職ニ就キマシタ場合ニハ、懲戒免官等ニ依リテ恩給權ヲ失ヒ

マシテモ、ソレハ後ノ引續キタル在職ニ相
當スル期間ニ止マリマシテ、一旦確定シタ
所ノ既成ノ恩給權ニハ何等影響ヲ及ボサナ
イノデアリマスルガ、之ニ反シマシテ終始
一貫引續キ在職致シマシタル者ハ、假令何
十年間在職致シマシタル者デモ、全然恩給
權ヲ失フノデアリマス、是ガ私ノ御尋致シ
タイ點デアルノデアリマス、此規定ノ妥當
デナイト云フコトヲ例證スル爲ニ、私ハ襲
ニ起リマシタル所ノ虎門事件ニ關スル所ノ懲
戒處分ノ例ヲ舉ゲタイノデアリマス、虎門
事件ノ起リマシタル際、當面ノ責任者トシテ
湯淺警視總監、廣田愛宕署長外數名ノ警察
官吏ハ、懲戒免官ノ處分ヲ受ケタノデアリ
マス、間モナク有難キ恩召ニ依リマシテ、
懲戒處分ハ取消サレタノデアリマスルガ、
恩給權ハ是ガ爲ニ回復ハ致シマセヌ、而シ
テ其失ヒマシタル所ノ恩給權ハ、湯淺警視總
監ハ以前恩給權發生ノ年限ニ達シマシタル
後、一旦退職シテ其權利ヲ確保致シテ置キ
マシタカラ、僅ニ警視總監トシテ在職シタ
ル六箇月間ノ恩給權ヲ失フタニ過ギナカッタ
ノデアリマシタルガ、愛宕署長ハ巡查ヨリ引
續キ在職致シテ居リマシタル結果、三十餘年
間ニ互ニ恩給權全部ヲ喪失致シマシテ、齡
既ニ六十二垂ントシテ一家ヲ支フルニ非常
ニ困難ヲセラレタノデアリマス、是ガ爲ニ
全警視廳員ハ非常ニ同情致シマシテ、ソレ
ゾレ金ヲシテ後ノ生活ヲ資テ助ケタト云
フコトガアルノデアリマス、固ヨリ懲戒處
分ヲ受ケタル云フコトハ、官吏トシテハ最
モ重イ處分デアリマスカラ、性質ニ依リマ
シテハ、恩給權全部ヲ失フト云フコトモ固
ヨリ當然デアアルカモ知レマセヌ、併ナガラ
其情極メテ憐ムベキ者トシテ處分取消ノ恩
命ヲ受ケマシタルヤウナ場合ニ於キマシテ
ハ、喪失シタル所ノ恩給ニ對シマシテモ、
何等カノ恩典ニ浴サシメルト云フコトガ妥
當デハナイカト思フノデアリマス、ニモ拘
ラズ此規定ガアルガ爲ニ、同一事件ニ依
テ同ジク赦免ノ恩典ニ浴シナカラ、或者ハ
僅ニ六箇月間ノ恩給權ヲ失フタニ止マリ、或
者ハ三十有餘年在職シタル全部ノ恩給權ヲ

失フテ、後ノ生活ニモ窮スルト云フガ如キコ
トハ、如何ニシテモ此規定ヲ不公平ト申サ
ナケレバナラナイノデアリマス、ノミナラ
ズ此規定ガアリマスルガ爲ニ、公務員ガ折
角事務ニ練達致シマシタル際、唯 恩給權ヲ
確保致シテ置キタイガ爲ニ、途中ニ於テ退
職スル者ノ段々多クナルト云フコトハ、公
務員ノ能率ヲ舉グル上カラモ、甚ダ不都合
ナル事デアルト思フノデアリマス、ノミナ
ラズ今日我國ノ公務員ガ、國家ニ對シテ極
メテ忠誠デアルト云フコトハ内外齊シク認
ムル所デアリマシテ、此忠誠ナル公務員ノ
奉公心ハ、國家トシテ飽迄之ヲ保持スルニ
努メナケレバナラヌト思フノデアリマス、
私ハ此點ニ付キマシテ一昨年豫算委員會ニ
於テ之ヲ政府ニ質シマシタル所ガ、江木政府
委員ハ、御質問ハ洵ニ結構デアアル、政府ト
シテハ何トカ適當ナ改正ヲ致シタイ考デア
ルト云フコトヲ御答ニナッタノデアリマス
ガ、爾來今日ニ至ルマデ何等政府ニ於テ此
改正ニ著手セラレタルコトヲ承ナナイノデ
アリマス、政府ハ果シテ此改正ヲ必要ト認
メナイノデアアルカドウカ、問題ハ全生涯ヲ
國家ニ捧ゲテ極メテ忠誠ナル、我が全國五
十萬ノ公務員ニ關スル重大ナル問題デアリ
マス、幸ニ然ルベキ御答辯ヲ承ルコトガ出
來マスレバ、國家ノ爲ニ洵ニ幸福デアルト
存ズルノデアリマス(拍手)

○政府委員(山川端夫君) 御答ヲ致シマ
ス、恩給法ノ第五十一條ノ結果ト致シマシ
テ、只今土屋君ノ御話ノヤウナ事實ガアル
ノデゴザイマス、其理由ハ色ニアリマセウ
ガ、土屋君ノ御話ノ通りニ公正ノ點カラ見
ルト、ドウモ當テ得テ居ナイヤウニ政府モ
考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ昨年カラ
恩給法ニ付キマシテ根本的ニ改正ヲシタイ
ト云フノデ、行政調査會ニ於テ審議ヲ致シ
マシテ、一應ノ案ヲ得マシタルガ、マダ確定
ニ至リマセナイ爲ニ、此議會ニ提出スル運
ビニハ參ラナカッタノデアリマス、其行政調
査會ニ於テノ審議ノ問題ノ中ニハ、今土屋
君ノ御話ニナッタ事ハ重要ナ問題トシテ審

議ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ御話ノ
通りニ適當ナ改正ヲ加ヘタイト云フ趣旨デ
折角審議中デアリマス、唯、全體ノ審議ガ
確定シマセヌ爲ニ、今日提案スルコトガ出
來ナカッタノデアリマス、左様ニドウゾ御承
知ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 是ニテ質疑ハ終リマ
シタ 井本常作君

○井本常作君 各案ヲ一括シテ議長指名、
九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニハ御
異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シ
マシタ、日程第九、治安警察法中改正法律
案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者山枳儀重
君

第九 治安警察法中改正法律案(山枳
儀重君外四名提出) 第一讀會

治安警察法中左ノ通改正ス

第五條第一項中第五號ヲ削リ第六號ヲ第
五號ニ第七號ヲ第六號ニ改ム

〔山枳儀重君登壇〕

○山枳儀重君 只今上程サレマシタル治安警
察法中改正法律案ハ、各派ノ有志ノ提案ニ
ナルモノデアリマシテ、同法第五條第一項
中第五號、即チ女子トアリマスル文字ヲ削
リマシテ、女子ニ政治結社加入ノ自由ヲ認
メタイト云フ案デアリマス、簡單ニ其趣旨
ヲ御説明申上ゲタイト思フノデアリマス、
先般東京市對東京瓦斯株式會社ノ報償契約
改訂問題ガ起リマシタル際ニ、東京市政婦人
研究會ナルモノガ起リテ之ニ反對ノ運動ヲ
爲シマシタルト云フコトハ、婦人ノ政治運動
ニ參加スル最近ノ事實トシテ、極メテ注目
ニ値スルモノデアッタト思フノデアリマス、
婦人ガ瓦斯ノ料金ノ問題ヲ或ハ賛成、或ハ
反對セラレタル所ノ市會議員ノ諸君ヨリモ、
痛切ニ鋭敏ニ感シタデアアルマイカト思フ
ノデアリマス、瓦斯料金問題ノミナラズ、
電燈ノ料金ノ問題ニ致シマシテモ、男ハ自
分ノ家デドノ位電燈料金ヲ支拂テ居ルカ、

其料金改訂ニ依ッテ自分ノ家ニドノ位料金
ノ相違ヲ生ズルカト云フヤウナコトヲ痛切
ニ感ズル者ハ、少カラウト思フノデアリマ
ス、或ハ米ノ價ニ關スル問題ニ致シマシテ
モ、其他食料品ノ問題ニ致シマシモノ、一切
ノ消費經濟ノ問題ヲ最モ鋭敏ニ、痛切ニ感
ズル所ノ者ハ女子デアリマシテ、其女子ガ
是等ノ食料品 其他ノ消費經濟ノ問題ヲ解
決セントスル所ノ中央並ニ地方ノ政治ニ參
與シテ、而シテ之ヲ適當ニ解決シ、自分等
ノ生活ヲ幸福ナラシメタイト希望スル運動
ガ起ルト云フノハ、當然デアアラウト思フノ
デアリマス、更ニ最近社會問題ト致シマシ
テ、婦人ト男子トノ間ノ社會上ノ差別待遇
ニ對シマシテ、色ニナ異論ガ起リ、或ハ婦
人ノ労働問題ト云ヒ、或ハ公娼制度ノ問題
ト云ヒ、或ハ姦通罪ニ關スル問題ト云ヒ、
各種ノ男子ト婦人トノ差別待遇ニ關スル問
題ヲ平等ニ致シタイト云フ所ノ希望ガ起ル
ノモ、亦是當然デアリマシテ、之ヲ自ラノ
力ニ依ッテ解決セントスル希望ヲ生ズルニ
至ルト云フコトモ、是ハ時勢ノ進運デアラ
ウト考ヘルノデアリマス、而シテ是等ノ希
望ヲ持ッテ自ラ是等ノ問題ヲ解決セントス
ル所ノ婦人ガ起リテ、既ニ政治ニ參畫致シ
テ居ル、或ハ直接ノ問題デナカトモ、此議
場ニ居ラレタル所ノ議員諸君ノ令夫人或ハ令
嬢方ニ於キマシテモ、既ニ其總選舉ノ際ニ
於テ戸別訪問ヲ爲サレテ、其當選ヲ期スル
爲ニ政治運動ヲ爲サレタ方ガ多數御有リニ
ナルデアラウト思フノデアリマス、サウス
ルト既ニ婦人ハ政治ニ參與シテ其運動ヲ
行ッテ居ルト云フコトハ明デアリマス、過
去ニ於キマシテ此婦人參政權ノ問題ガ婦人
ニ依ッテ叫バレマシテ、色ニ論議サレマシ
タ時ニ、此問題ガ屢、或ハ嘲笑ノ的トナリ、
或ハ侮蔑ノ的トナッタト云フコトヲ、私共
ハ甚ダ遺憾トスルノデアリマスガ、最近ノ
婦人政治運動ニ參加致シテ居リマス所ノ婦
人ノ傾向ヲ見マスト、吾々ハ誠ニ注意ヲ致
サナケレバナラヌト思フノデアリマス、先
般瓦斯會社問題ニ依ッテ起チマシタル東京市
政婦人研究會ノ方々ハ、極メテ眞面目ニ、

熱心ニ、社會上相當ノ地位ノアル或ハ教育家デアール、或ハ立派ナ家庭ノ御婦人デアッタコトヲ私共ハ承知致シテ居ルノデアリマス、殊ニ最近全關西聯合婦人會ナルモノガ起テマシテ、全關西聯合婦人會ハ關西ニ於ケル各種ノ婦人會ノ代表者ヲ以テ、各府縣一ツノ統一ヲ立テマシタ、ソレガ更ニ全關西聯合ヲ致シテ居ルノデアリマス、此聯合婦人會ガ起テ此運動ヲ開始致シマシタト云フコトハ、私共ガ大ニ注意致サナケレバナラヌ點デアリマス、此時ニ當リマシテ此運動ヲ爲ス者ハ政治結社ヲ自ラ作り、若クハ既成ノ政治結社ニ加入ノ自由ヲ許スト云フコトハ、婦人全部ガ政治ニ參加シヤウト云フノデナイノデアリマシテ、其希望ヲ持テ、且ツ其資格ヲ持ツ一部ノ婦人ニ其自由ヲ認メヤウト云フノデアリマスカラ、私共ハ最早其時機ニ達シテ居ルト考ヘルノデアリマス、何卒御賛成アラント御願致シマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテ別ニ發言ノ通告ハアリマセス

○井本常作君 本案ハ尾崎行雄君提出、政治運動ノ爲金品供與ノ制限ニ關スル法律案外七件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ右委員ニ併託スルコトニ決シマシタ、日程第十、大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者坂東幸太郎君

第十 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(坂東幸太郎君外三名提出) 第一讀會

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第五條中「タル男子」ヲ削ル

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○坂東幸太郎君 只今議題ニ上リマシタ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案ニ付キマシテ、僭越デハゴザイマスガ、提案者ヲ代表致シマシテ、私カラ其趣旨ヲ辯明スルコトニ致シマス、此法律案ハ同選舉法第五條ニ帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス、帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス、トアリマスモノヲ、其第一項及第二項中ノ各「タル男子」ノ文字ヲ削ラントスル者デアリマス、其結果ト致シマシテ左ノ如ク第五條ガ改マリマス、「帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス、帝國臣民ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス」斯様ニ爲サントスル者デアリマシテ、即チ女子ニ衆議院ノ參政權ヲ付與セントスル者デゴザイマス、只今山樞君カラモ御話カアリマシタ如ク、近來女子ノ參政權ノ問題ハ最早理論ノ域ヲ超越致シマシテ、實行期ニ入ッタウニ吾々ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ永年ノ間、男尊女卑ト云フ所ノ因襲ガ國民ノ潜在意識トナッテ居リマスカラ、此點ハ十分ニ研究シ、精シク提案ノ趣旨ヲ辯明シナケレバナラヌノデアリマスカラ、ドウカ暫時ノ間ノ時間ノ御割愛ヲ御願致シタインデゴザイマス、此問題ハ政黨政派ヲ超越シ、各政黨各々自由問題トナッテ居ルノデアリマシテ、即チ憲政會デハ加藤綱一君、本黨デハ原夫次郎君實業同志會デハ千葉三郎君、新正俱樂部デハ私、此四名ガ提案者トナッテ居リマシテ、賛成者ハ各派ヲ通ジテ六十七名デゴザイマス、此議員ノ名前ヲ全部申シタイノデアリマスガ、時間ガ掛リマスカラ議長ノ御許ヲ得テ、此名前全部速記録ニ留メタイト思ヒマス、本問題ハ既ニ古キ以前カラ本院ニ於テハ論議セラレテ居リマス、即チ十數年前カラ論議セラレテ居リマシタノデアリマス、最近ニ於テハ第五十議會ニ於テ、先輩松本君若年君ニ依テ建議案ガ提出セラレマシテ、是ハ滿場一致ヲ以

テ可決セラレテ居リマス、又第五十一議會ニハ不肖カラ提案シマシテ、是亦滿場一致ヲ以テ議會ハ衆議院ヲ通過シテ居ルノデゴザイマス、然ラバ此問題ハ一部デ云フヤウニ、決シテ賣名ノモノデハアリマセス、既ニ衆議院ハ建議案トハ申シナガラ、院議ハ既ニ決定シテ居ルモノト見ルコトガ出來ルノデアリマス、隨テ私ハ矢張院內デハサウデモアリマセマスガ、院外ニ於テハ多少此點ニ誤解ガアリマスカラ、此點ヲ十分申上ゲテ見タイノデゴザイマス、併ナガラ私ハ單ニ衆議院ニ於ケル以上ノ歴史ニミ根據ヲ置イテ、而シテ此法律案ヲ提案シタル所ノ反對論ニ付キマシテモ、提案者等ハ相當ノ研究ト檢討ヲ重ネマシテ、而シテ最早法律案トシテ出スベキモノデアルト云フ、斯ウ云フ信念ヲ懷キマシタカラ、茲ニ法律案ヲ出シテ次第デアリマス、先ツ第一ニ考ヘマスノハ、元來我國民性ハ私ハ男女同權デアルト云フコトヲ信ジテ居リマス、苟モ其理由ハ何處ニアルカト申シマスレバ、荷モ我國ノ最モ古イ歴史デアル古事記ヲ繕キマシテモ、婦人ハ男子ト同様ノ權利ヲ振ウテ居リマス、例ヘバ伊佐那岐、伊佐那美命ノ如キニ於キマシテモ、却チ女神ノ方ガ勢力ヲ振ハレタ歴史モアリ、又建國ノ祖デアル天照大神ハ、御兄弟ノ素戔鳴命及月讀命ガ男神ガアッタニモ拘ラズ、尙ホ女神ニシテ此高天原ヲ知ロシ食ス權利ヲ得ラレタト云フヤウナ、日本ノ歴史ノ根本デアル古事記ニ於テモ、ヤマトノ事實ニ於テ現ハレテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、我が日本ガ殆ド男尊女卑ノ國民性デアルノ如ク言ハレテ居ルノハ、何ノ爲デアリマセウカ、私ハ此點ニ付テ考ヘマスルノニ、是ハ恐ラク支那思想ト佛教思想ノ輸入ノ爲デアラウト思フノデアリマス、サウ致シマスレバ其理由ハ如何ト云フコトニナリマスガ、吾々提案者等ノ研究スル所デハ、支那ノ女子ニ對スル思想ト云フモノハ、是ハ女子ヲ玩弄物視シテ居ルヤウナ傾ガアリマス、隨テ我國ニ支那ノ文學ガ輸入セラル、ヤ、日本ノ

從來ノ習慣ヲ打破シテ、女子ヲ玩弄スルヤウナ傾向ヲ生ジマシタノガ、是ガ男尊女卑ガ起タ所ノ一ツノ原因デアラウト考ヘマス、又佛教思想ノ輸入、是モ日本ノ女性觀ニ大ナル變革ヲ來シマシタ、御承知ノ通り彼ノ佛教ニ於テハ即チ女子——女ト云フ者ハ罪ノ深イ者デアール、女ト云フ者ハ恐ルキ者デアルト云ウヤウナ考カラシマセ、ソコデ佛教ガ輸入セラレテカラ、著シク日本ノ女性觀ニ對シテ變革ヲ來シタヤウニ考ヘテ居リマス、又支那ノ思想デアリマスガ、例ヘバ孔子ノ崇拜シテ居ル所ノ管仲ノ如キモ、矢張婦人事ヲ言ヘバ則チ賞罰信ナシ、男女別ナケレバ乃チ廉恥ナシナドト云フヤウナコトヲ申シマシタ、孔子自身モ男女七歲ニシテ席ヲ同ウセズ、女子ト小人ハ養ヒ難シト云フヤウナコトヲ申シマシタ、斯ノ如キ所謂支那文學、支那思想或ハ佛教ト云フモノ、女性觀ガ、日本ノ女性觀ニ向テ大ナル影響ヲ與ヘタト云フコトハ、是ハ爭フベカラザル事實デアラウト考ヘマス、而シテ日本ノ歴史ガ變化ヲ致シマシテ、戰國時代ニ於キマシテハ所謂弱肉強食デアール、女子ノ如キ肉體ノ二弱者ハ壓迫セラレマシテ、サウシテ益、女子ヲシテ所謂因循姑息ナラシメタト云フコト、是モ爭フコトノ出來ナイコトデアラウト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、サウデアリマスカラシテ、女賢ウシテ牛賣リ損ネ、斯ウ云フヤウヤ詰ラナイ所ノ句ガ殆ド一種ノ真理デモアルカノヤウニ考ヘラレタコトハ、洵ニ女子ノ爲ニ悲ムベキ所ノ現象ト言ハナケレバナラヌ、然ラバサウ云フ工合ニ女子ヲ輕蔑シタガ、非常ニ我國民ハ利益ヲ得タカト申シマスレバ、何等ノ利益ヲ受ケテ居リマセヌ、從順ナル所ノ女子ヲ得マシタガ、併シ彼等ハ精神ノ無イ所ノ人形ノヤウナ者ニナッテシマハントシタノデアリマス、ソコデ又世ノ中ニ利益ヲ與ヘタカト申シマスレバ、彼等ガ因循姑息ニナッテ結果、天カラ援ケラレタ能力ヲ十分發揮スルコトガ出來ナイヤウナ狀態デアリマスカラ、社會ノ發達ノ爲ニ貢獻

スルコトが比較的少イヤウニナリ居ルト云フコトハ、是ハ爭フベカラザル事實デア
ルト云ヘマス、吾々ガ考ヘマスノニ、歐
米ト我國ガ非常ニ文明ノ差ガアルト云フコ
トハ、一ツハ歐米ニ於テハ男子モ女子モ各
其授ケラレタル權能ヲ十分ニ發揮スルニ
反シテ、我國ハ男子ハ十分ニ機能ヲ發揮ス
ルガ、女子ハ其半バ位シカ發揮シテ居ラヌ
所ニ歐米ト日本ノ文明ノ差ガアルノデハア
ルマイカト云フ考ヲ持テ居ルノデゴザイ
マス、然ラバ世界ノ各國ハ此參政權ノ問題
ニ對シテドウ云フ工合ニ扱テ居ルカト云
フコトヲ申シマス、世界中國ト稱スル
モノ七十四アリマス、私ノ調べテ見マシ
タ所デハ、先ヅ第二流以上ノ國家ト見ルベ
キモノハ左ノ如キモノデアラウト思フノデ
アリマス、即チ日本、英國、米國、佛蘭西、
ソウエツト社會主義聯邦共和國、獨逸、伊
太利、奧地利、和蘭、白耳義、波蘭、チェ
コスロヴァキア、西班牙、丁抹、瑞典、
諾威、愛蘭、希臘、葡萄牙、支那、伯利西
爾、斯ウ云フヤウナモノガ、先ヅ二流以上
ノ國ト思ヒマス、其二流以上ノ國ニ於
テ、女子ニ參政權ヲ與ヘテ居ルモノハ何處
デアカト申シマシタナラバ、英國、米國、
獨逸、佛蘭西、ソウエツト社會主義聯邦
共和國、奧地利共和國、和蘭王國、丁抹
王國、波蘭、チェコスロヴァキア、愛
蘭、斯ウ云フ國ハ全部參政權ヲ與ヘテ居
リマス、與ヘテ居ナイ國ハ日本、佛蘭西、
伊太利、白耳義、西班牙、希臘、葡萄牙、
支那、伯利西爾、斯ウ云フ國ハ與ヘテ居
ラセズ、ソコデ從來ノ例ニ基イテ日、
英、米、佛、伊、獨、露、奧ヲ假ニ八大強
國トシマスレバ、其中婦人參政權ヲ與ヘテ
居ラヌ國ハ日、佛、伊ノ三國デア、併ナ
ガラ佛蘭西ハ御承知ノ通り小黨分立デアリ
マスカラ、政權ノ爭奪ニ没頭シテ居ル
爲ニ、此問題ガ開却セラレテ居ル、伊太
利ハ例ノ「ムツツリ」ニガ鐵血政治ヲ行
テ居ルカラ開却セラレテ居ルノデ、詰
リ、世界ノ八大國ニ於テ婦人ニ參政權
ヲ認メテ居ラヌ國ハ、事實内容ニ於テハ我

國バカリデアルト云フコトニナルト私ハ考
ヘテ居ル、ソコデ吾々ガ常ニ唱ヘテ居ル如
ク、女子ニ參政權ヲ與ヘントスルコトハ、
正ニ世界ノ大勢デアルト云フコトハ、之ヲ
證明シテ餘リアリト思ヒマス、從來世上デ
行ハレテ居ル所ノ反對論ヲ檢討シマスル
ニ、第一婦人ハ常識ガ乏シイカラ適任者
ト選舉スルコトガ出來マイ、第二婦人ハ教
育ガ少イカラ適任者ト選舉スルコトハ出來
マイ、第三日本ノ婦人ハ活動ガ鈍イカラ
選舉權ヲ付與スル必要ハアルマイ、第四ハ
兎ニ角時機ガ少シ早イデハナイカ、是ガ即
チ反對論ノ最も有力ナルモノデアルト私ハ
考ヘマス、之ヲ若シ冷靜ニ觀察シマシタ
ラバ、是等ノ反對論ト云フモノハ根據ガ極
メテ薄弱デアラウト私ハ信ジテ疑ヒマセ
ヌ、常識ガナイカラト云フコトハ、婦人ヲ
理解シナイ說デア、選舉權ハ結局候補者
ヲ選擇スル所ノ權利デア、即チ新選舉法
ノ第六十七條ト第六十八條ニ依テ候補者
タル者ハ、法律上ノ所謂法定候補者ト云
フモノガ決テ居リマス、隨テ男子ガ選舉ヲ行
フ場合ニモ、女子ガ選舉ヲ行フ場合ニモ、
即チ法定候補者以外ニハ決シテ選擇ハシ
ナイト思ヒマスカラシテ、常識云々ヲ以テ反
對スルノハ理由ガナイト私ハ考ヘマス、又
婦人ニハ教育ガ足りナイト申シマスルガ、
教育ハ必シモ選舉權ノ標準デハナカラウト
考ヘマス、若モソレガ標準デアルトシタ
ラバ、現在ノ選舉權ニモ矢張教育ノ規定ガ
ナケレバナラス、故ニ若モ教育ト云フ事
此問題ヲ決定スル一ツノ問題トナルナ
ラバ、私ハソレハ普通教育デアルト申シ
タイ、而シテ普通教育ノ狀態ヲ見マスル
ニ、今ヤ男子モ女子モ殆ト同等ノ程度ニ達シテ居
ルノデアリマス、就學歩合ヲ見マシテモ、
男子ノ千分ノ九百九十四ニ對シテ、女子ハ
九百九十二ト云フコトニナリ居リマス、
又卒業ニ付テモ大體同ジトナリ居リマス、
又中等學校ノ生徒ヲ見マシテモ、男子ノ二
十二萬ニ對シテ女子ハ二十萬ト云フ數字
ニナリテ居リ、又小學校ノ教員ニ付テ見
ルモ、總數二十萬ノ中デ、七萬ハ女教員ト云フコ

トニナリテ居リマスカラ、教育ノ程度ヲ以
テ反對スル理由ハ、非常ニ薄弱デアアル
マイカト考ヘマス、第二ニ、日本ノ婦人ハ活
動ガ足りナイカト申シマスレバ、私ハ爾
考ヘマセヌ、即チ大正十四年ノ我國ノ輸
貿易ハ、二十三億餘圓デアリマス、其
中ノ十六億四千圓ハ、女子ノ手ニ依
テ全部製造セラレテ居ルト云フコトヲ發見
スルノデア、然ラバ日本ノ輸出貿易ノ約七
割ハ女子ニ依テ維持セラレテ居ルト云フ
コトハ、是モ爭フベカラザル事實デアリ
マス、次ニ時期尙早論ニ付テ研究ヲ致
シマス、此時期尙早論ト云フモノハ、ソレハ
普通選舉ノ反對論者ガ是マデ唱ヘテ來
タ所デアリマス、大正十三年迄ハ、普通
選舉ハ早イ、三國ノ國稅ヲ納メナイ者
ニ權利ヲ與ヘルコトハ危險デア、斯ウ
云フコトヲ申シマシタガ、天下ノ形勢ガ一
變シマシテ、普通選舉ガ實行セラレ
ルヤ、誰モ是等ノ新シイ有權者ヲ以テ危
險ナル人間ト見ル者ハゴザイマセヌ、又
事實ニ於テ昨年普通選舉ニ依テ全國
デ市會議員ノ選舉或ハ町村會議員ノ選
舉ガ行ハレマシタガ、新有權者ハ皆
確實ニ最も眞面目ニ其選舉權ヲ行使
シタト云フ事實ガアリマス、是ト同様
ニ、女子ト雖モ彼等ニ權利ヲ與ヘタ
時ニ於テ、決シテ漫ニ不適任ナ者ヲ選
舉スルコト云フヤウナ事ハナイト思ヒ
マス、言換ヘマスレバ時期ト云フコトハ、
我が衆議院ニ於テ此機會ニ之ヲ與フベ
キモノデア、斯ウ云フ認識ガ付キ、決心
ガ付イタ時ニ、即チ時期ハ到來スベキ
モノデアラウト私ハ爾ク信ジテ居ル者
デアリマス(簡單々々ト呼フ者アリ)モ
ウ簡單デス、以上ノ觀察ト研究ニ依リ
マス、動モスレバ世間デ行ハレル反對
論ト云フモノハ、若シ之ヲ冷靜ニ見タ
キニハ、全ク理由ガナイ、根據ガナイ
ト云フコトハ明瞭デアラウト私ハ考ヘ
ルノデアリマス、然ラバ選舉權ヲ與ヘ
テ積極的ニ利益ヲ得ケル利益ガアル
カト云フコトニナリマス、私ハ考ヘ
マス、即チ第一ニハ彼等婦人ニ對シテ
覺醒ヲ與ヘル、婦人ヲ向上セシ
メ、人間ラシキ婦人タラシメルト云フ

利益ガアラウト思ヒマス、誰ガ考ヘ
マシテモ、日本ノ女子ハ常識アリト云
フコトハ信ジテ居リマシテモ、因循
デア、姑息デアルト云フコトハ一般
ニ言ハレテ居ルコトデゴザイマセウ、
而モ一度彼等ヲシテ一人前ノ人間
タラシメタナラバ、彼等ハ自ら反省
自覺シテ、而シテ大ニ向上發展スル
ト云フコトハ疑フベカラザル事實
デアリマス、又第二ニハ、彼等ガ權
利ヲ得ルコトニ依テ、社會ニ一大刺戟
ヲ與ヘルモノト私ハ信ジテ居リマス、
即チ普通選舉ガ實施セラレタ今日
ニ於テハ、所謂新有權者ガ演說會場
デモ眞面目デアリ、又一般ニ思想ガ
向上シテ來タト云フコトハ爭フベ
カラザル事實デア、是ト同様ニ、婦
人ガ我モ矢張人間デア、我モ權利ヲ
持テ居ルト云フコトヲ自覺スルコト
ニ依テ、必ズ婦人ガ大ニ向上發展
スルト云フコトハ爭フベカラザル事
デアラウト思ヒマス、又恰モ普通選
舉ノ實施ニ依テ、各政黨派ガ是等社
會即チ無產者及青年ニ對シテ相當
注意ヲ拂ハング爲ニ、自ラ看板ノ
掛テ替テ行ハントスルト同様ニ、婦
人ガ權利ヲ持ツ場合ニハ、婦人ニ對
スル總テノ問題ガヨリ以上ニ研究
セラレルガ爲ニ、益々婦人ニ關聯ス
ル總テノ問題ガ發達シ、又解決セ
ラルベキモノデアラウト私ハ考ヘ
マス、以上ノ理由ニ依リマシテ婦
人ニ權利ヲ與ヘルコトハ、何等ノ害
ガ無イバカリデナク、是ハ苟モ世
界ノ三大強國ノ一デア、我國ガ、
ドウシテモ解決ヲシナクテハナ
ラヌ刻下ノ重大問題ナリト信ズル
ガ故ニ、私等ハ此法律案ヲ提案シ
タ次第デゴザイマス、ドウカ賢
明ナル諸君ニ於キマシテハ、十分
ニ御審議ノ上、速ニ御協賛ヲ與
ヘラレシコトヲ切ニ御願致シマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ別ニ質疑ノ通告ガアリマセヌ
○井本常作君 本案ハ日程第九ノ委員ト同一ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。次ハ日程第十一、架空索道ノ抵當ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、清瀨一郎君

第十一 架空索道ノ抵當ニ關スル法律案(清瀨一郎君提出) 第一讀會

架空索道ノ抵當ニ關スル法律案

第一條 架空索道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外鐵道抵當法ヲ準用ス。架空索道ノ起業者ハ株式會社ニ非サルトキ亦同シ

第二條 架空索道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ架空索道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 架空索道用索條、索道用地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ架空索道ニ屬スル器具機械及架空索道用原動機

二 索道用工場、發電所、變壓所、事務所、倉庫其ノ他工事用建物及其ノ敷地並ニ之ニ附屬スル器具機械

三 索道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ附屬スル器具機械

四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲メ他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

○清瀨一郎君 簡單デアリマスカラ此席ヨリ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○清瀨一郎君 此法律案ハ架空索道、即チ「ケーブル」ト稱セラレモノニ抵當權ヲ設定スルコトヲ得セシメタイト云フ趣旨デ立案セラレタモノデアリマス、此架空索道ナルモノハ、其構造上建物ト申ス譯ニハ參リマセヌ、サリトテ動產トシテ取扱フ譯ニモ參リマセヌノデ、之ニ質權設定ノ途ガゴザイマセヌ、隨テ企業者ニ擔保ニ依ル融通ノ方法ガ無イデアリマス、ソコデ我國ノヤウナ山嶽起伏ノ地帶ノ土地トシテハ、必要ナル運輸具デアリニ拘ラズ、發達甚ダ遅タ

タルコトハ洵ニ遺憾デアリマス、此案ノ構造ハ、彼ノ鐵道抵當法ニ準ジテ、ソレニ抵當ヲ付ケルコトガ出來ルヤウニスルコト云フ案デアリマス、本案ノ如キハ國ノ經費ヲ要スルコトナク、而モ國家ノ進歩ニ資スルモノデアリマスガ故ニ、何卒滿場ノ御賛成ヲ希望致シマス

○議長(粕谷義三君) 別ニ發言ノ通告モアリマセヌ

○井本常作君 本案ハ日程第四ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○清瀨一郎君 議事進行ニ關シ簡單ナル發言ヲ御許シヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○清瀨一郎君 我國ノ議會ノ期間ハ甚ダ短カイノデアリマスガ故ニ、各案ノ成立ニ向ッテハ政府議員共ニ努力ヲ致シテ居ルデアリマス、然ルニ茲ニ甚ダ遺憾ナ事ハ、政府ヨリ提案セラレル法律案ニ限ッテ、其理由ハ極メテ簡單デアリマス、殆ド理由ト稱スベキモノガナク、ソレガ爲ニ如何ナル法律案ガ提案サレツ、アルカヲ知ルコトハ、議場ニ出席シテ初メテ之ヲ知ルデアリマス、初メテ知ッテソコデ討論ヲ行フデアリマスガ故ニ、甚ダ不便ヲ感ジテ居リマス、ソコデ先般私ハ議長並ニ各派ノ人ニ進言ヲ致シテ、政府提出ノ法律案ニモ、亦相當詳シキ理由書ヲ附ケラレンコトヲ切望シテ置キマシタ、ソレカラ又改正法律案等ノ場合ニ於テハ、舊法ヲモ參照ノ爲ニ添付セラレ

ンコトヲ希望致シテ置イタルデアリマス、定メシ議長ハ各派ノ希望デアリマシタガ故ニ、此事ヲ政府ニ進言サレタコト、思ヒマス、然ルニ今月十一日ニ提案ニナリマシタ保稅倉庫法案ノ改正案、ソレカラ防火地

區内ノ借地權處理法案、是其後ニ提案サレタニモ拘ラズ、其理由タルヤ唯、二行デアリマス、殊ニ保稅倉庫法改正案ハ、改正

スル法律デアリニモ拘ラズ、舊法ノ條文ハ指摘サレテ居リマセヌ、其改正理由ハタツタ一行ト一寸デアアル、貿易及商取引ノ實狀ニ適應スル爲ニ出シタト云フガサツタ譯ガ分ラヌ、斯ノ如キハ若シ政府ニシテ此方カラ進言シタ當時デアツタガ故ニ、マダ準備ガ出來ナイト云フコトデアレバ、是ハ致シ方アリマセヌガ、議長カラ各派ノ意見云フコト進言サレタ、政府ハ誠意ヲ以テサウ云フコト改メタル云フ御意見デアツタカ、ソレトモ從來ノ通り舊慣ヲ墨守スルト云フノデアツタカ、其事ニ關シテ御報告アラシコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、此議會ノ終了ノ時ニナリマスル云フト、議員ノ出席ハ少イノデアリマスルガ、必シモ急ッテ居ルノデハナク、委員會等ニ出席ヲ致シテ居ルノデ、此席ニ居ラヌデモ、如何ニ提案サレツ、アツタカト云フコトヲ知ルコトハ、實ニ眞面目ナル議員ノ知ラント欲スル所デアリマスガ故ニ、此問題ハ甚ダ區々タル小問題ノヤウデアリマスケレドモ、帝國議會ノ能率ヲ發揮スル上ニ於テ、相當ノ影響ヲ及ボスモノト思ヒマスルガ故ニ、特ニ此議場ヲ煩シテ質問ヲ致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 只今清瀨君ノ御述ニナリマシタコトハ、清瀨君ノ御述ニナリマシタ如ク、各派ノ御希望デモアリマシタノデ、議長ヨリ政府ノ方ニ其事ヲ通ジテ置キマシタ、サリナガラ政府ノ方デハ今直ニ其御趣意ニ副フヤウニ致スト云フコトハ少シク困難デアラウト云フコトデアリマシテ、能ク熟考ヲ致シテ置クト云フコトデアリマシタカラ、是ダケノコトヲ御答致シテ置キマス

○清瀨一郎君 重ネテ簡單デアリマスカラ困難デアルト仰シヤツサウデアリマスケレドモ、改正法律案ヲ出ス場合ニ、元ノ法現行印刷スル位ノコトハ、實ニ易々タルモノデアリマス、吾々議員ハ少シモ調査ノ機關補助ノ機關ヲ有ッテ居リマセヌケレドモ、議員提出ノ法律案ト政府提出ノ法律案ト較ベテ見ルト云フト、其説明タルヤ議員ノ方ガ却テ詳シク説明サレテ居ル、

政府ノ方デハ大臣ガ此處ヘ來テ演說サレル其草稿ハ持ッテ居ラレルノデアリマス、ソレヲ此處ヘ御印刷ニナラヌト云フコトハ甚ダ私ハ不誠意ト思ヒマス、政府ノ方デハ此法律ヲ出スト云フ以上ニハ、之ニ對スル調査モチヤントアリ、大臣ニ演說ノ草稿迄書イテ渡シテアルノデアリマスカラ、其程度ノモノヲ印刷シテ、斯ノ如キ改正法案デアルト、元ノ原案ヲ附ケルト云フコトハ、今日明日デモ出來ルノデアリマスガ、ソレヲ實行下サラスシテ、議事ノ進行ヲ圖レ圖レト云ッテ議院ニ請求サレテモ、此方ハ政府ニ向ッテ議事進行ヲ圖レト云フ此希望ヲシナケレバナラヌト思フノデアリ(拍手)是ハ些々タルコトデアリマシテ、議場ヲ煩シテ恐縮デアリマスケレドモ、帝國議會ノ能率ヲ發揮スルガ爲ニ此質問ヲ致ス所以デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第十二、被害水田改良事業助成法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許シマス、原夫次郎君

○議長(粕谷義三君) 被害水田改良事業助成法案(星康平君外二名提出) 第一讀會

被害水田改良事業助成法案

第一條 農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ旱水被害水田ノ災害排除又ハ豫防ニ關スル設備ノ新設若ハ改良ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一工事三十町歩ヲ超エル場合ニ於テ其ノ災害排除又ハ豫防ニ關スル設備費用總額ノ五割ニ當ル助成金ヲ交付スルコトヲ得

前項事業ニ伴フ灌漑排水ニ關スル施設又ハ道路堤塘ノ新設若ハ變更其ノ他ノ附帶工事ニ對シテハ前項助成金ノ割合ヲ以テ助成金ヲ交付ス助成金ヲ受クヘキ附帶工事ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

政府ノ方デハ大臣ガ此處ヘ來テ演說サレル其草稿ハ持ッテ居ラレルノデアリマス、ソレヲ此處ヘ御印刷ニナラヌト云フコトハ甚ダ私ハ不誠意ト思ヒマス、政府ノ方デハ此法律ヲ出スト云フ以上ニハ、之ニ對スル調査モチヤントアリ、大臣ニ演說ノ草稿迄書イテ渡シテアルノデアリマスカラ、其程度ノモノヲ印刷シテ、斯ノ如キ改正法案デアルト、元ノ原案ヲ附ケルト云フコトハ、今日明日デモ出來ルノデアリマスガ、ソレヲ實行下サラスシテ、議事ノ進行ヲ圖レ圖レト云ッテ議院ニ請求サレテモ、此方ハ政府ニ向ッテ議事進行ヲ圖レト云フ此希望ヲシナケレバナラヌト思フノデアリ(拍手)是ハ些々タルコトデアリマシテ、議場ヲ煩シテ恐縮デアリマスケレドモ、帝國議會ノ能率ヲ發揮スルガ爲ニ此質問ヲ致ス所以デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 次ハ日程第十二、被害水田改良事業助成法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許シマス、原夫次郎君

○議長(粕谷義三君) 被害水田改良事業助成法案(星康平君外二名提出) 第一讀會

工事資金ヲ貸與スルコトヲ得
貸與金ハ當該工事費總額一時又ハ數次
ニ之ヲ支出ス

第四條 北海及府縣ハ第一條助成金ノ
交付ヲ受クル者ニ對シ北海道地方費又
ハ府縣費ヲ以テ其ノ工事費總額ノ二割
以內ニ當ル補助金ヲ交付スルコトヲ得
補助金交付ニ關スル細目ハ北海道廳令
又ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定メ主務大臣ノ
認可ヲ受クヘシ

第五條 主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受ク
ル者ニ對シ當該土地ノ事業又ハ事業ニ
依リテ生シタル設備ニ關シ報告ヲ命ジ
當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類會計物件
若ハ工事ヲ檢査セシメ又ハ監督上必要
ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ
得

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルコトキハ
主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ
對シ助成金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ
又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命
スルコトヲ得

第七條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令
又ハ之ニ依リテ爲シタル處分ニ違反
シタルコトキ

第八條 事業ノ全部又ハ一部ノ停止又ハ廢
止アリタルコトキ

第九條 助成金ノ交付ヲ受クル土地又ハ事
業ニ依リテ生シタル設備ヲ農業上ニ
利用セサルニ至リタルコトキ

第十條 助成金交付ノ條件ニ違反シタルト
キ

第十一條 詐欺ノ手段ヲ以テ助成金ノ交付ヲ
受ケタルコトキ

第十二條 私人ノ助成金償還ニ付テハ國稅
滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコト
ヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次ク
モノトス

第十三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ
委任スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 只今上程サレマシタ
ル法案ニ付テノ提案ノ理由ヲ說明致サウト
思フノデアリマス、時間ヲ省略スル爲ニ成
ベク簡單ニ早ク說明致シマス、我國ニ於ケ
ル人口食糧ノ問題ハ、實ニ帝國ノ國運ヲ左
右スル所ノ重大ナル問題デアリコトハ申ス
迄モアリマセヌ、今ニ於テ是ガ對策ニ向
テ徹底的ノ攻究ヲ爲シマシテ、是ガ解決ニ
向テ積極的ニ各般ノ施設ヲ爲スコトガ出
來ナイ場合ニ於テハ、眞ニ容易ナラザル事
態ニ陷ランコトヲ虞レルモノデアリマス、

年々増加スル八十萬ノ人口過剩ハ姑ク措キ
マシテ、先づ本年度ニ於ケル米ノ需給關係
ヲ見マシテモ、本期議會ニ於テ農林大臣ガ
說明セラレタ所ニ依リマシテモ、實收額ガ
五千五百六十萬石アリマシテ、朝鮮カラノ
移入ガ五百五十萬石、臺灣カラノ二百五十
萬石、是等ヲ推定致シマシテ、前年カラ比
較的豐富ナル殘存米ヲ六百萬石持越シマシ
テモ、尙ホ五百萬石ノ外米ヲ輸入セネバナ
ラヌト云フ關係ニアルノデアリマス、又平
年ニ於キマシテハ八百萬石ノ外國米ヲ入レ
ナケレバナラヌト云フコトハ、我國刻下ノ
現狀ニ於テ此食糧ノ自給自足ヲ得ヌト云フ
コトハ、實ニ國民生活ノ脅威デアリマス、

國家ノ不安是ヨリ甚シキモノハナイノデア
リマス、洵ニ此點ハ御同然ニ憂慮ニ堪ヘナ
イ所デアリマス、此外外國米ニ依リマシテ食
糧ノ不足ヲ補フコト云フコトハ、見ハ平時ニ於
テハ左迄容易ナラザル問題トモ見ラレヌコ
トガ出來マセウケレドモ、一朝有事ノ場合
ニ際會致シマシタナラバ、果シテ圖滑ナル
自給ノ途ガ保障セラレルノデアラウカドウ
カハ今ヤ隣邦支那ノ動亂ヨリ、東洋ニ於ケル
所ノ民族自覺ノ烽火ハ、各所ニ揚ゲラレン
トシテ居ル際デアリマス、聽テハ印度其他
ノ米產地ニ波瀾ガ起ラヌトモ限ラヌノデア
リマスガ、此外米ノ補給ニ依テ、輸入ス
ル所ノ米、即チ食糧ハ決シテ安全ナルモノ
トハ申サレナイノデアリマス、近時朝野大

ニ此問題ニ目醒メマシテ、政府モ人口食糧
調查會ヲ設ケマシテ、食糧ノ自給自足ニ關
スル對策ヲ攻究セラレントスル所ノコト
ハ、吾々ガ洵ニ機宜ニ適シタルモノデア
ルト思フテ、大ニ賛成ヲ致シテ居ル所デア
リマス、又移植民ノ獎勵、滿蒙ノ開發、鮮米
ノ増殖計畫、北海道ノ第二次拓殖計畫、其
他色々適切ナル施設モ進メラレツ、アルノ
デアリマス、或ハ開墾補助ノ途トカ、或ハ
幹線用排水ノ設備補助等モアルノデアリマ
スガ、十年經テマシタナラバ一千万ヲ突破
スル所ノ此増加率アル所ノ我國ノ人口ノ上
カラ申シマスルナラバ、此焦眉ノ急ヲ救フ
爲ニハ、甚ダ現在ニ於テノ設備ハ迂遠ト申
サナケレバナラヌ、ソコデ吾々同志ハ此被
害水田改良事業ノ助成ニ依リマシテ、優ニ
一千二百萬乃至一千八百萬石ノ米ノ增收ヲ
圖リマシテ、現下焦眉ノ急ニ迫レル所ノ此
食糧ノ需給ヲ解決セントスル者デアリマ
ス、即チ此法律案ノ實行ニ依リマシテ、我
國ノ產米ヲ八千萬石以上ニスルコトハ極メ
テ容易ナル事デアルト確信致シテ居ル次第
デアリマス、農林省ノ發表ニ依リマス、

本邦ノ灌漑田地ハ三百二十七萬五千四十町
歩デアリマス、其中、水不足ノ爲ニ收穫
不安定ナルモノガ五十七萬八千七百七十町
歩アルノデアリマス、又浸水ニ依リマシテ、
被害アルモノガ五十一萬四千三百二十四町
歩デアリマス、更ニ農林省ノ農林水利ノ狀
況ニ關スル所ノ報告ニ依リマス、灌漑排
水上改良ヲ要スル所ノ三百四十町歩以上ノ集團
地ノミニ致シマシテモ六百六十二箇所アル
ノデアリマス、其面積ハ七十九萬二千三百
三十四町歩ト云フコトデアリマス、ソコデ
此法案ハ三十町歩以上ト云フ制限ニ於キマ
シテ、裕ニ八十萬町歩アルノデアリマス、
即チ内六十萬町歩ノ最も效果ヲ舉ゲ得
ラル、モノニ對シテ向フ十箇年間ニ設備ヲ
爲シ改良ヲ施シテ、一段歩二石乃至三石ノ
收入ヲ確實ニ得ラレト云フ案デアリマス、
全國各地ニ色々之ニ適應スル所ノ被害
水田ガアルコトハ言フマデモナイノデアリ
マスガ、例ヘバ東北デ言ヘバ北上川ノ流域

ノ如キ、此改良事業ニ依テ實績ヲ舉ゲタ
ルモノガ非常ニ多イノデアリマス、而シテ
其實績ハ極メテ大成功デアアルノデアリマ
ス、其他之ニ類スル所ハ多クアルノデアリ
マス、本案ノ財源ハ近ク別ニ御手許ニ御配
付申上ゲテアル食糧債券發行ニ關スル法律
案ニ俟ツノデアリマス、仍テ本法案ト共ニ
此三十町歩以上ノ被害水田ノ開墾ニ對シテ
助成スルコト云フ案デアリマス、何卒慎重審
議ノ上、御協賛アラント希望致シマス
〔拍手〕

○議長〔粕谷義三君〕 本案ニ對シテハ質疑
ノ通告ハアリマセヌ

○井本常作君 本案ハ議長指名九名ノ委員
ニ付託セラレントヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔粕谷義三君〕 井本君ノ動議ニハ御
異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シ
マシタ、日程第十三、金鷄勳章年金ニ關ス
ル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者古
川清君

第十三 金鷄勳章年金ニ關スル法律案
〔古川清君外一名提出〕 第一讀會

金鷄勳章年金ヲ受クル者ニ對シテハ昭和
二年度ヨリ功五級以下ノ者ニ對シ毎年
額金百圓ヲ加給ス

○古川清君 簡單デアリマス議席カラ御許
ヲ願ヒマス

○議長〔粕谷義三君〕 許シマス
○古川清君 本案ハ屢、建議案ニ、請願
ニ、殆ド全會一致ヲ以テ通過シタ案デア
リマス、殊ニ昨年ハ法律案トシテ委員會デハ
全會一致ヲ以テ可決シタ案デアリマシタ
ガ、會期ノ終リデアリマシタ爲ニ、議會ヲ
通過シナカッタコトハ洵ニ遺憾デアリマシ
タ、本年ハ政府モ亦此必要ヲ認メマシテ、
功七級、六級、五級ノ各級ニ對シマシテ
ハ、既ニ五十圓ノ増加ヲ豫算ニ計上シテ出
シテアルノデアリマスガ、私共ハ斯ル姑息
ナルコトデハイカヌカラ、此七級、六級、
五級ノ各級ニ對シテ百圓宛ノ増加ヲシテ戴

キタイト云フ案デアリノデアリマス、ソレモ既ニ本年ハ豫算ハ本院ヲ通過シテ居リマスカラ、昭和三年度ヨリ實施シテ戴キタイト云フ法律案デアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマス

○議長(粕谷三義三君) 本案ニ付テモ別ニ質疑ノ通告ハアリマセズ

○井本常作君 本案ハ長峰與一君外三名提出恩給法中改正法律案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷三義三君) 井本君ノ動議ハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十四、北海道御料拂下地免租年期限ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、松實喜代太君

第十四 北海道御料拂下地免租年期限ニ關スル法律案(東武君外三名提出)

第一讀會 北海道御料拂下地免租年期限ニ關スル法律案

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニシテ民有又ハ公有ト爲リタル土地ニ對シテハ民有又ハ公有ト爲リタル年ヨリ二十年以內ノ免租年期限ヲ許可ス

前項土地ノ內開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘタル土地ニシテ免租年期限ニ至リ地味成熟ニ至ラサルモノニ付テハ更ニ二年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ通シテ三十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ免租年期限又ハ其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ政府ニ申請スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ施行前本法ニ該當スル土地ト爲リタルモノニシテ未タ地價ノ設定ナキモノニモ之ヲ適用ス

○松實喜代太君 簡單デアリマスカラ此席ヨリ御許ヲ願ヒタイ

○議長(粕谷三義三君) 許シマス

○松實喜代太君 此法案ハ理由書ニ説明シテアリマスルガ、唯一言此ニ於テ辯明致シテ置カナケレバナラヌ事柄ハ、曩ニ御料地拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル法律案ト云フモノガ本院ヲ通過シ、貴族院モ通過シタルト云フコトヲ承テ居ルノデアリマスガ、ソレト稍題目ヨリ誤解サレタルカラ、同一案デアアルガ如ク誤解サレタル困ルノデアリマス、内容ハ全クアレトハ違フノデアリマス、即チ曩ニ通過シタル所ノ拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル法律案ハ、北海道國有未開地處分法ノ第十九條ニ相準ズル法律案デアアルノデアリマス、只今私ガ提出シテ居ル所ノ此案ハ、大正七年五月法律第四十三號ヲ以テ發布サレタル所ノ地租地種變更免租年期限ニ關スル法律、之ニ適合スル所ノ法律案デアリマシテ、曩ニ本院ヲ通過シタル法律案トハ其性質ヲ全ク異ニスルモノデアリマス、尙ホ詳細ハ委員會ニ於テ説明致シマスガ、ドウゾ御審議ノ上御賛成アラシコトヲ祈ル次第デアリマス

○議長(粕谷三義三君) 本案ニ對シテモ別ニ質疑ノ通告ハアリマセズ

○井本常作君 本案ハ高木益太郎君外一名提出寺院境內無償下屋ニ關スル法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷三義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次ハ日程第十五、借地法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者作間耕逸君

第十五 借地法中改正法律案(作間耕逸君外二名提出)

第一讀會 借地法中改正法律案

第七條ノ二 借地權者カ賃貸借ノ登記ヲ請求シタルトキハ賃貸人ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ賃貸人ハ正當ノ理由ナクシテ賃借

權ノ讓渡又ハ轉賃ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

借地權者カ前項ノ物ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ借地權者モ併セテ讓渡シタルモノト推定ス

○作間耕逸君 簡單デアリマスカラ、此席カラ説明致シマスコトヲ御許ヲ願ヒタイ

○議長(粕谷三義三君) 許シマス

○作間耕逸君 借地法ノ施行セラレテ居リマス大都市ニ於ケル土地ノ賃貸借ニ付テハ、ソレガ二十年、三十年ニ渉ル長期ノモノデアリマスナラバ、今少シ第三期三者ニ對シテモ即チ地上權ト同様ニ之ヲ取扱フニアラザレバ、借地法ニ定メテ居ル所ノ本來ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス、此ニ於テ本員ノ左様ナル土地ノ賃借權ニアリテハ、土地ノ賃借人ハ賃貸人ニ對シテ賃貸借ノ登記ヲ請求スル、而シテ賃貸人ハ正當ノ理由ノ無イ限リハ、此請求ヲ拒ムコトハ出來ナイ、尙ホ土地ノ賃借人カ其賃借權ヲ他人ニ讓渡シ、若ハ賃借ノ土地ヲ他人ニ轉賃ヲスル場合ニ、地主即チ賃貸人ニ承諾ヲシテ吳レト云フコトヲ申越シマシタ時ニ、是亦賃貸人カ正當ノ理由ノ無イ限リハ之ヲ拒絕スルコトガ出來ナイ、即チ其申込ニ應ジテ承諾ヲシテヤラナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナ關係ニ致シテ、借地權者ト地主トノ間ヲ今一層公正適切ナルモノニシタイト云フノデアリマス、尙ホ一箇條ヲ改正致シマシテ、建物ヲ賣買讓渡致シマシタ時ニハ、借地權者モ併セテ讓渡致シタルモノト推定スル、即チ建物ノ處分ハ、原則トシテ常ニ借地權ノ處分ヲ伴フ、之ヲ個々別々ニ取扱ハシメタクナイ、斯様ナ條項デアリマス、何レモ借地關係ヲ安定セシメテ、借地爭議ノ發生ヲ出來得ル限リ防止シタイト云フ精神カラ提案ヲ致シタルデアリマス、何卒宜シク御協賛ノ程ヲ御願致シマス

○議長(粕谷三義三君) 本案ニ對シテモ別ニ發言ノ通告ハアリマセズ

○井本常作君 本案ハ横山勝太郎君外一名提出、借地法中改正法律案外一件ノ委員ニ

併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷三義三君) 井本君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十六乃至第十八ハ提出者同一ノ議案デアリマスカラ、之ヲ一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷三義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十六、大正十五年法律第七十四號中改正法律案、日程第十七、大正十五年法律第七十五號中改正法律案、日程第十八、大正十五年法律第七十六號中改正法律案、右三案ヲ一括シテ一讀會ヲ開キマス、提出者坂東幸太郎君

第十六 大正十五年法律第七十四號中改正法律案(市制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出)

第一讀會 大正十五年法律第七十四號中改正法律案

第九號第一項中「帝國臣民」ノ下「タル」及「ノ男子」ヲ削ル

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七 大正十五年法律第七十五號中改正法律案(町村制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出)

第一讀會 大正十五年法律第七十五號中改正法律案

大正十五年法律第七十五號中左ノ通改正ス

第七條第一項中「帝國臣民」ノ下「タル」及「ノ男子」ヲ削ル

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八 大正十五年法律第七十六號中改正法律案(北海道會法中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出)

第一讀會 大正十五年法律第七十六號中改正法律案

○議長(粕谷三義三君) 井本君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十六乃至第十八ハ提出者同一ノ議案デアリマスカラ、之ヲ一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷三義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十六、大正十五年法律第七十四號中改正法律案、日程第十七、大正十五年法律第七十五號中改正法律案、日程第十八、大正十五年法律第七十六號中改正法律案、右三案ヲ一括シテ一讀會ヲ開キマス、提出者坂東幸太郎君

大正十五年法律第七十六號中左ノ通改正ス

第三條第一項中「帝國臣民」ノ下「タル」及「ノ男子」ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○坂東幸太郎君 簡單デスカラ此席カラ...

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○坂東幸太郎君 此三案ハ婦人ニ公民權ヲ與ヘントスルモノデアリマシテ、日程第十六八六正十五年法律第七十四號中改正法律案、即チ市制ヲ改正致シマシテ、婦人ニ公民權ヲ與ヘントスルモノデアリマス、日程第十七八八町村制ヲ改正シテ、婦人ニ公民權ヲ與ヘントスルモノデアリマス、又日程第十八八八北海道會法ヲ改正シテ、婦人ニ公民權ヲ與ヘントスルモノデアリマス、婦人ノ參政權ノ問題ハ先程申シテ通りデゴザイマスカラ、ドウカ慎重審議ノ上御協賛アラントヲ御願シマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテ別ニ質疑ノ通告モアリマセヌ

○井本常作君 各案ヲ一括シテ日程第九ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十九、家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、福田五郎君

第十九 家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案(福田五郎君外八名提出)

第一讀會

家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案
第一條 明治三年九月十日藩制施行以後家祿賞典給與有シタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治九年第九〇八號布告及同年第五百五十二號布告ニ依リ公債證書

ヲ給與スル迄ノ間ニ於テ其ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者若ハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ明治三十年法律第五十號家祿賞典給與處分法及明治三十二年法律第八十四號家祿賞典給與處分法施行法ヲ準用シ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス但シ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典給與沒收セラレタル者亦同シ

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出スヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取タル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第四條 本法施行以前ニ於テ出願又ハ出訴シタル者ハ本法ニ依ル出願又ハ出訴ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔福田五郎君登壇〕

○福田五郎君 只今議題トナリマシタ家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案ノ提出理由ニ付キマシテ、簡單ニ説明ヲ致シマス、申上ダマスコトハ少シ時代ヲ遡リマス、御承知ノ如ク舊藩時代ニ於キマシテハ、各士族ニ給與シタル家祿ハ、全部各藩主ニ於テ之ヲ給與シテ居リマシタ、其後明治維新ニナリマシテ之ヲ全部中央政府ニ於テ給與スルコトニナッタノデゴザイマス、然ルニ舊藩時代ニ於キマシテノ家祿制度ハ、各藩通宜ノ制度ヲ設ケテ居リマシテ、多種多樣頗ル複雑ヲ致シテ居リマシタ故ニ、明治政府ハ是ガ刷新統一ヲ圖リマシテ、明治四年ニ各地方官ニ命ジマシテ、其取調ヲ致サセマシタ其結果、家祿取調帳ナルモノガ出來上リタノデアリマス、爾後中央政府ハ其帳簿ニ依リマシテ各士族ニ以前ノ如ク家祿ヲ給與シテ來マシテ、其帳簿ガ其後ノ給與高ノ標準基礎トナテ居リタノデアリマス、而シテ明治九年マデ續キマシタ、然ルニ中央

政府ニ於キマシテハ、將來何時マデモ際限ナク、舊士族ニ家祿ヲ給與スルコト云フコトハ、國家財政上ニ非常ニ累ヲ貽スト云フコトヲ慮リマシテ、之ヲ打切ラント企テタノデアリマス、其打切ノ方法ト致シマシテハ、各士族ノ受ケベキ祿高ヲ或ル年度ニ打切テ、其高ニ對シマシテ一時ニ公債證書ヲ渡シテ、之ヲ打切ルコトニ致シマシタノデゴザイマス、是ガ御承知ノ如ク明治九年ノ全祿公債處分ト申スモノデゴザイマス、是デ家祿處分ト云フモノハ一段落ハ著キマシタ、然ルニ其後ニ至リマシテ明治四年ニ作製致シマシタ所ノ家祿取調帳ナルモノニ、非常ナル錯誤ガアルト云フコトガ分リマシタ、其結果舊士族ガ當然受ケベキ祿高ヲ、明治政府ニナシテ以來受ケテ居ナイト云フコトガ判明シタノデゴザイマス、デゴザイマスカラシテ中央政府ニ於キマシテモ、之ヲ救済スル爲ニ法律第五十號ナルモノヲ發布シタノデアリマス、其法律ニ依リマス十分ノ給與ヲ受ケナイモノ、若クハ全然給與ヲ受ケテ居ナイ舊士族ニ對シテハ、更ニ家祿ノ給與ヲスルコト云フ法文ニナシテ居リマス、隨ヒマシテ舊士族ハ明治三年以降ニ於キマシテ實ニ不足ノ分、若クハ全ク家祿ヲ受ケズニ居リマス者ハ、此法律第五十號ニ依リマシテ當然給與ヲ受ケ、救済ヲサル、ト云フコトヲ信ジタノデゴザイマス、吾々モ亦此法律第五十號ヲ見マシテ、左様ナ解釋ヲスルノデゴザイマス、然ルニ不幸ニ致シマシテ、是迄ノ政府當局ハ吾々ト見解ヲ異ニ致シマス、曰ク法律第五十號ハ明治十年以後ノ分ノ救済スルモノデアル、其以前ノ者ニ對シテハ救済スル趣旨デハナイ、斯ウ云フノデゴザイマス、吾々ハ此五十號ノ解釋ニ付キマシテ政府ト所見ヲ異ニ致シマス、政府ハ政府トシテノ立場カラシテ右様ナ解釋ヲ下サル、モノデア

ルガ、吾々ニハ吾々ト致シマシテ此解釋ニ付キマシテ、吾々ノ主張ハ正當デアルト云フコトヲ、論ズルダケノ十分ナル證據ヲ持テ居リマス、併ナガラ吾々ハ今日此法律上ノ爭ヲ續キヤウトスル者デハゴザイマセヌ、吾々ハ此法律上ノ爭ヲ避ケテ、而シテ當然救済セラルベキ舊士族デアリマシテ、不幸ニシテ今日マデ救済ヲサレズニ居ル是等ノ者ヲ救済シ、而シテ國家ノ恩典ニ浴セシメント欲スル者デゴザイマス、是ガ本法法律案提出ノ原因ニナシテ居リマス、要スルニ家祿處分ニ付テ政府ガ執リマシタ處置ガ、前後一貫シテ居リマセヌ、故ニ吾々ハ今日此法案ヲ提出致シマシテ、政府ノ家祿ニ對スル處分ヲシテ、理論上ニ於キマシテモ尙ホ又實際上ニ於キマシテモ、前後一貫シタルモノト爲サシメタイモノデゴザイマス、尙又適切ナル、公正ナル處分ヲ爲サシメント欲スルノデアリマス、是ガ本法案提出ノ理由デゴザイマス、何卒御同情御審議ノ上、御賛成アラントヲ希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ別ニ發言ノ通告ガアリマセヌ

○井本常作君 本案ハ日程第十三ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十「ローマ」字ヲ小學校教科目ニ加フルコトニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者松本君平君

第二十 「ローマ」字ヲ小學校教科目ニ加フルコトニ關スル法律案(松本君平君提出)

第一讀會

「ローマ」字ヲ小學校教科目ニ加フルコトニ關スル法律案

小學校教科目ニ「ローマ」字ヲ加フ前項ノ教科用圖書及教授ノ程度方法等ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
○砂田重政君 本案提出ノ理由ハ提出理由書ニ明瞭ニ記載シテアリマス、即チ「ローマ」字ヲ小學校教科書ノ科目ニ加ヘタイ

ト云フノデアリマス、何卒御審議ノ上御賛成ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ別ニ發言ノ通告アリマセヌ

○井本常作君 本案ハ曾田義一君提出、義務教育年限延長ニ關スル建議案外三十一件ノ委員ニ、併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタリ日程第二十一、未成年者飲酒禁止法中改正法律案ノ一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長作問耕逸君

第二十一 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(竹原機一君外十六名提出)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(竹原機一君外十六名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報呈候也

昭和二年三月一日

委員長 作問 耕逸

衆議院議長粕谷義三殿

〔作問耕逸君登壇〕

○作問耕逸君 竹原機一君外十六名提出、未成年者飲酒禁止法中改正法律案ノ委員會ノ經過結果ヲ簡明ニ御報告申上ダマス、本案提出ノ理由ハ、人間二十五歳マデハ尙ホ心身發育中ニ屬シテ、完成ノ途中ニ在ルモノデアリ、現行法ノ精神ト云フモノハ、此規定ヲ二十五歳マデニ年齢ヲ延長セシメナケレバ、法ノ目的ヲ達セラレナイノデアリ、尙ホ二十歳ヨリ二十五歳マデノ間ガ最も飲酒ノ習慣ヲ生ジ易イ時期デアリ、年齢ヲ五年引上ダテ、此時期ニ於テ豫メ飲酒ノ習慣ヲ絶タシメタイ、尙ホ現行法ノ施行ノ成績ガ宜クナイ、即チ府縣ニ依ッテハ或ハ寛ニ失シ、或ハ酷ニ過ギル、法ノ性質上、其取締ガ履行シ難イ、是ガ二十五歳マデトナレバ、總テノ青年團(學生、兵士ヲモ含ム

コト、ナルヲ以テ取締ガ易ク、隨テ公平ニナル、大體斯ウ云フ趣旨デアリマス、此趣旨ニ依ッテ、一、先ヅ法律ノ題名ヲ現行ノ未成年者飲酒禁止法トアリマスノヲ、飲酒取締法ト改メ、二、適用年齢ヲ五歳引上ダシテ二十五歳マデトシ、其中未成年者ニ對シテハ、違反ノ場合ニ科料ノ制裁ヲ附シヤウト、斯ウ云フ改正ノ案デアリマス、此御提案ニ對シマシテハ各委員等ハ勿論、委員外ニ於キマシテモ、田淵君、吉良君、前田君等モ委員長ノ許シヲ得テ洵ニ熱心ニ法律、化學、思想、教育、宗教、社會及國家財政等ノ各方面、各見地カラ極メテ熱誠、眞摯ナル質問應答ガアリマシタ、是ガ四日間ニ亙リ、凡ソ飲酒ニ關スル立法上ノ問題ハ殆ド餘蘊ナク論議シ盡サレタト言フモ宜シイ位デアリマス、殊ニ私ハ山口政二君ガ、委員會ニ於テ連ニ整レラレマシタノモ、一ツハ此提案ノ辯明ニ努メラレタ爲デアラウト傳ヘラレマスル位ノ事實ヲ諸君ニ御報道申上ダナケレバナラスノデアリマス(拍手)此内容ノ詳細ヲ一々茲ニ御紹介申上ダル餘格ハ、會期切迫ノ場合到底ナイノデアリマスルシ、殊ニ化學の專門ニ屬シマスル事項ハ、之ヲ概括シテ申上ダルコトスラモ、私トシテハ困難ヲ感ズルデアリマスカラ、是等ハ總テ速記録ニ御譲リスルコトヲ許シテ戴キマシテ、唯、二三ノ極々變タ所、即チ御注意ヲ惹キ易イ箇所ヲケノ質問應答ノ、ホシノ要領ヲ申添ヘテ置カウト思フノデアリマス、其一ツハ本案ハ一般の禁酒法ノ前提トシテ提案シタノデハナイカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、所ガ提案者ハ是ハ理想トシテハ、ソレマデニ到達ヲセシメタイト思フテ居ルケレドモ、本案ヲ以テ必シモ其前提トスル意思デハナイ、其次ニハ酒ハ國民飲料デアリ、之ヲ適度ニ用ヒルコトハ、精神上害ナクシテ却テ益ガアル、即チ元氣ヲ増シ、能力ヲ進メ、勞働者ノ活動等ノ場合ニハ、寧ろ是ガ有用デアリ、否、彼等ニ取ッテハ唯一ノ慰安デアリ、又唯一ノ娛樂デアリ、若シ之ヲ差止メルニ於テハ、必ズヤ他ノ惡イ方面ノ慰安、若ク

ハ娛樂ニ墮スルノ虞ガアル、要スルニ本案ハ精神ノ效果ノ方面ヲ忘却シタ案デアリ、特ニ戰線ニ立テ夜襲ヲ突撃、若クハ凱歌ヲ奏シ、凱旋ヲ迎フル等ノ場合ノ如キハ最も必要デアリ、若クハ最も利益ガアルノデアリ(其通り)ト呼フ者アリ)是ハ本案ノ如キ禁酒ヲ唱ヘルヨリモ、寧ろ節酒ニシテハドウデアルカ、此點ハ考慮セラレタコトハナイカト云フ御質問ガアッタノデアリマス、是ニ對シテハ酒其物ガ進歩シタル、化學上ノ通説ニ依レバ、全ク有毒トサレテ居ルノデアリ、即チ「アルコール」ハ蛋白質ヲ害シ、且ツ細胞ヲ害シ、假令少量デアッテモ害ハ即チ害デアリ、毒ハ即チ毒デアリ(「百藥ノ長」ト呼フ者アリ)若シ若イ時カラ習慣付ケラレテ、漸次ニ時ト度ヲ重ヌルニ於テハ、矢張心身ガソレダケノ惡影響ヲ受ケルノハ當然デアリ(其通り)ト呼フ者アリ)飲酒ハ決シテ人間ノ本能デハナイ、習慣時期ニ於テ此習慣ヲ豫メ絶ツニ於テハ、飲酒ノ欲求モ起ラナイ、隨テ飲酒ヲ禁ジテモ、決シテ苦痛モ感ジナケレバ不快ヲモ感ジナイト云フノデアリマス、更ニ提案ノ精神ニハ贊成スルケレドモ、必シモ法律ノ規定ニ依ラヌデモ宜イデハナイカ(其通り)ト呼フ者アリ)宗教教育ノ力ニ依ッテモ宜イデハナイカ、斯ウ云フ質問モアッタ、之ニ對シテハ現在ノ教育ノ力ニ依ッテ之ヲ求ムルコトハ、聊カ迂遠ニ過ギル、又宗教ノ力ニ依ルト云フコトハ、現下ノ宗教ニ於テハ提案者ハ殆ド失望ヲ致シテ居ルト申スノデアリマス、隨テ提案者トシテハ、法律ノ社會化、即チ道德的法律ヲ茲ニ拵ヘテ、以テ此道德的法律ニ據ラントスルノデアリ、而シテ尙ホ時勢ノ進歩ハ現在及將來ニ於テ、斯ノ如ク道德ヲ主眼トシタル法律ハ、追々ニ出來ル筈デアリ、本案ノ如キハ即チ其第一歩ト見テ宜シイト云フノデアリ、次ニ藝者、酌婦等、職業上客ノ酒間ヲ斡旋スル者、或ハ釀造ニ從事シテ居ル所ノ所謂杜氏アタリガ利キ酒ヲスル、ソレハ本法ニ依ッテ如何ニ取扱ハントスルカ、若シ之ニ向ッテ本法ヲ規定ノ通り適用セントスルナラバ、

彼等ハ正當ナル商賣ニ從事シテ往クコトガ出來ナクナルデハナイカ、斯様ナ質問モ出マシタ、所ガ提案者ハ無論本法案ハ婦人ニモ適用スルノデアリ、年齢二十五歳未満ナラバ、男女ノ區別ナク一樣ニ適用スルノデアリ、ガ藝者酌婦ニシテ、二十五歳未満ノ者ハ多クハ酒ヲ飲ムコトヲ欲セザル者デアリ(其通り)ト呼フ者アリ)是ハ客ガ寧ろ藝者酌婦ニ強エルノデアリ(其通り)ト呼フ者アリ)藝者酌婦ハ自カラ酒ハ飲マヌデモ御客ニ酌ハ出來ルノデアリ(ヒヤ)又所謂釀造業者ノ利キ酒ハ、是ハ酒ヲ飲ムノデハナイ、口ニ啣ムノデアリ、唯、啣ンデ吐出スダケデアリ、是ガ利キ酒デアリ、利キ酒ニ酒ヲ飲ンデシマッテハ、本當ニ酒ノ味ハ分ラナイト言ハレルノデアリ(笑聲尙ホ附加ヘテ置キマス)ハ、冠婚葬祭、或ハ神社等ニ於テ、神酒ヲ下ダテ分ケテ飲ム等ノ習慣ハ、是ハ飲酒ガ非常ニ害毒ノアルモノデアリト云フコトノ分ラナク、時代ノ傳統の遺習ニ過ギナイノデアリ、本案ガ成立スルヤウニナレバ、自然ニ斯様ナ事ハ行ハレナクナルト云フノデアリマス、ソレカラ又國家ガ相當ノ歳入減ヲ見ルコトハ事實デアリ、恐ラク是ハ五千万圓位ニモ及ブデアラウガ、併ナガラ是ハ他ニ適當ナ方法ヲ講ズレバ宜シイ、國家ニ歳入減ヲ來タスカラト云ッテ、國民ニ飲酒ノ禁告ト之ニ依ッテ無益ニ消費サレル所ノ一般の損失ニハ代ヘ難イノデアリ、且ツ飲酒ヲ禁ズレバ一方ニ於テ生産ノ獎勵トナリ、消費ノ節約トナリ、他ノ方面カラ自然ニ國庫ノ增收ヲ來タスノデアリ、現ニ米國ノ財政狀態ノ如キ、少シモ斯様ナ憂慮ヲ及ボスニハ至ラヌデアリ、カト云フ議論モアリマシタ、最後ニ政府ノ答辯ニ現レマシタル意見ト致シマシテハ、此法案ノ精神ニハ敢テ反對スル者デハナイガ、餘程多額ノ費用ヲ投ズルニ非ザレバ、法律ノ實施ニ依ル所ノ周到ナル取締ヲ期スルコトハ到底困難デアリ、加之大學生ヲモ包含スル二十五歳マデノ者ニ禁酒ヲ強制スルノハ、餘リ人ノ私生活ニ干渉スルモノデアリ(ヒヤ)「其通り」ト呼フ者アリ)殊

ニ是ガ爲ニ人ノ普通住宅内ニマデ立入テ取締ヲスルガ如キ場合ハ、是ハ或ハ強制執行法ノ本旨ニモ副ハナタル虞ガアル、小學又ハ青年教育上、一層ノ考慮ト施設トヲ加フルナラバ、必シモ法律ノ規定ヲ要スルモノトマデハ考ヘテ居ラナイ(ヒヤ)、「其通り」ト呼フ者アリ(結局本案ニ對シテ、今俄ニ同意ヲ表スルコトハ致シ難イト言ハレテ居ルノデアリマス、討論ニ入りマシテ原案賛成原案反對、何レモ熱誠眞摯ナル意見ノ交換ガアリマシタ、自由問題ト云フコトデアリマスカラ、賛成意見ヲ述ベラレタメガ松山君デアリ、星島君デアリ、反對意見ヲ述ベラレタメガ清水君デアリ、石井君デアリト云フコトヲ合セテ茲ニ申上ゲテ置キマス、討論ノ結果出席者六名ノ中、四對二ノ差ヲ以テ原案ヲ可決セラレタノデアリマス、此段御報告致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ本案ニ對スル質疑ヲ許シマス——加藤知正君

(加藤知正君登壇)

○加藤知正君 私人禁酒ヲ致マシテ茲ニ二十年經テマス(ソシテ廣告ハ要ラナイ)ト呼フ者アリ(自ラノ體驗カラ申シマス、本案ノ如キハ恰モ飢エタル魚ノ餌ニ飛附カガ如ク雙手ヲ舉ゲテ賛成ヲシナレバナラヌト思ヒマスガ、併ナガラ本案ノ如キハ國民ノ實生活ト極メテ密接ナル關係ヲ有シ、極メテ重要ナル法案ト心得マスルガ故ニ、幾多ノ疑問ノ存スル以上ハ、遠慮ナク之ヲ質シテ、而シテ後ニ贊否ノ態度ヲ決スルノガ當然ト心得、暫クノ間本案ノ提出者並ニ政府當局者ニ對シテ質疑ヲ致ス次第デアリマス

〔粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ著席〕

先ゾ第一ニ提案者ニ御尋フ致シタイノハ、本案ノ目標トセラレル所ノ酒ノ種類ハ何デアルカト云フコトデアリマス、御承知ノ如ク同ジ日本酒ノ中ニ於キマシテモ、清酒アリ、濁酒アリ、白酒アリ、焼酎アリ、味淋アリ、又洋酒ノ中ニ於キマシテモ麥酒リ葡萄酒アリ、「ウキスキー」アリ、「ブラ

ンデー」アリ、一々之ヲ枚舉致シマシタナラバ、中々其種類ハ多イデアリマス、此事ニ付キマシテ、土屋清三郎君ハ政府當局ニ對シマシテ之ヲ尋ネラレマシタガ、其際鈴木政府委員ノ御答辯ハ、我が日本ノ法規ニハ實ハ酒ノ定義ヲ下シテナイ、唯、酒造税法ニ於テ、此清酒、濁酒、焼酎、味淋、白酒等ヲ規定シテアルノミデアルガ、若シ此定義ヲ強テ下スト云フコトナラバ、社會通念ニ依テ之ヲ下スヨリ外ニ途ハナカラウ、若シ自分ニ強テ之ヲ言ヘト云フナラバ、「アルコール」ヲ含有致シテ居ル所ノ世俗、所謂酒ト稱スルモノヲ酒ト答ヘル外ニ途ハナカラウ、近頃ノ立法例ト致シテハ、物ニ對スル所ノ定義ヲ下サヌコトニナツテ居ル云々ト申サレタノデアリマス、併ナガラ今日施行セラレテ居ル所ノ未成年飲酒禁止法トハ違ヒマシテ、二十歳ノ者ヲ二十五歳マデ之ヲ引上ゲ、殊ニ科料マデ之ニ附スルト云フコトニナリマシテハ、漫然酒ヲ禁ズルト云フ譯ニハ參リマス、若シ強テ左様ニ致シマスレバ、取締ル上ニ付テモ頗ル困難ヲ感ズルコトデアリマス、又取締ヲ受ケル方ニ於キマシテモ、頗ル不安ノ念ニ堪ヘナイコト、考ヘルノデアリマス、即チ清酒ヤ濁酒、焼酎、味淋ナドハ飲ンデハ惡イカモ知レナイガ、春ハ三月白酒ハ——白酒位ハ飲ンデモ構ハヌノデアリカト云フヤウナ疑ガ茲ニ生ズルノデアリ、ケレドモ酒ト云フ以上ニ於テハ、假令雜酒ト雖、白酒ハ飲ンデハイケマイト云フヤウナ疑ガ生ズルノデアリ、頗ル此點ニ於テ感ハザルヲ得ヌコトニナリ、又不安ノ念ヲ起サザルヲ得ヌコトニナルノデアリマス、故ニ苟クモ一ツノ法律トシテ、之ヲ規定スル以上ハ、此酒ハ飲ンデモ宜シイ、此酒ハ飲ンデハ宜シクナイト云フ、凡ソ其目標トスル所ヲ定メテ置カケレバナラヌト思フノデアリマス、ルガ、提案者ハ此點ニ付テ如何ナル所ノ考ヲ御持チデアリマスルカ、之ヲ一ツ御伺申上ゲタイト思フノデアリマス、第二ノ點ニ於キマシテハ、此法律案ハ總テ全國民ニ對シ禁酒法ヲ布カウト云フ前提デハナイ

カ、此事ニ付キマシテ矢張土屋清三郎君カラ提案者ニ質問ガアツタノデアリ、所ガ只今委員長ノ此所ニ御達ニナツタノ御答ヲ居リマス、單ニ此田中養達君ノ御答ノミガ紹介セラレテ居ルヤウニ考ヘル、此質問ニ對スル田中君ノ御答ハ、成程委員長ノ只今申サレタヤウナ御答辯ニハナツテ居リマスケレドモ、併ナガラ之ニ對シマシテ宮島幹之助君ノ御答ハ違テ居ルヤウニ私ハ思フノデアリマス、故ニ其速記録ヲ一寸朗讀致シマス「只今土屋君ノ御質問ニ、吾々ノ提案ハ漸禁主義ヲ執ルノデアリカト云フ御話デアリマシタガ、其通りデアリマス——酒ノ如キ最も歴史ノ古い嗜好品ニ對シテ吾等ハ無害ヲ認メ、何トカ其弊ヲ止メントスルナラバ、漸禁主義ヲ執ル外ハナイ、若シ此漸禁主義デヤテ果シテ成功スルナラバ、是ハ世界ニ對シテ宜イ模範ヲ示スモノデアリカト云フ考カラ、吾々之ヲ提案ヲ致シタノデアリマス」斯様ナ答辯ヲ致シテ居ラレマス、是ニ於テ私が疑フ起シタノハ漸禁主義ヲ考ヘテ居ルノデアリ、ケレドモ本案ノ如キハ決シテ總テ全國民ニ禁酒法ヲ布カウト云フ前提デハナイト云フ御答セラレタヤウニ私ハ之ヲ認メテ居ルノデアリ、念ノ爲ニ私ハ之ヲ茲ニ朗讀スル方ガ宜シト思フ、即チ田中委員ハ「二十五歳ニシタノハ漸ヲ追ウテ禁酒ニスルト云フノデアリマスガ、私共モサウ云フ理想ヲ持テ居リマスガ、ソレデ漸ヲ追ウテヤルト云フコトヲ考ヘテ居リマスガ、今ノ儘漸禁主義ニシヤウト云フ前提デハナイカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ、斯ウナツテ居ル、是ニ於テ私ハ提案者ノ諸君ノ中ニ於キマシテモ、此點ニ付テハ御意見ガ一致シテ居ラヌモノデアリカト云フ疑ヲ起スノデアリ、果シテ何レガ本當デアルカ、ソコデ私ハ宮島博士ニ御尋フ致シタイノデアリ、此漸禁主義ト仰シタルノハ、如何ナル所ノ方法ヲ御執リニナルノデアルカ、例ヘバ二十歳ノモノヲ二十五歳ニ引上ゲ、更ニソレヲ三十歳、三十五歳、四十歳ト云フヤウニ漸次之ヲ引上

ゲテ全國民ニ禁酒セシメヤウト云フ御考デアルカ、或ハ少年期、青年期、中年期、老年期ト云フヤウナ工合ニ之ヲ區別致シマシテ、サウシテ以テ漸次全國民ニ此禁酒ヲヤラセヤウト云フ御考デアアルノデアリマス、此點ニ付テ私ハ宮島博士ノ御答辯ヲ戴キタイト思フ者デアリマス、第三ニ於キマシテハ男女共ニ二十五歳トシテアルノデアリ、此男モ女モ等シク二十五歳トシナケレバナラヌ理由ハ何所ニ在ルデゴザイマセウカ、二十五歳マデハ發育中デアルト云フケレドモ、果シテ男ノ發育ト女ノ發育トガ同一デアリマセウカ、同ジ男ニ於テモ其發育ハ決シテ一定ハ致シテ居ラヌト言フ、此點ニ付キマシテハ此處ニ居ラレル所ノ田淵君ノ如キハ「ローベル」トカ「アリストートル」等ノ説ヲ御引用ニナツテ、極力御議論ナサレテ居ル、昔カラ女ハ二十歳マデ、男ハ二十五歳マデ肥リト謂フ諺ガアル位同ジ男ニ於テモ其發育ハ一定シテ居ラヌ、況ヤ男ト女ハ其發育ノ一定シテ居ラヌハナイト思フノデアリマス、殊ニ先刻委員長ノ報告ニモアリマシタ如ク、女ト云フモノハ職業上ノ關係カラ、或ハ以テ之ヲ飲マナケレバナラヌト云フヤウナ場合ガ多イト思フ、而モ其職業ノ二働キ者ハ二十歳カラ二十五歳マデノ間ニ於テ多イト認メナケレバナラヌノデアリ、是等ノ者ニ對シ若シ此法律ヲ適用スルト云フヤウナコトニナリマシタラバ、即チ其營業ノ婦人ニ對シ、一ツノ干涉壓迫ヲスルヤウナコトニナルノデアリマス、デアリマスルカラシテ寧ろ是ハ女ハ二十歳、男ハ二十五歳ト云フ風ニシタ方ガ實際のデハナカラウカト思フガ、此點ニ於テ提案者ハ如何ナル所ノ御考ヲ御持チデゴザイマス、之ヲ伺ヒタイト思ヒマス、第四ニ提案者ニ御尋致シタイノハ、此取締ト云フコトデアリマス、是ハ反對論者ノ最も有力ナル所ノ骨子デアルト思フ、酒ハ百毒ノ長ナリト言ヘバ、イヤサウデハナイ、百毒ノ長ダト言フ、花ヨリ團子ダト言ヘバ、決シテサウデハナイ、酒ナクテ何ノ己レノ櫻カナダ、酒ハ生理上宜シクナイ言ヘバ、イヤ

カ、此事ニ付キマシテ矢張土屋清三郎君カラ提案者ニ質問ガアツタノデアリ、所ガ只今委員長ノ此所ニ御達ニナツタノ御答ヲ居リマス、單ニ此田中養達君ノ御答ノミガ紹介セラレテ居ルヤウニ考ヘル、此質問ニ對スル田中君ノ御答ハ、成程委員長ノ只今申サレタヤウナ御答辯ニハナツテ居リマスケレドモ、併ナガラ之ニ對シマシテ宮島幹之助君ノ御答ハ違テ居ルヤウニ私ハ思フノデアリマス、故ニ其速記録ヲ一寸朗讀致シマス「只今土屋君ノ御質問ニ、吾々ノ提案ハ漸禁主義ヲ執ルノデアリカト云フ御話デアリマシタガ、其通りデアリマス——酒ノ如キ最も歴史ノ古い嗜好品ニ對シテ吾等ハ無害ヲ認メ、何トカ其弊ヲ止メントスルナラバ、漸禁主義ヲ執ル外ハナイ、若シ此漸禁主義デヤテ果シテ成功スルナラバ、是ハ世界ニ對シテ宜イ模範ヲ示スモノデアリカト云フ考カラ、吾々之ヲ提案ヲ致シタノデアリマス」斯様ナ答辯ヲ致シテ居ラレマス、是ニ於テ私が疑フ起シタノハ漸禁主義ヲ考ヘテ居ルノデアリ、ケレドモ本案ノ如キハ決シテ總テ全國民ニ禁酒法ヲ布カウト云フ前提デハナイト云フ御答セラレタヤウニ私ハ之ヲ認メテ居ルノデアリ、念ノ爲ニ私ハ之ヲ茲ニ朗讀スル方ガ宜シト思フ、即チ田中委員ハ「二十五歳ニシタノハ漸ヲ追ウテ禁酒ニスルト云フノデアリマスガ、私共モサウ云フ理想ヲ持テ居リマスガ、ソレデ漸ヲ追ウテヤルト云フコトヲ考ヘテ居リマスガ、今ノ儘漸禁主義ニシヤウト云フ前提デハナイカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ、斯ウナツテ居ル、是ニ於テ私ハ提案者ノ諸君ノ中ニ於キマシテモ、此點ニ付テハ御意見ガ一致シテ居ラヌモノデアリカト云フ疑ヲ起スノデアリ、果シテ何レガ本當デアルカ、ソコデ私ハ宮島博士ニ御尋フ致シタイノデアリ、此漸禁主義ト仰シタルノハ、如何ナル所ノ方法ヲ御執リニナルノデアルカ、例ヘバ二十歳ノモノヲ二十五歳ニ引上ゲ、更ニソレヲ三十歳、三十五歳、四十歳ト云フヤウニ漸次之ヲ引上

決シテサウデハナイ、酒ヲ飲マナケレバ本統ノ仕事ハ出來ナイト言ウテ威張ル、是等ハ無論水掛論デアルト考ヘルノデアアル、併ナガラ取締ルコトガ出來ルカ出來ナイカト云フコトハ、是ハ机上ノ空論デアリマス、水掛論デハナイ、實際論デアリマス、若シ實際上ニ於テ之ヲ取締ルコトガ出來ナイト云フコトニナクナラバ、反對論者ノ言ハレルガ如ク、徒ニ法律ヲ拵ヘ、實行ノ出來ナイヤウナ法律ヲ拵ヘルナラバ、即チ是ハ法ノ威信ヲ傷ケルモノデハナイカ、法ノ尊嚴ヲ損スルモノデハナイカ、此法ノ威信ヲ傷ケ尊嚴ヲ損スルト云フ、惡ノ所ノ習慣ヲ國民ニ與ヘルト云フコトハ、二十歳カラ二十五歳マデノ間、酒ヲ飲ム習慣ヲ付ケルノト比較シテトテ大ニ考慮ヲシナケレバナラヌト思フノデアリマス、委員長ノ報告ニモアリマシタ如ク、此取締ト云フコトハ頗ル困難デアアル、此點ニ付テ委員諸君ハ交々文部次官ニモ質問セラレ、文部大臣ニモ質問セラレ、又内務當局ニモ質問セラレテ居ル、所ガ此處ニ出テ居ラレル文部大臣モ、取締ハ頗ル困難ト云ハレル、田中政務次官モ殆ど其取締ハ出來ナイト云フコトヲ言ハレテ居ル、然ラバ内務省ノ當局ハドウカト云フト、内務當局ノ答辯モ矢張取締ハ出來ナイ、人ノ私生活ニ立入ルト云フコトハ、是ハ警察ノ原則トシテ餘リ好マシクナイコトデアアル、ケレドモ實際ニ於テ之ヲ取締ラウト云フ以上ニ於テハ、人ノ私生活ニマデ立入テ取締ラナケレバ、其目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス、然ルニ警察ノ原則カラ云フトソレハ爲シ得ヌノデアアル、何故トナレバ是ヨリ幾多ノ弊害ガ生ズルノデアリマスカラ、實際ニ取締ラウト云フコトニナルト、到底出來ナイト云ハヌバカリノ答辯ヲ與ヘラレテ居ルノデアリマス、左様致シマス云フト、先ヅ政府當局ト云フモノハ、此法律ガ出來マシテモ到底其取締ハ不可能ト云フコトヲ言ハレテ居ルモノト看做シテ宜イノデアアル、左様ナモノヲ無理ヤリニ之ヲ通過セシメテ、而シテ後ニ其取締ガ

出來ナイト云フコトニナク、幾多ノ弊害ヲ茲ニ生ズルヤウナコトニナリマシタナラバ、寧ロ此法律ヲ設ケヌ方ガ宜イデハナイカト考ヘラレルガ、提案者ハ此點ニ付テ如何ナル御自信ガアルノデアリマセウカ、取締上ノ御自信ノアル所ヲ承リタイト思フノデアリマス、次ニ私ハ文部大臣ニ御伺申上ゲタイ、文部大臣ハ酒ノ害ト云フコトヲ實際御認ニナクテゴザルカドウカ、尙ホ文部大臣ハ酒ノ害ハ認メヌコトハナイガ、併シ少シ位ハ青少年ニ飲マシテモ宜シイト云フヤウナ御考ヲ持テゴザルカドウカ、此點ニ於テ私ハ疑問ナキヲ得ヌノデアリマス、委員會ニ於ケル所ノ文部大臣ノ御答辯ヲ見マスト云フト、ドウシテモ此疑ガ生ズルノデアアル、文部大臣ハ或ル委員ノ質問ニ對シマシテ、現行未成年者飲酒禁止法其モノハ、未青年者ガ飲ムノガ惡イト云フノデアリ、之ヲ飲マシタリ、賣タリスルト云フコトガ宜クナイノデアアル、斯様ニ御答ニナテ居ル、所ガ委員ノ中カラ、ソレハサウデハアリマセヌ、此法律ノ第一條ニ、未成年者ハ之ヲ飲ンデハイカヌト規定シテアルト申サレタ時、初メテ御氣付キニナツテ、是ハ自分ノ考慮ヒデアッタト申サレタノデアアル、事ハ誠ニ單純ノヤウデアリマスケレドモ、文部大臣トシテハ如何ニモ此點ニ付テノ注意ガ居イテ居ラナイ、否、大臣ハ此法律ノ存スルト云フコトサヘモ、御忠告ニナツテ居ラレハセヌカト疑ハレルノデアアル、青少年十分ニ監督ヲ致サナケレバナラヌ御位置ニ在ラレル所ノ文部大臣トシテハ、甚ダドウモ不都合ナ話デハナイカト云フ考ヲ起サザルヲ得ナカッタノデアリマス、併シソレハマダ宜シイ、宜シイガ或ル委員カラ教科書ノ中ヘ、十分飲酒ノ害ヲ戒メルヤウナ文句ヲ入レテハドウデアアルカト云フ質問ヲシタノニ對シマシテ、教科書ノ中ニハソレゾレ之ヲ説イテアリマスト云フ御答デアッタノデアリマス、併シ尋常小學校ニ用ヒル所ノ修身書、或ハ讀本等ヲ見マシテモ、生徒用ニハ一ツモナイノデアアル、唯、教師用ニ二箇所アルダケデアアル、ソレモ只僅ニ一口ア

ルノミデアリマス、即チ國語讀本ノ中ニハ、酒ト煙草ノ害ハ今更言フマデモナシ、是ガ教師用ノ中ニアル文句デアアル、又尋常小學校修身書ノ卷ノ五ノ教師用ニ、飲酒喫煙ハ害多ク其習慣ヲ作ラザルヤウニスベシ、是ダケニ過ギナイ、生徒用ニハ何所ヲ見マシテモ見出スコトガ出來マセヌ、唯、高等小學修身書ノ卷ノ一兒童用ノ中ニ、殊ニ飲酒ノ害ハ常ニ一身上ニ止マラズ、延テ子孫ニ及ブモノナリトアルダケデアリマス、併シ大臣ハ此高等小學修身書ノ事ヲ仰シヤタノカモ知レマセヌケレドモ、是ダケデアハ吾々ハ満足スルコトガ出來ナイノデアリマス、若シ大臣ガ眞ニ此青少年ガ酒ヲ飲ンデハ宜クナイト云フ御考デアリマシタナラバ、何故ニ速ニ此教科書ヲ御改正ナサラヌカ、尋常一年、二年、三年、四年、五年、六年ト、各學年ノ教科書ノ中ヘ此飲酒ノ害喫煙ノ害ノアルコトヲ入レサセナイノデアアルカ、眞ニ貴方ガ此飲酒ノ害ヲ御認ニナリマシタナラバ、是位ノコトハナサラレテモ、私ハ然ルベキモノデハナイカト云フ考ヲ持テ居ルノデアアル、而モ大臣ハ既ニ就任以來三年ノ星霜ヲ閱シテ居ル、此間幾多此教科書ノ改正ガ行ハレテ居ルニモ拘ラズ、何等此點ニ付テ御留意ナサレタ點ノナカッタト云フコトカラ考ヘテ見ルト云フト、大臣ノ御眞意ヲ疑ハザルヲ得ヌコトナリ、眞ニ飲酒ノ弊害ヲ必メテゴザルカドウカト云フコトヲ疑フノデアリマス、デアリマスカラシテ、苟モ大臣ガ此飲酒ノ害ヲ御認ニナリマスナラバ、宜シク教科書ヲ御改正ナサレテ一年、二年、三年、四年、五年、六年ト此子供ノ時分カラ酒ノ害ヲ御知ラセニナリマシタナラバ、ソレデスル法律ナドヲ設ケナクとも、必ズヤ國民ハ此飲酒ノ弊害カラ逃ル、コトガ出來ルデアラウト思ヒマスガ、此點ニ付テ大臣ノ御考ハ如何デゴザイマセウカ、今一ツ御伺シタイノハ近頃禁酒運動ナルモノガ盛ニ行ハル、ヤウニナリマシタガ、若シ宗教家ガ此禁酒運動ヲ爲シ、或ハ篤志家ガ、禁酒會ナドヲ設ケマシテ、禁酒運動ヲ致シマシタナラバ、相當效

果ノアルコト、考ヘルノデアリマスガ、大臣ハ此禁酒運動ヤ、禁酒會ト云フヤウナモノニ對シ、十分之ヲ御助成シテヤラウト云フ所ノ御考ハナイカ、若シ大臣ガ十分之ヲ御助成ナサレバ、斯様ナ法律等ヲ設ケナクとも、大分禁酒ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマスガ、此點ヲ私ハ大臣ニ御伺申上ゲル次第デアリマス、尙ホ御尋申上ゲタイコトモアリマスケレドモ、此位デ止メルコトニ致シマス

○田中養達君 簡單デスカラ此席カラ申上ゲマス、提案者トシマシテ只今加藤君ノ御質疑ニ對シマシテハ、後刻賛成演説ノ時ニ申上ゲル方ガ宜イカト存ジマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

（國務大臣岡田良平君登壇）

○國務大臣（岡田良平君） 只今加藤君ノ御尋ニナリマシタ委員會ニ於ケル私ノ答辯ニ對シテ、御疑ガ起タコトニ對シテ御答ヲ致スノデアリマス、私ハ青少年ニ少々位酒ヲ飲マシテモ宜イダラウトハ思ハヌノデアリマス、成ベク青少年ハ酒ヲ飲マヌ方ガ宜イト思フノデアリマス、青少年ノミナラズ老年ト雖モ飲マヌ方ガ宜イト考ヘルノデアアル（拍手）然ルニ私ガ未成年者禁酒法ニ付テ申上ゲマシタコトニ少シ誤リノアッタト云フコトヲ御指摘ニナリマシタ、如何ニモ誤リヲ申上ゲタノデアリマス、私ノ申上ゲマシタノハ、詰リ未成年者ノ飲酒ニ對シマシテ制裁ガ設ケテナイト云フコトヲ申ス趣旨デアッタノデアリマス、制裁ハ設ケテアリマセヌ、飲酒ハ禁ジテハアリマスケレドモ、未成年者ニ對スル制裁ハ規定シテナイノデアリマス、其事ヲ私ガ申上ゲタノデアリマシテ、決シテ未成年者ガ飲酒ヲシテ宜イト云フ精神ヲ以テ、申上ゲタノデアリマス、又小學校ノ教科書ニ於テ、飲酒ノ害ハ説イテアルト云フコトヲ申上ゲマシタ、如何ニモ只今加藤君ノ仰セニナリマシタ通りニ、是ハ尋常小學ニ於キマシテハ、教師用、高等小學ニ於キマシテハ生徒用並ニ教師用ニ記載シテアリマス、其記載ガ不十分デアアル

ト云フコトガ加藤君ノ御質問ノ要旨デアリマス、成程各學年ニ互リマシテ繰返シテ之ヲ説明ハ致シテ居ラスノデアリマス、併ナガラ小學校ニ於テ教ユベキ事ハ、此禁酒ノ事柄バカリデハナイノデアリマス、禁酒ト云フコトハ固ヨリ必要ナコトデアリマス、レドモ、併シソレバカリノ爲ニ教科書ヲ撰牲ニスルト云フ譯ニハ參ラヌノデアリマスルカラ、已ムヲ得ズ此程度ニ止メル外ハ致方ガナイト思フデアリマス、ソレカラ次ニ篤志家ノ禁酒運動ニ付テ、之ヲ補助協力スルノ意思ハナイカト云フ御尋デアリマス、此禁酒運動ハ洵ニ宜シイコト、考ヘテ居リマス、當局者トシテ之ニ對シテ援助ヲ與ヘ得ベキ方法ガアリマシタナラバ、是ハ決シテ其勞ヲ惜マヌ考デゴザイマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對スル質疑ハ此程度ヲ以テ止メラレシコトヲ望ムトノ動議ガ井本君ヨリ提出サレテ居リマス、(贊成)「ノー」ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、質疑ハ終局致シマシタ、是ヨリ討論ニ入リマス、石井三郎君

○石井三郎君 此改正案ニ付キマシテ提案者諸君ト所見ヲ異ニスル者デアリマス、種々ナル經驗ノ上カラ見マシテ、是ハ中ニ社會ノ上ニ於テ問題ノ一ツニナリマス、中ニ是ハ重大ナル問題デアルト私ハ思フノデアリマス、提案者諸君ガ御述ニナルコトハ一通リハ御尤ノ節モアリマス、併ナガラ國民生活ノ實際ノ上ヨリ見マシテ、極メテ重大ナル問題デアリマシテ、到底實行不可能ノ案デアルト私ハ思フノデアリマス、過日日本員ガ委員會ニ於キマシテ宴會又ハ集會ノ席上ニ於テ、酒間ヲ幹旋スル所ノ藝者酌婦ガ客ヲ勸メニ依テ飲酒シタ場合ハ、其客ハ共犯ニナリハセヌカト質問シタ所、之ニ對シテ提案者ハ可否ノ答辯ヲ與ヘナイノデアリ

マス、是等ハ罰則ノ上カラ見マシテ、大ニ攻究スベキ問題デアルト私ハ思フノデアリマス、現ニ内務省ノ政府委員並ニ文部省ノ政府委員ニ於カレテモ、是ハ全ク今日ノ警察力ヲ以テシテハ、到底其取締ハ出來ナイ、大困難ヲ生ズルト云フコトハ、是ハ兩政府委員ガ申サレテ居ルノデアリマス、殊ニ文部政府委員ガ申サレテ居リマス、餘リニ苛酷ナル壓制ナル訓令ヲ發スルコトハ出來ナイ、要スルニ取締ガ出來ナイト云フコトヲ仄ニ申サレテ居ルノデアリマス、又我國ノ歲計ノ上ヨリ見マシテ、此法ノ制定ニ依リマシテ、酒造稅ノ二億三千八百萬圓ノ内、少クモ二割以上ヲ減ズルコトナラバ、歲入ノ上ニ即チ五千萬圓ノ缺陷ヲ生ズルノデアリマス、是等ハ如何ニスルカトノ本員ノ問ニ對シマス、提案者ハ是モ可否ノ御答ガナイノデアリマス、假ニ本案ガ成立ヲ見テ、此四月ヨリ實施スルコトシマシテ、既ニ本院ニ於テ議決シタル所ノ來年度豫算ニ大影響ヲ來スコトハ明カナル事實ナノデアリマス、斯ル杜撰ナル不徹底極マル所ノ國法ヲ制定シテ、一面ニハ法ノ尊嚴ヲ傷ケ、一面ニハ法ノ威信ヲ失墜セシムルコトハ、思想上由々シキ問題デアツテ、本案ノ如キハ實ニ國民生活ヲ壓迫シ、其精神ノ慰安ヲ奪ヒ、以テ青少年ノ自由ヲ拘束スル惡法デアルト思フノデアリマス(「ヒヤ」ノ一)

ト呼ビ拍手起ル) 若シ本案ノ成立ヲ見ルニ於テハ、農村ノ青壯年並ニ勞働者階級ニ於ケル唯一無二ノ享樂慰安之ヲ奪取スルノ結果ハ、生産能力ノ上ニ多大ノ支障ヲ來スノミナラズ、勞働者階級ハ求メルニ賭博トカ或ハ色慾方面ニ耽溺シテ、國民ノ精神上並ニ保健上ニ甚シキ惡結果ヲ來シテ、我國古來幾千年來冠婚葬祭ニ使用シ來リタル所ノ慣習ハ急激ニ打破スルコトニナルノデアリマス、尙ホ我國ノ美風土所ノ總テノ儀禮ハ、一朝ニシテ覆サレコトニモナルノデアリマス、斯ル風俗人情ニ慣レ來タル所ノ我國ニ於テハ、徒ニ法網ヲ潛リ精神のニ罪惡ヲ犯ス者ハ、全日本ニ互リマシテ、幾千萬ノ多キニ至ルヤモ知レヌト思フノデアリマス、實ニ恐レベキ結果ヲ生ジハシマイカ、之ヲ見レバ此案其モノハ青壯年ニ對シテ一ツノ爆彈ヲ投付ケタウニ私ハ考ヘルノデアリマス(拍手) 殊ニ前途有爲ナル所ノ壯青年ヲシテ自暴自棄ニ陥ラシメ、大切ナル一生ヲ捨鉢ニ送リ去ルノ動機ヲ生ズルコトニモナラベテ、思想ヲ惡化スル所ノ挑發者ナリト言ハレテモ、辯解ノ言葉ガナイト私ハ思フノデアリマス、尙ホ此提案者諸君ノ中ニハ、直接間接デアハアリマセウケレドモ、宗教ニ最モ近い方ガ多イト思フノデアリマス、若シ宗教方面ニ關係ノアル方ガ多イトスレバ、何故宗教トカ教育方面ニ依テ之ヲ矯正スルコト云フ御考ガ付カナカッタカ、唯、一片ノ新シイ思想ノ爲ニ動カサレテ、「一ニモ二ニモ斯ウ云フコトヲ立法部ニ持出シテ、サウシテ法ノ制裁ニ依テ國民一般ニ向テ之ヲ矯正サスル」ト云フヤウニセシムルモノト私ハ思フノデアリマス(「ノー」ト、拍手) 日本人ハ日本人ナリ、吾ハ日本國民ナリト云フヤウナ、大ナル精神ヲ以テ戴キタイト私ハ思フノデアリマス(拍手) 願ハクハ本案實成ノ諸君ハ、之ヲ常識ニ質シ、更ニ國民生活ノ實際ニ徵シテ、自己ノ良心ヲ欺クコトナク宜シク本案ニ反對シ、以テ教育及宗教道德ノ力ニ依テ、青年ノ自省心ヲ誘發シ、矯正ノ方法ヲ講ズルコトニ努メラレシコトヲ希望致シマシテ、本案ニ反對ノ意ヲ表スルモノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 田中養達君

「田中養達君登壇」

○田中養達君 只今上程サレテ居リマス案ニ賛成ノ意見ヲ簡單ニ申述ベタイト思ヒマス、併セテ加藤君ノ御質問ニ御答シヤウト思フノデアリマス、私不幸ニシテ今朝來腸ヲ痛メマシテ、今マデ醫務室ニ寝テ居タヤウナ次第デアリマス、或ハ力ガ足ラヌデ聲ガ届カヌカモ存ジマセヌガ、暫クノ間御清聴ヲ願ヒマス、大體酒ガ御互ノ健康ノ爲ニ善クナイト云フ、此正シイ概念ハ一般ニ在ルノデアリマス、併ナガラ又茲ニ其反對

ニ、少量デアアルナレバ或ハ俗ニ謂フ藥ニナリハシマイカ、少シ位ナラバ飲ンデモ宜カラウト云フヤウナ間違ウタ概念モ亦一般ニ彌蔓シテ居ルノデアリマス、併ナガラ今日ノ學說ノ結果ニ依リマス、假令少量デモ要スルニ此少量ナル言葉ハ、俗ニ謂フホロ酔ヒ機嫌デアナイカト思フ、此狀態デモ確ニ御互ノ健康ニ害ガアルモノナリト云フ學者ノ結論ハ一致致シテ居リマス、三月三日ノ藥學新聞ニアリマシタ通り、慶應義塾ノ柳澤醫學博士ハ、只今申シマスヤウニホロ酔ヒ機嫌デアアルナラバ、都合ニ依レバ俗ニ謂フ細菌ニ對スル抗毒體ナルモノガ或ハ餘計殖エヤシマイカ、細菌ニ對スル詰リ毒ニ打勝ツ或ル種ノ物體ガ或ハ殖エヤスマイカト云フ、此前提ノ下ニ研究サレタ結果ヲ發表致シテ居リマス、矢張ホロ酔ヒ機嫌ノ時デモ、少クモ御互ノ體ニ幾分デモ影響ノアルダケ飲ンダ時ニハ、傳染病ニ對スル抗毒體ナルモノガ壞ハサレテ、少クナルコト云フ發表致シテ居リマス、唯、私諸君ニ此際御了解ヲ願フデ置キタイトハ、此柳澤博士ナル人ハ、要スルニ少量ノ酒ナレバ都合ニ依レバ或ハ免疫體ガ餘計出來ヤスマイカト云フ、寧ろ善意ニ解釋シタ研究デアタラシデアリマス、唯今申シマスヤウナ結論ニ到達シタノデアリマス、願ハクハ諸君ハセメテモ斯ノ如キ醫學ノ學者ノ報告ダケニハ敬意ヲ拂テ戴キタイト思ヒマス、殊ニ米國ノ醫學者ハ近頃酒ト云フモノハ興奮劑トシテモ何等ノ價值ガナイ、榮養トシテモ無論價值ガナイ、隨テ強壯劑トシテモ何等ノ價值ガナイ、斯ウ云フ實ハ結論ニ到達致シテ居ルノデアリマス、私ハ(ノウノ) 暫クノ間各方面カラ之ヲ考察シテ見タイト思フノデアリマス(ノウノ) 願ハクハ反對ガアタラ堂々ト後ニヤッテ戴キタイト、苟モ此重大ナル法案ヲ論ジテ居ルノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 田中養達君

「發言スル者アリ」

○田中養達君(續) 第一私ハ藥物學ノ方面カラ之ヲ研究シテ見タイト思フノデアリマ

○田中養達君(續) 第一私ハ藥物學ノ方面カラ之ヲ研究シテ見タイト思フノデアリマ

○田中養達君(續) 第一私ハ藥物學ノ方面カラ之ヲ研究シテ見タイト思フノデアリマ

ス、ソレハ酒ナルモノハ今日マデ興奮劑トシテ用ヒラレテ居タリマス、然ルニモ拘ラズ今日ノ研究ノ結果ニ依リマス、酒ハ興奮劑デモナイノダ、寧ロ「コロホルム」「エーテル」等ノ魔酔劑ナリト云フコトニナッテ居リマス(「ノウ」)ト呼フ者アリ)如何ニ田淵君ガ博學デアッテモ、藥物學ノ權威者ガ確定シテ居ル議論ニ對シテハ、反對スルコトハ出來ヌト思フ、兎ニ角只今申シマスヤウニ興奮劑ニアラズシテ魔酔劑ナリト云フコトニナッテ居リマス、殊ニ此腦ノ緻密ナ考、或ハ結合ノ考、或ハ復考ノ考、此種ノ神經ヲ麻痺スルノデアリマス、隨テ論者曰ク、一杯飲ムト隨分元氣ガ出ルト云フ、テ居ルガ、ソレハ只今申シマスヤウニ復考、重ネテ考ヘ直ストカ、或ハ緻密ナル考ト云フモノガ、全然麻痺サレマシタ結果ニ於ケル蠻勇ノ勇氣デアッテ、本當ノ勇氣デハナイノデアリマス、然ルニ諸君先般委員會ノ席上ニ於テ、某氏曰ク、彼ノ四十七士ノ壯勇、彼ノ出征軍人等ガ一杯飲ンデ出スノ元氣ハ、到底酒ヲ廢メルニハ忍ビナイ、酒ノ爲ニドエライ元氣ガ出ルト盛ニヤリマシタ、是モ私ハ斯ク申上ゲタイ、彼ノ四十七士ノ勇氣ハ、一杯ノ酒ノ爲デハナイノデアリマス、殊ニ彼ノ出征軍人諸君ガ、少クモ動員ノ命令ヲ受取ルト同時ニ、國家ノ爲ニ身命ヲ捧ダモノデアリマス、然ルニ唯單ニ一杯元氣ニ依ッテアノ種ノ興奮ヲ爲サレタト云フコトニナリマスナラバ、國家ノ殊勲者ニ對シテノ禮ヲ缺クノデアリマス、私ハ思フノデアリマス(拍手「ノウ」)ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ

○田中養達君(續) 次ニ私ハ最も大切ナルコトハ、殊ニ諸君御互ガ高等動物ナリト云フ、斯ノ如ク誇リ得ラレル所以ハ何カト云フ、腦ニ於テ高等精神作用ガアルカラデアル、所デ其高等精神作用ナルモノハ、一面ニ於テ抑制神經ト云フモノガアル、抑制ノ作用デアル、御互ハ若シ抑制ノ作用ガ無カリセバ、或ハ禽獸ニ等シイカモ知レマセヌ(拍手)併ナガラ斯ウモ言ウテハ工合ガ

惡カラウ、是デハ人前デ恰好ガ惡イト云フ此抑制神經ノ爲ニ、御互ガ高等精神作用ト云フモノガアルノデアリマス、所デ此「アルコール」ナルモノハ先ヅ第一ニ、此抑制神經ヲ麻痺サスノデアリマス、隨テ御承知ノ通り平素可ナリオトナシイ方ガ、一杯機嫌ニナルト大言壯語シマス、怒鳴リ倒ス人ガアル、又喧嘩ヲスルヤウニ、一面ニ於テ抑制神經ノ麻痺デアルカラ、非常ニ私ハ之ヲ恐レテ居ルノデアリマス(拍手)又一部ノ論者ハ曰ク、此興奮狀態ヲシテ浩然ノ氣ヲ養フモノナリト申シテ居リマスガ、決シテ正シキ浩然ノ氣デアリマセヌ、只今申シマスヤウニ、一面ニ於ケル野獸性ノ反對ノ抑制神經ノ麻痺デアルコトヲ御承知願ヒタイノデアリマス、殊ニ過日ノ委員會ノ席上ニ於テ、先輩吉良元夫君曰ク、本案ニハ反對ダ、但シセメテ私ハアノ議場デ一杯元氣デ出ラレラゲハ廢メテ貰ヒタイト云フ御説ガアリマシタ(拍手「何ヲ言ウカ」ト呼フ者アリ)此事ニ付キマシテ貴方ガタノ自由デアルカラ、決シテ束縛スルモノデハナイノデアリマス、併ナガラ諸君斯ノ如ク國民公開ノ前ニ於テ、吾々ハ國家ヲ論ジテ居ルノデアアル、古來日本ノ國ニ於テハ、嚴肅ナル席上ニ於テハ多ク酒ヲ用ヒテ居リマセヌ、私ハ此聽衆者諸君ノ中カラ時々反問サレ、全體議員ハ一杯機嫌デ議場ヘ出ルノデアリマスガ、ト問ハレノデアリマス、是ハ私共ト致シマシテ、願ハクハ此種ノコトハ慎ミ得ラレナラバ慎ンデ見タイト思ヒマス、次ニ警衛衛生ノ方面カラ私論ジテ見タイト思ヒマス、總テ「アルコール」ト云フモノハ、總テ組織ノ抵抗ヲ弱クスルモノデアリマス、隨テ有ユル病氣ニ罹リ易クナリマス、殊ニ只今申サヤウニ柳澤博士ノ説ニ依リマシテモ、唯、ホロ酔ヒ機嫌ノ時デスラ微菌ニ對スル抵抗力ガ非常ニ弱クナルト云フコトヲ近日發表シテ居リマス、ソレカラ考ヘテ見マス、御互ガ酒ノ爲ニ病氣ニ罹リ易クナルト云フコトダケハ、間違ノナイ事實ト思ヒマス、殊ニ一面今日ノ

精神病者ノ多クハ大抵大酒呑カ、或ハ大酒呑ノ子孫ニ多イノデアリマス、此種ノコトハ願ハクハ此折角ノ立派ノ統計ヲ否定セヌヤウニシテ戴キタイト思フノデアリマス、兎ニモ角ニモ今日世界ニ於ケル精神病者ノ多數ハ、酒呑カ或ハ酒吞ノ子孫デアルコトヲ御記憶ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、サウシテ先程ノ石井君ノ御説ニ依リマス、或ハ酒ヲ廢メルト娛樂ヲ取ラレラゲ女ニ親ミハスマイル、或ハ賭博ヲヤリハスマイルト云フ御説ガアリマシタガ、是程矛盾著ノ説ヲ聽イコトガアリマセヌ、一杯元氣デ女ヲ買ヒニ行ク人コソアレ素面デ女ヲ買ヒニ行ク人ハナイノデアリマス(「アルアル」ト呼フ者アリ)決シテ是ハ娛樂ヲ奪フモノニアラズシテ、先日來花柳病法案ガ本議場ニ提案サレマシタガ、酒ノ爲ニ女ニ接シ、サウシテ花柳病ニ罹リ易イ機會ヲ非常ニ多クスルト云フコトダケハ、諸君ノ御承知ノコトデアルト私ハ思ッテ居ル、所デ諸君只今申シマスヤウニ、自分ノ體ヲ壞ハシ、精神的ニ壞ハシテ、而モモウ一步進ンデ最モ御互ノ憤ムベキコトハ、此酒ノ爲ニ自己ノ子孫ガ非常ニ弱ルト云フコトデアリマス、是モ矢張學者ノ統計ニ依ッテ、酒ヲ飲ム人ノ子供ト酒ヲ飲ム人ノ子供ノ死亡率ヲ見マス、飲ム人ノ方ガ五倍ニナッテ居ル事實ガアリマス、此種ノ統計ハ英國ニ於テ最モ明瞭ニ發表サレテ居リ、間違ノナイコトデアリマス、願ハクハ諸君ハ幾ラ御好キデモ、セメテ子孫ダケハ健全ナ人ニシテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ今日最モ恐ルベキコトハ、醫學上ニ於キマシテ例ノ腹痛病質ナル病氣ガアリマス、原因不明ノドウシテモ分ラズニ直グ死ヌ病氣ガアリマス、此病氣モ矢張酒吞ノ子デアルト云フコトガ近頃發見サレマシタ、此種ノコトハ是非ドウカ諸君ノ御再考ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、尙ホ一面人口食糧問題ノ上カラ考ヘマシテモ、全部禁酒スルト云フノデアリマセヌガ、若シ此法案ガ通過スルト假定シマスナラバ、必ズヤ幾何カノ米ガ無用ニ消費サレルコトヲ防ギ得ラレルコ

ト、思ヒマス、或ル意味ニ於テ幾何カノ食糧問題モ之ニ依ッテ解決サレルコトハ、當然ノコト、私思ッテ居リマス、而シテ前ニ「アルコール」ナルモノガ全然滋養ノ價值ナキモノナリト云フコトヲ申上ゲマシタガ、併ナガラ「アルコール」ナルモノハ、非常ニ「カロリ」ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、是ハ論者ノ一ツノ根據トサレテ居リマス、蛋白質ヨリモ脂肪ヨリモ、同量ノ「アルコール」ノ方ガ「カロリ」ガ多イデハナイカト斯ク申シテ居リマス、成程「カロリ」ハ多イノデアリマス、併ナガラ御承知ノ通り一杯飲ミマス同時ニ、血管ノ末梢神經ニ影響シマシテ、直グ此末梢神經ガ——末梢血管ガ擴張スルノデアリマス、御承知ノ通り一杯飲ムト眞赤ナ顔ニオナリニナルノデアリマス、所デ折角ノ「カロリ」ガアリマシテモ、丁度窓ヲ開ケテ「ストーブ」ヲ焚イテ居ルト同ジ結果ニナリマス、熾ニ「ストーブ」ヲ焚イテ「カロリ」ハ起シテ居リマスガ、一面窓ヲ開ケテドント熱ヲ放散スルト同ジコトデ、折角一杯飲ンデ「カロリ」ガ出來マシテモ、皮膚ノ血管ガ擴張スル爲ニ、盛ニ熱ヲ發散シテ、結局何ニモナラヌコトニナッテ居ルコトモ是モ事實デアリマス、只今申シマスヤウニ、是ガ全禁酒デアリマセヌケレドモ、若シ全然禁酒サル、コト云フコトデアルナラバ、一箇年ノ消費約十五億圓ニマデ達スルト思フト、決シテ輕々デハナイト私ハ思ッテ居リマス、殊ニ又社會政策ノ上カラ考ヘマシテモ、御互ノ高等精神作用ガ麻痺シタ結果、其處ニ恐シイ不義不徳ガ行ハレノデアリマス、是ガ爲ニ思ハヌ犯罪者ヲ出シテ居リマス、而シテ社會ノ風紀トカ安寧ヲ害スル多クノ人ハ、一杯元氣後ニヤル人ガ最も多イト云フ事實ガアリマス、此種ノ事ハ矢張世界ノ統計カラ見マシテモ、決シテ間違ナイ事實デアリマス、而シテ此結果ガ一面ニ於テハ孤兒院トカ、或ハ養老院、精神病院ト云フヤウナモノヲ非常ニ賑ハシテ居リマスルカラ、國家トシテハ二重モ三重モ損失デアルコトハ之ヲ以テモ御承知ノコトデアラウト思ヒマス、次

ニ經濟上ノ問題カラ考ヘマシテモ、若モ是ガ全禁酒サレバ十五億圓、或ハ此二十五歲禁酒法案デモ、或ハ數億圓圓助カニカモ知レナイ、而シテ一面ニ於テハ此酒ヲ飲シテ爲ニ能率ノ低下スルコト、是モ事實デアリマス、是ハ論者曰ク、一杯元氣デ能率ヲ出スモノダト盛ニ論セラレテ居リマス、此ハ全然根柢ノ無イ事實デアリマス、此事ニ付キマシテハ獨逸ノ「クレーベリン」博士ノ門下ガ最も熱心ニ、最も實際ニ、學者ガ盛ニ研究致シテ居リマス、確ニ一杯飲シテ能率ガ惡イ、低下スルモノナリト云フコトノ結論ニ達シテ居リマス、現ニ彼ノ米國ガ禁酒ヲシマシタ第一ノ原因ハ、諸君御承知ノ通り彼ノ歐洲大戦亂ノ爲ニ、何トカシテ探炭率ヲ擧ゲテ見タイ、今少シク餘計ニ石炭ヲ採ルヤウニシテ見タイト云フ會議ヲヤッタトキニ、ドウシテモ石炭ヲ餘計採ルヤウニスルニハ、勞働者ニ酒ヲ禁ズルヨリ外ハナイト云フコトニナッタデアリマス、ソレガ爲ニ米國ガ第一ニ之ヲ禁酒シタノデアリマス、斯ノ如ク學問上ト云ヒ、經驗ノ上カラ云ヒ、殊ニ個人ノニ考ヘテ見マシテモ、此位不經濟ナモノハアリマセ、若シ酒ヲ飲マズニ居リマスルナラバ、必ズ御互ノ經濟ハ好クナルコトト思ヒマス、是ガ銀行ニ行キマス、或ハ生産業其他ノ方面ニ振向ケラレコトハ、明カナ事實ト私ハ思ヒマス、シテ見マストト個人カラ考ヘテモ、國家カラ考ヘマシテモ、非常ナル不經濟ナモノデア、以上ノ如ク不生産的ノモノデアリマス、而モ社會的ニハ社會ノ厄介者デア、或ハ精神病者ニハ孤兒院、養老院等ヲ賑カスニ至リマシテハ、國家ハ前ニ申シマスルヤウニ、二重モ三重モ是ガ爲ニ損失ヲヤツテ居ルデアリマス、先程石井君ノ御説ニハ經濟上或ハ是ガ勵行サレト、五千萬圓位國庫ノ收入減ラハスルカト云フ御説デアリマス、是ハ私的確ナル數字ハ分リマセヌガ、ヨリ以上デアテ欲シイと思、テ居リマス、御承知ノ通り酒ナルモノハ愈、御互ノ健康ニ惡イト確定シマシタ以上ハ、丁度

彼ノ支那ノ國ガ、彼ノ財政窮乏ノ際ニ於テスラ、彼ノ阿片ヲ禁止スルガ爲ニ、七百五十萬兩ノ阿片ヲ一週ニ燒却シタ事實ハ諸君御承知ノコト、思ヒマス、支那ノ國デスラモ國民保健ノ爲ニハ、彼ノ財政窮乏ノ際ニ七百五十萬兩ノ阿片ヲ燒却シタ事實カラ考ヘマシテモ、三千万圓カ五千万圓位ノ國庫ノ收入減ハ何トドモシテ補ヒ得ラレモノト私ハ思、テ居リマス、私共ハ大體ニ於キマシテ以上ノヤウナ理由ノ爲ニ之ニ賛成シタ次第デアリマス、吾等ガ之ニ賛成シマシタ第一ノ動機ハ何カト云フ、先ヅ二十五歲ニシマスルト、全國ノ青年團ハ悉ク取締ラレマス、學生ノ多クガ取締ラレマス、殊ニ此事ニ付テハ諸君ノ御再考ヲ煩シタイノハ、現ニ東京ニ於テモ學校ノ所在地ハ「バー」ノ所在地ニナツテ居リマス、彼ノ學生ガ折角家庭ニ離レテ勉強シテ居ルト思、テ居ルノニ、彼ノ一杯元氣デ「カフエ」デ用モ無イ女ト肩ヲ列ベテ居、テ姿ヲ見タキハ、親ハ何ト思フデアリマセウカ、殊ニ彼ノ軍隊ノ殆ド全部ガ是ガ爲ニ禁酒サレマス、併ナガラ聞キマスレバ軍隊ハ現ニ殆ド禁酒法ヲヤツテ居ラシタアリマス、是ハ私ハ非常ニ心強ク感ズル次第デアリマス、兎ニ角今ノヤウナ理由デアリマス、先刻來本問題ニ付キマシテ、反對論者ノ大體ヲ綜合致シテ見マスルト、酒ヲ禁ズルコトハ自由ヲ束縛スルモノデア、或ハ本能ダ、或ハ毒ナラ何故止メテシマハナイカト、斯ウ云フ風ノ御説モアリマシタヤウデアリマス、私共ハ現在飲ミツツアル多數ノ國民カラ、一時ニ益ヲ奪ハウト云フ者デハ斷ジテナイノデアリマス、而シテ前ニ申シマスルヤウニ、酒ハ習慣ニコソ依、テ飲ミタナリマセ、習慣サヘ付ケナンシラ決シテ飲ミタガルモノデハナイト私ハ思、テ居リマス、ソレ程毒ナラ何故止メテシマハナイカト云フ御説ニ付キマシテハ、例ノ彼ノ臺灣ニ於テ阿片ヲ禁止シタ事實ヲ諸君ハ御承知デアリマセウ、彼ノ阿片ハ矢張漸進的ニ臺灣ヲ禁止シテ、今日アレカ全

然禁止サレタ事實カラ考ヘマシテモ、是非ハ漸進的ニヤル方ガ效果ノ多イモノナリト思、テ居リマス、尙ホ只今加藤サンノ御説ニ依リマス、宜シク此種ノモノハ法ニ依ラズシテ、或ハ宗教教育ニ頼ルベキモノナリト云フ御説デアリマス、(其通り)ト呼フ者アリ、私ハ非常ニ同感デアリマス、併ナガラ諸君、三千年以前ニ釋迦ガ酒ヲ非常ニ禁ジテ居リマス、而モ是ガ千幾百年ノ間日本ニ於キマシテハ、殆ド國教デモアルガ如ク盛ンデアッタノデアリマス、然ルニモ拘ラズ今日宗教界ノ現狀ハ果シテ如何ト私ハ申シタイ、仍テ今日私ハ宗教家ノ手ニ任スコトハ出來ヌ問題ナリト思、テ居リマス、尙ホ一面ニ於テ教育ノ方ニ依ルト云フ御説デアリマス、是ハ私ハ非常ニ喜ンデ居リマス、殊ニ此ニ於テ現政府ガ餘リニ此問題ニ就テ乘リ氣ニナラヌコトヲ私ハ非常ニ不滿ヲ抱イテ居ル次第デアリマス、苟モ此種ノコトニ向、テハ政府殊ニ教育會ニ在ル人ハ舉、テ之ニ賛成スベキ筈ノモノト思、テ居、テ、イヤ都合ニ依レバ道理ガドウノ斯ウノト云フヤウナ爲ニ、之ニ反對ノ意味ヲ持、テ居ルコトヲ洵ニ遺憾ニ思ヒマス、先程ドナタカノ御説ノ如ク、元來酒ハ古來カラ神酒トカ或ハ天蓋ヲ下サル時ニドウカカラ云フ御説ガアリマシタガ、諸君モ承知ノ如ク酒ハバツト以前ハ神酒ナルモノハ悉ク今申シマスル甘酒デアリマス、前ノ曉造、テ「神主ガ前ノ曉齋戒沐浴シテ酒ヲ造、テ、ソレヲ翌日即チ甘酒ノ形デ神前ニ供ヘタト云フ事實ガアリマス(拍手)清酒ヲ用ヒルヤウニナリマシタノハ、比較的若イコトデア、ルノデアリマス、サウシマスルナラバ、古來ノ風習ヲ破ルト言ハレルナラバ、バツト古來ノ風習ヲ破ルシテ載キタイト思フノデアリマス、(發言スル者多シ)若シ教育ノ方ニ依ルト云フコトデア、ルナラバ、米國ニ於キマシテハ禁酒法ヲ布カシガ爲ニ、約百年間小學校ノ兒童ヲ教育致シテ居、若モ是カラ教育ノ方ニ依ラウトスルナラバ、矢張日本モ三十年五十年ノ後デナト、私ハ此酒ノ害毒ト云フコトガ國民一般

ニ徹底セヌト思フノデアリマス、(反對)ト呼フ者アリ、シテ見マスレバ三十年乃至五十年ノ間ノ文化ガ、世界各國ヨリ遅レルト云フコトヲ如何ニスルノデアリマス、苟モ國家ヲ憂ヘル念ガアルナラバ、是ハ決シテ等閑ニ付スル問題デハナイト私ハ思、テ居リマス、尙ホ最後ニ申上ゲテ置キタイノハ、成程此法ヲヤツテモ履行出來ヌデハナイカ履行ガ出來ヌ法律ナラバ廢メタラドウカト云フ、御説御尤デアリマス、併ナガラ何ノ法デモ法ノミガ決シテ履行スルモノデアリマセヌ、宜シク官憲ト御互民衆ガ之ニ理解ヲ以テ履行スルヤウニスルベ、必ズ是ハ履行サレルト云フ事、其事ハ決シテ罪惡デハナイト思フノデアリマス、現在ノ法律ニ於テ澤山ノ罪人ヲ造リタイハ無論思、テ居リマセヌ、併ナガラ諸君全然酒ト云フコトニ付テ無知ノ青年並ニ勞働者ノ諸君ガ、知ラズ識ラズノ間ニスルノト深味ニ這入、テ行ク鐵條網ヲ造、テ、此處カラ先ハ行クナヨト言フノデアリマス、至テ慈悲ノ心ニ發シタ法デアリマス(拍手)私ハ滿場ノ諸君ガ如何ニ御酒ガ御好キデモ、ドウナサツテモ、俺ノ子ハ一番俺以上ノ酒飲ニシテヤリタイト云フ御心ニハナレナイト思ヒマス(拍手)諸君ノ愛スル子女ノ嬌聲ヲ探ラウトスルノハ、俺ヨリ一番餘計飲メル嬌ヲ探ラウトスル方ハ何處ニモ居ラレナイト思ヒマス(拍手)ソレハ當然デス、御互ノ子女ノ健康ヲ憂ヘル、而モ自分ノ家ノ子孫ノ繁榮ヲ期スル上カラハ當然ノコト、思ヒマス、併ナガラ諸君、唯、自分ノ家ノ子孫トカ、或ハ自分ノ家ノ繁榮ト云フ小サナコトデナク、希クハ諸君ハイマ少シク大キク全國ノ青年ノ健康ノ爲、而モ國家百年ノ爲ニスル此意味ニ於テ、今少シ此慈悲ヲ引伸シテ載キタイト私ハ思ヒマス(拍手)決シテ私共ハ彼等ノ自由ヲ奪フノデアリマセヌ、知ラズ識ラズ溺レル此青年ノ爲ニ鐵條網ヲ造リ、サウシテ其人等ノ健康ト幸福ノ爲ニ作ル此法、之ニ向、テ反對サレル諸君ノ意味ガ私ニハ分リマセヌ

〔簡單〕ト呼フ者アリ。尙ホ私ハ最後ニ一ツ申シテ置キタイコトハ、本案ハ昨年當院ヲ通過シタサウデアリマス、併ナガラ貴族院デ審査未了ノ爲ニ之ヲ握リ潰サレテ居リマス、人曰ク或ハヒヨットスルト是ガ貴族院デ握リ潰サレノデハナイカト云フヤウナコトヲ聞キマスアレドモ、私之ヲ俄ニ信ジマセヌ、如何ニモ畏イコトデアリマスガ——私此昭和ノ第一線ニ於テ、全國ノ青年ノ健康ト而シテ國家百年ノ爲ニ此種ノ事ヲ議シテ居ルダケデモ、果シテ——思フテ居リマス〔拍手〕然ルニ拘ラズアノ貴族院、皇室ノ藩屏デアル貴族院、平素陛下ノ御側ニ奉仕スル機會ノ最も多イアノ貴族院ノ連中ガ、此陛下ノ大御心ニ對シ奉テ、マサカ此法案ヲ握潰シニハサレヌコト、深ク信ジテ居ル次第デアリマス〔拍手〕モト申上ダタイガ、只今ハ申上ダマセヌ、今朝來病氣ヲシテ居リマス、ドウカ以上ノ意味デスカラ、是非御賛同下サランコトヲ切ニ願フテ置キマス〔拍手〕

○加藤知正君 議長々々

○副議長(小泉又次郎君) 加藤君、何デスカ

○加藤知正君 私ノ質問ニ對シテ田中君ノ答辯セラレタ事ニ付テ一言致シタイ、簡單デアリマスカラ自席ヨリ申上ダマス

○副議長(小泉又次郎君) 討論ニシラヌヤウニ、簡單ニ願ヒマス

○加藤知正君 宜シウゴザイマス、私ノ質問ニ對シテ當テ居リマセヌ、故ニ遺憾ナガラ私ノ質問ニハ御答下サルコトガ出來ナイモノト看做シマシテ、賛成ヲ致サウトハ思ヒマシタケレドモ、私ハ之ニ反對ヲ宣言致シマス

〔議長々々〕ト呼フ者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 佐藤實君

〔佐藤實君登壇〕

○佐藤實君 只今討論ニ入ッテ居リマスル本案ニ對シテ、委員長ノ報告ニ根本カラ反對ヲ致ス一人デアリマス、先程來色ニナ御意見ヲ拜聴致シタノデアリマスルガ、大體私ハ此本案ヲ提出セラル、方ト、之ニ賛成セ

ラレタ方トノ意思ガ甚ダ疎隔ヲ呈シテ居ルコトヲ私發見セザルヲ得ナイノデアリマス、偶、世ノ中ニハ新シ屋ガ多イ、何カ目新シイ問題ヲ立法府ニ提出シテ自分ノ新シイ意見ヲ發表スル機會ヲ捉ヘントスル人ガ澤山ニ居ルノデアリマス、此人等ニ浮カサレテ多數ノ賛成者ガ署名シテ居ルノデアリマスアレドモ、本日ノ議場ノ光景ヲ見マスルト、眞面目ニ本案ヲ通過セント努力シテ居ル人ハ非常ニ少クシテ、賛成ハシタケレドモ、ドウデモシテ否決ニナラヌレ、バ宜イガト希望シテ居ル人ガ議場ニ澤山多イ〔氏名ヲ舉ゲ給ヘ〕ト呼フ者アリ。諸君、國家ガ法律ヲ作テ取締ル以上ニ於キマシテハ、國家ノ權威ト致シマシテハ國民ニ向テ必ズ之ヲ嚴守セシメナケレバナラヌ道理デアリマス、又吾々國民ノ立場ニ致シマスルト、必ズ之ヲ嚴守シナケレバナラヌ所ノ義務ヲ持テ居ルノデアル、併ナガラ二十五歳以下ノ人ニ禁酒ヲ強ヒテ之ガ必ズシモ國家ノ健全ナル發達ヲ促シ、或ハ總テノ能率ガ増進シテ行クト言ハル、ケレドモ、私ハ決シテ左様デナイ、苟モ其法律ガ國家ニ制定セラレテ、必ズ之ヲ嚴守出來ナイ場合ニナレバ、所謂法ノ威信ヲ失墜スルノデアル、法ノ威信ヲ失墜スルコトヲ最初カラ考ヘテ居テ、之ヲ立法府ニ提出スト云フコトハ、私ハ不可解千萬デアルノデアリマス〔ヒヤ〕諸君、先程來我黨ノ田中君ハ酒ハ根本カラ惡イト言フ、大體酒ハ惡イ云フ所ノ確定論カラ出發シテ、總テノコトヲ論ゼラレル、併ナガラ酒ガ惡イカ善イカト云フコトハ、今ヤ天下ノ賛否兩論ニ分レテ居ル、惡イト云フ前提ニシテ論ズレバ總テノ事柄ハ惡イカモ知レヌ、又先程來田中君ハ醫學上ノ立場カラシテ、總テヲ分析的、分解的ニ論ゼラレタ、併シ私ハ世ノ中ニ此醫學博士トカ或ハ學者トカ云フ者カラ、世ノ中ノ實際ト合致セザル議論ヲ度々聽クノデアリマス、昨年モ我黨ノ山田道兄君カラ醫學博士ノ濫造ヲ防止スルト云フ洵ニ珍ラシイ建議案ヲ提出セラレタ、世ノ中ノ醫學博士ノ中ニハ、或ハ蚤ノ墨丸ノ解剖

ヲシテ博士ニナッタ人ガアル、斯ル人ハ實際問題ニ對シテ何等觸レテ居ラヌ、併ナガラサウ云フ人デモ醫學博士トシテ世ノ中ニ立ッテ行クノデアル、酒ハ分解的ニ論ズレバ惡イカモ知レマセヌ、酒ハ部分的ニハ惡イカモ知レマセヌ、又先程モ加藤君ガ杜氏ガ利キ酒ヲスル場合ニ對シテ、利キ酒ハ口ニ含ムダケデアルカラ害ニナラナイ、之ニ對シテハ取締ルニ及バナイト言ハレル、併ナガラ利キ酒其モノニシテモ、決シテ口ニ含ミテ飲ムモノデハナイ、五臟六腑ニ滲ミ渡テ初メテ酒ノ品ガ分ルノデアル、ソレ等ノ問題ヲ知ラズニ口ニ含シテ吐出セバ、利キ酒ガ出來ルト云フコトハ甚ダ私ハ了解スルニ苦ムノデアル〔ヒヤ〕又二十五歳以下ノ青年ニ對シテ禁酒法ヲ實行スルナラバ、恐ルベキ所ノ現象ガ私ハ生レテ來ルデアラウト思フ、ソレハ何デアルカト云フト、或ハ青年團體或ハ學生、是等ノ多ク人ヲ私ハ前科者ニ墮シハナイカ、是等ノコトハ國家トシテハ非常ニ考慮スベキコトデアリマス、諸君、歐米ノ先進國デアリマス所ノ英、佛、獨、伊ノ如キ、是等ハ立憲國デアッテ吾々ノ先輩國デアル、併ナガラ大戰後ト云フモノハ國民總テ緊張シテ、國ノ事柄ニ當テテ居リマス、然ルニ未ダ會テ歐米先進國ガ、禁酒法ヲ以テ國家ノ能率ヲ舉ゲントスルモノアルコトヲ私ハ聞イタコトハナイ、ソレニモ拘ラズ、一種ノ空論、空支ヲ議會ニ提出シテ斯ル問題ヲ出スト云フコトハ、私ハ甚ダ面白クナイト思フノデアリマス、諸君、一昨年来私共ハ此金鵝勳章ノ受勳者ニ對シテ、相當國家ガ待遇ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、各派ヲ通ジテ一致シタ所デアル、六万八千人ノ國家ノ受勳者ヲ調ベテ見マシテモ、其七割ト云フモノハ相當酒ヲ飲ンデ居ル、戰爭ノ場合ニ於テ酒ヲ飲ム者ノ勇氣ハ空勇氣デアルト、田中君ハ論ゼラレタガ、假令其勇氣デアッテモ、或ル目的ヲ以テ酒ヲ飲ンデ其勢デテ敵軍ヲ占領シタトスレバ、其占領ノ利益ト是トハ何物ニモ換ヘ難イモノデアルト思フ、又戰爭ニ從事セラレタ所ノ方々ノ總テ

ノコトヲ聞キマスルト、一朝事アル場合ニハ酒ヲ飲ム、併シ酒ノ力ヲ藉ルノデハナイ酒ノ力ヲ藉ルコトヲ目的トスルノデハナイ、唯、其手段ニ依テ興奮シ、ソレニ依テ自分ノ力ヲ發揮スル場合ガ澤山アルト云フコトヲ私ハ聞イテ居ルノデアリマス、此點カラ申シマスルト、是ハ酒ハ澤山ニ飲ンデハ有害デアル、イケナイノデアル、併シ酒ニハ限ラナイ、如何ナルコトデモ澤山ヤレバ有害デアル、又人間ノ趣味ヲ一片ノ法律ヲ以テ取締ルト云フコトハ面白クナイ、諸君、露西亞ノ如キモ禁酒令ヲ發布致シマシテカラ、國ハ三年シカ保ッテ居リマセヌ、私ヲシテ極端ニ言ハシムレバ、禁酒法ヲ唱ヘル人ハ國家ヲ亡國ニ導ク人デアリカト私ハ極端ニ考ヘテ居ル、諸君、又米國ノ例ヲ見マシテモ、船舶デテ酒ヲ輸入スレバ税金ガ掛カルカラ、飛行機ヲ以テ酒ヲ輸入シテ居ル、是等ノ例ハ人間ノ趣味ヲ法律ヲ以テ律スルコトガ出來ナイコトヲ立證シテ居ルノデアリマス、提案者ノ如キハ自分ガ禁酒ヲ致シマシテモ、亦其他ノ方面ニ趣味ナリ娛樂ヲ求メルコトヲ得ル所ノ階級ノ人ニデアル、諸君、世ノ中ニハ朝カラ一日働イテ晩ノ慰安ヲ一杯ノ酒ニ求メル者モアル、諸君ノ如キ相當ノ階級ニ居ラレル人ハサウデナイカモ知レヌ、併ナガラ多數ノ勞働者中ニハ之ヲ目的トシテ働ク人ガ澤山ニアアルデアリマス、私ハ諸君モ知ッテ居ラル、如ク石川縣デアリマスガ、石川縣ハ半島デアルカラ、多數ノ者ガ漁業ニ從事シテ居リマス、寒中ニ漁業ニ從事スル爲ニハ、相當ノ酒ヲ用イナケレバ從事スルコトガ出來ナイ、所謂酒ヲ飲ム所ノ害ト、漁獲物ノ利益トヲ差引キマス、大ナル産業上ノ利益ヲ國家ニ持テ來シテ居ルノデアリマス、先程又田中君ハ眞面目ナ者デ國家ニ有效ナコトヲシテ居ル者ハ、大抵ハ酒ハ飲マナイ其例ニ四十七士ノコトヲ持出サレタ、諸君四十七士ノ中デ今デモ最モ世ニ傾ハレテ居ル所ノ赤垣源藏ハ、頗ル働手デアッタ〔笑聲〕是等ノコトヲ知ラズニ唯、四十七士ガ眞面目ニヤッタ爲ニ歴史ニ芳シキ功績

ヲ遺シタト云フ實例ニハナラナイ、又世ノ中ニハ形ヲ映ス所ノ鏡ト云フモノガアルノデアル、鏡ハアルケレドモ精神ヲ映ス所ノ鏡ハナイ、或ハ商取引ノ場合ニ、或ハ初メテノ交際ヲ結ぶ場合ニ、將來其人ト懇意ニナラントスルコトニハ、先ヅ其人ノ精神狀態如何ト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、是ガ即チ商取引ノ場合ニモ、將來交渉ヲ初メル場合ニモ、第一ニ著目シナケレバナラヌ所デアルト思ヒマス、而モ是等ハ一杯ノ酒、一タノ宴ヲ以テ其人ノ精神ヲ知り其人ノ精神ヲ動かスコトガ出來ルノデアリマス(ヒヤ)然ルニ禁酒ノ如キハ先程來教育ノ力ナリ、宗教ノ力ヲ以テ取締ルコトハ出來ナイカラ、斯ル立法ヲスルノデアルト云フノデアリマスケレドモ、私ハ社會ニ對シテ何等ノ害ヲ與ヘナイコトニ向テ立法ヲスル必要ハナイ、社會ニ害ヲ與ヘレバ法律ヲ以テ取締ルノモ宜シイガ、法律ノ力ヲ藉ラズトモ自衛制、宗教ノ力、教育ノ力ヲ以テスレバ十分之ヲ取締ルコトガ出來ルト看取スル一人デアリマス、又最後ニ一事ノ諸君ニ申上ゲテ置キタイコトハ、今日ノ國家ノ財源中最モ多キヲ占ムルモノハ何デアルカト云フト、所謂間接稅デアアル、之ニ對シテ此二十五歲以下禁酒ノ立法ガ出來レバ、尠クトモ二割ハ之ニ刺戟セラレテ、二十五歲以上ノ者ト雖モ幾分節酒スル者ガ出來ルト思フ、是等ノ二割ガ段々積テ行ケバ、尠クトモ七千萬圓位國家ノ財源ニ不足ヲ來スニ至ルコトハ明カデアアル、田中君ノ議論ニ致シマス、其不足ヲ來シタ所ノ財源ハ、何處カラデモ補填スレバ宜イノデアリナイカト云フコトデアアルガ、國家ノ財源ノ不足ハ何處カラデモ補填スルコト云フヤウナコトハ聽キタクナイ、若シ外カラ持テ來ルト言ハル、ナラバ、或ハ私ハ賛成ヲ致シマス、斯ル理由デアリマスカラ、此財源ノ不足ヲ如何ニスルカ、又斯ル法案ガ通過スレバ、全國ニ於テ酒造家ノ倒産スルモノハ續出スルノデアリマス、續出スレバ延イテ財界ノ攪亂ヲ來タスノデアリマス、故ニ斯ル立法ハ滿場一致ヲ以テ否決セラレンコトヲ謹デ茲

ニ御願シテ降壇スル次第デアリマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 田中養達君ヨリ御自身ノ御演說中取消スベキ點アリトシテ發言ノ通告ガアリマス、此場合之ヲ許可致シマス

〔登壇々々ト呼フ者アリ〕
○副議長(小泉又次郎君) 田中君、御登壇ヲ願ヒマス

(田中養達君登壇)

○田中養達君 只今私ノ演說中ニ、言皇室ニ及ビマシタコトハ、洵ニ恐懼ニ堪ヘマセヌカラ、茲ニ取消ス次第デアリマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 次ニ谷原公君(谷原公君登壇)

(谷原公君登壇)

○谷原公君 私ハ酒ヲ理解スルコトニ於キマシテハ、我ガ同僚ノ何人ニモ譲ラナイダケノ自信ヲ持テ居ルノデアリマス、現ニ今日ニ於キマシテモ、或ル程度ノ酒ハ日々理解シツ、アル一人デアリマス、併ナガラ本案ハ從來二十歲デアツタモノヲ二十五歲迄延長スル、即チ吾々ノ生命ノ延長者トシテ未來ノアル者ヲ健全ニ保護シヤウ、此趣旨ノ案ナルガ故ニ、私共ハ賛成スルノデアリマス(拍手)若モ酒ト云フ所ノ興奮劑ヲ是非生理上用ヒナケレバナラヌ時代、或ハ又酒ト云フモノノドウシテモ缺クベカラザル必要ノアル者ニ對シテ、之ヲ無視シタ所ノ禁酒法ヲ出スノデアリマシタナラバ、私共ハ固ヨリ反對スルノデアリマス、併ナガラ本案ニ於キマシテハ、決シテ左様ナ無理ハナイト信ズルノデアリマス(拍手)試ニ私ハ之ヲ三ツニ區別シテ、簡單ニ賛意ヲ表スル意味ノ趣旨ヲ述ベタイト思フノデアリマス、第一ハ飲酒ノ利害ノ問題デアリマス、酒ヲ飲ムコトノ利害ノ問題デアリマス、此ハ藥學上或ハ生理上ノ問題ニ付キマシテハ、既ニ專門家ガ十分說明サレテ居リマシタルカラ、私ハ左様ナ理論ノコトハ申上ゲマセヌ、併ナガラ統計ヲ取テ見マスレバ、酒ト云フモノガ原因トナリマシテ、社會ノ罪惡、即チ犯罪トナツテ現ハレテ居ルモノハ、頗ル多イノデアリマス(拍手)更ニ又酒ト云フモノガ原因トナツテ、色々ト過失傷

害、喧嘩、鬭爭、斯様ナモノガ現ハレテ居ルコトモ是亦明ナル事實デアリマス(拍手)更ニ酒ト貧乏、酒ヲ飲ムガ故ニ著シク貧乏スルト云フ者モ、統計ノ上ニ明ニ立證サレテ居リマス(拍手)酒ト病氣、酒ヲ飲ムガ故ニ色々ナ病氣ヲ起シテ大死ヲシテ、後ノ妻子ヲ困ラス、斯様ナ社會現象モ亦私ガ贅辯ヲ費ス必要ガナイト思フノデアリマス、斯様ナ酒ノ害ハ、社會ノ實相ヲ見レバ、直ニ判明スル所デアリマスルガ、併シ之ヲ法律ヲ以テ取締ルヤ否ヤ、即チ立法ノ可否、此點ニ付テ申上ゲタイノデアリマス、是モ既ニ當院議ヲ以テ二十歲迄ハ法律デ以テ取締ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、當院議ニ於キマシテハ、此法ヲ以テ全然取締ルコトガイケナイト云フコトハ、今日ニ於テハ言ヘナイコト、思フノデアリマス(拍手)殊ニ色々ナ犯罪、例ヘバ殺人、竊盜ト云フモノト相容レナイモノデアリマセヌ、如何ナル宗教、如何ナル教育ニ於キマシテモ、斯様ナ反社會的ノ事ハヤラナイヤウニ色々努メテ居リマス、併ナガラ宗教萬能ニ非ズ、教育萬能ニ非ズ、矢張法律ヲ以テ取締ルヲシナケレバナラヌ必要ガアルノデアリマス(拍手)酒ニ於キマシテモ亦同様デアリマス、即チ宗教、或ハ教育、是ト制裁法規ヲ以テ、三ツガ共ニ進デコン、初メテ十分ニ目的ガ達スルノデアリマス(拍手)ソレカラ其次ニ實行ノ可否ノ問題デアリマス、此法ヲ發布致シマシテ、果シテ實效ガ舉ルカ否カノ問題デアリマス、之ニ付キマシテハ矢張他ノ問題モ同様デ、五十歩百歩ノ議論ハアルデアラウト思フノデアリマス、例ヘバ刑法ニ幾多ノ制裁ガアリマシテモ、今日矢張竊盜モアレバ、横領モアリ、強姦モアレバ、殺人モアル、如何ナル制裁法規ヲ以テシテモ、罪惡ヲ全滅スルコトハ出來マセヌ、此禁酒ニ於キマシテモ同様ナ現象ハアリマセウ、併ナガラ法ガアリマシタナラバ、必ズ其法相當ナ權威ヲ舉ゲルコト、思フノデアリマス(拍手)或ハ婚姻ノ場合、婚禮ノ場合等ニ於キマシテ、著シク習

慣ト相反スルノデアリナイカ、斯様ナ議論ヲ聞イタコトガアリマスルガ、併ナガラ是ハ社會通念ヲ無視シタコト、思フノデアリマス、例ヘバ一厘事件トシテ有名ナ、一厘ノ金ト雖モ財物デアアル、之ヲ竊取若クハ横領スレバ、直ニ刑法上横領竊盜トシテ取扱フカト云フト、決シテサウデアアリマセヌ、酒ノ如キニ於キマシテモ亦同様デアリマシテ、婚禮ノ時ノ盃ヲスルノハ、之ヲ飲ムノデアリマセヌ、我國ノ通念ハ決シテ之ヲ飲ムト見ルノデアリナイノデアリマス、ソレカラ又宴席ニ於キマシテ酒ヲ薦メテ、ソレデ直ニ犯罪ニナリハシナイカ、斯様ナ虞ヲ持テ居ル人モアリマスルケレドモ、是ハ制裁ガ科料デアリマスルカラ、教唆或ハ從犯ノ如キモノハ、何等犯罪ニナリマセヌ、此點モ決シテ御心配ハアリマセヌ、要スルニ酒ト云フモノハ非常ニ腦髓ヲ粗笨ニスルモノデアアル、故ニ所謂東洋豪傑流ノコトハ、今日ノ文明ノ程度ニ於キマシテハ相容レザルモノデアリマス、彼ノ豪放ヲ尙ブ軍人ノ如キニ於キマシテモ、近時著シク酒ヲ用ヒナイヤウニナツテ居ルノデアリマス、今後ニ於キマシテハ色々文化ノ發達ト共ニ、農村等ノ青年モ、色々科學ノ知識ヲ利用セナケレバナラヌヤウニナツテ來テ居ル、即チ一層緻密ナル所ノ思想ヲ要スルヤウニナツテ來ルノデアリマス、故ニ今ノ一生ヲ全ウスルコトハ出來ヌノデアリマス(拍手)益、緻密ナル思想ヲ要スル意味ニ於キマシテモ、此若イ者ニハ成ベク酒ヲ飲マセナイヤウニスルト云フコトハ、御互先輩ノ後輩ニ對スル義務デアラウト思フノデアリマス(拍手)此意味ニ於キマシテドウカ御賛成ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手)
○井本常作君 本案ニ對スル討論ハ、是ニテ終結セラレンコトヲ望ミマス
〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ
○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ討論ハ終結致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開キヤ否ヤヲ採決致シマス、此採決ニ付キマシテハ、井

本常作君外三十五名ヨリ、無記名投票ヲ以テスベシトノ動議ガアリマス、仍テ無記名投票ヲ以テ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ黒票(發言者多ク議場騒然)只今ノ宣告ハ誤リマシタ、御静謐ニ願ヒマス——本案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ黒票、木札ノ名刺ヲ御持參アラシコトヲ望ミマス——開鎖——氏名點呼ヲ命ジマス

〔宣告ガ分リマセヌ〕ト呼フ者アリ
○副議長(小泉又次郎君) 茲ニ三度宣告ヲ致シマス、只今宣告ガ徹底シナイト云フ御聲ガアリマシタカラ、——本案ニ賛成ニ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ黒票、木札ノ名刺ヲ御持參アラシコトヲ望ミマス

〔能ク分リマセヌ〕ト呼フ者アリ
○副議長(小泉又次郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシト云フノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ黒票、木札ノ名刺ヲ御持參アラシコトヲ望ミマス

〔書記官氏名ヲ點呼ス〕
○副議長(小泉又次郎君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ハナイト認メマス、開鎖——開鎖

〔書記官投票及名刺ノ數ヲ計算ス〕
○副議長(小泉又次郎君) 名刺ノ數ト球數ト符合致シマセヌ、名刺ノ數ハ二百二十七、投票總數二百二十六票デアリマス、是ハ先例ニ依リテ棄權シタモノト看做シマス、書記官長ヲシテ投票ノ結果ヲ報告セシメマス

〔田口書記官朗讀〕
投票總數 二百二十六
白票 可トスル者 八十七
黒票 否トスル者 百三十九
〔拍手起ル〕
○副議長(小泉又次郎君) 第二讀會ヲ開カズト云フコトニ決シマシタ

〔參照〕
投票シタル議員ノ氏名左ノ如シ
石黒大次郎君 飯塚春太郎君
井本 常作君 一柳仲次郎君
原 脩次郎君 土生 彰君

西脇 晉君	戸田 由美君	奧村 千藏君	神谷 彌平君	加藤十四郎君	横山勝太郎君	高田 松平君	田中 万逸君	田中 養達君	谷口宇右衛門君	中野 正剛君	永田善三郎君	村上 國吉君	村山喜一郎君	内々崎作三郎君	黒田重兵衛君	山官 藤吉君	山田 助作君	山本 勝次君	山道 襄一君	福田 五郎君	小西 和君	紺野九右衛門君	手代木隆吉君	荒井 建三君	作間 耕逸君	佐藤 實君	齋藤 隆夫君	木村小左衛門君	斯波 貞吉君	平川松太郎君	平井光三郎君	森田 茂君	關 俊吉君	菅原 英伍君	磯部 尚君	板野 友造君	今井 健彦君	石原正太郎君	井口延次郎君	猪野毛利榮君	濱田 國松君	鳩山 一郎君
本田 恒之君	岡本實太郎君	川崎安之助君	神部 爲藏君	金田平兵衛君	横山 一格君	高島 兵吉君	田中 善立君	建部 遷吉君	中野 寅吉君	中野猪之助君	永井柳太郎君	村上紋四郎君	室木彌次郎君	野村 嘉六君	工藤 鐵男君	山田 又司君	山口 嘉七君	山根 儀重君	丸山 五郎君	小寺 謙吉君	小池 仁郎君	江藤 榮吉君	蟻川五郎作君	荒川 五郎君	佐藤富十郎君	佐藤隆三郎君	齋藤仁太郎君	由谷 義治君	信太儀右衛門君	平野 光雄君	比佐 昌平君	關矢 孫一君	杉浦 武雄君	菅村 太事君	磯部 保次君	岩崎幸治郎君	石井 三郎君	飯村 五郎君	伊坂秀五郎君	濱口吉兵衛君	八田 宗吉君	原 惣兵衛君
西澤 定吉君	土井 權大君	大竹 謙治君	小川 平吉君	國田 忠彦君	加藤 知正君	河上 哲太君	海原 清平君	竹内友治郎君	中島 守利君	難波 清人君	内野辰次郎君	上整安太郎君	黒住 成章君	山本 芳治君	山口 義一君	山下 谷次君	松岡 俊三君	藤川 清助君	古川 清君	神崎 勳君	安藤 正純君	青木 精一君	東 武君	佐々木文一君	坂井 大輔君	宮本 逸三君	篠原 和市君	嶋居 哲君	森 爲久君	森 龜藏君	瀬沼伊兵衛君	菅原 傳君	岩切 重雄君	本多貞次郎君	堀田義次郎君	陣 軍吉君	折原巳一郎君	小川郷太郎君	奥野小四郎君	加藤鎌五郎君	高島 順作君	丹下茂十郎君
星島 二郎君	長田 桃藏君	大口 喜六君	岡田伊太郎君	若宮 貞夫君	兼松寅太郎君	川口 義久君	吉津 度君	高井 西二君	中村 巍君	向井 儀雄君	植原悦二郎君	熊谷 直太君	倉元 要一君	山本 慎平君	山口恒太郎君	山内 範造君	藤田 包助君	二本 洵君	小久保喜七君	近藤 達兒君	安保 庸三君	秋田寅之介君	齋藤藤四郎君	佐々木長治君	吉良 元夫君	三土 忠造君	志賀和多利君	庄司 良朗君	廣岡宇一郎君	望月 圭介君	砂田 重政君	池田 龜治君	原田佐之治君	堀 喜幸君	東郷 實君	沼田嘉一郎君	小島 善作君	大城幸之一君	川原 茂輔君	金光 庸夫君	高木第四郎君	田中 隆三君

田口 文次君 谷原 公君
筒井民次郎君 中村四郎兵衛君
中村啓次郎君 永井 作次君
土原 好雄君 浦野 謙朗君
則元 由庸君 熊谷五右衛門君
栗林 五洲君 八木 逸郎君
山谷德治郎君 前田房之助君
牧山 耕藏君 松田 源治君
丸山 浪瀾君 小橋 一太君
兒玉 實良君 櫻内 幸雄君
佐藤 重遠君 逆瀬川仁次郎君
宜保 成晴君 三輪市太郎君
宮崎友太郎君 宮島幹之助君
志村清右衛門君 清水 長郷君
平田民之助君 森 肇君
坂東幸太郎君 馬場 義興君
岡田 溫君 田崎 信藏君
土屋清三郎君 永田新之允君
野原種次郎君 畔田 明君
山口 左一君 松山兼三郎君
佐藤 潤象君 清瀬 一郎君
湯淺 凡平君 羽室庸之助君
古林喜代太君 西村丹次郎君
田淵 豐吉君 太宰 孫九君
成田 榮信君

○副議長(小泉又次郎君) 是ヨリ日程第二十二、造林助成法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長村山喜一郎君

第二十二 造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和二年三月九日
委員長 村山喜一郎
衆議院議長粕谷義三殿
〔村山喜一郎君登壇〕
○村山喜一郎君 只今上程セラレテ居リマ

スル造林助成法案ノ委員會ノ經過並ニ結果
ニ付テ簡單ニ御報告申上ゲマス、委員會ハ
數回ニ互リマシテ、各委員ハ熱心ニ政府並
ニ提案者ニ對シテ極メテ有益ナル質問ガ重
ネラレタリデアリマス、之ニ對シテ政府ノ
言明スル所ニ依リマスレバ、政府ハ大體ニ
於テ本案ノ趣旨ニ同意スルモノデアル、但
シ今日マデ私有林八百數十萬町歩ニ對シ
テ、根本的ノ調査並ニ其施設ガナカッタ
ト極メテ遺憾トシテ居ル、政府ハ次ノ議
會ニマデ其趣旨ヲ尊重致シマシテ、林
業金融ノ問題ノ解決並ニ私有林ノ保護助成
ニ關スル法案ヲ提出スル考デアリマス、併
ナガラ今直ニ本案ニ同意シテ其實行ヲ圖ル
ト致シマシテハ、之ニ對スル調査並ニ準備
ガナカッタハナラヌノデアリマスガ、遺憾ナ
ガラ今日ハソレヲヤチ居リマセヌ、此故
ニ今直ニ同意スルコトハ出來得ナイノデア
リマス、ト云フノガ政府ノ言明デアリマ
ス、其後討論ニ入りマシテ、各委員ヨリ贊
成ノ演説ガ數回アッタノデアリマス、即チ
政友會ヨリ八田宗吉君、本黨ヨリ中村君、
其他數氏ノ贊成ノ演説ガアリマシテ、本案
ハ滿場一致ヲ以テ可決シタル次第デアリマ
ス、右御報告申上ゲマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ贊成ノ通
告ガアリマス、吉良元夫君

〔吉良元夫君登壇〕

〔簡單「簡單」ト呼フ者アリ〕

○吉良元夫君 勿論簡單ニヤリマス、只今
村山君ヨリ委員會ノ經過ヲ詳細ニ御報告ニ
相成リマシタ、私共モ委員會ノ速記錄ヲ精
讀ヲ致シマシタノデアリマス、然ルニ此造
林助成法案ト云フモノハ極メテ簡單ナル法
デゴザリマシテ、諸君ノ中ニ或ハ之ヲ小サ
イモノデアルト御考ノ方モアルカモ知レマ
セヌケレドモ、私共ノ感ズル所ニ依リマ
スレバ、此法案ガ非常ニ今日ノ我が帝國ト
シテ極メテ必要ナル法案デアリノデアリマ
ス、故ニ當局者ニ於ケレマシテハ、右様ナ
不熱心ナコトデハ私共ガ甚ダ遺憾ニ感ズル
ノデアリマス、此法案ノ如キハ直ニ實行致
シマシテ、多少ノ經費ヲ要シマステレドモ

ガ、之ヲ活用致シマスレバ、我が帝國ニ於
ケル造林ト云フコトハ是ハ洵ニ顯著ニ出來
得ル所ノ名法案デアリマス、願クハ當局ハ
斯ノ如キ法案ヲバ一日モ早ク實現スルコト
ニ努メラレンコトヲ希望スルノデアリマ
ス、唯、残念ナコトニハ、此法案ガ貴族院
ニ廻リマシテモ時日モアリマセヌ爲ニ、審
議未了ニ終ルカモ知レマセヌ、甚ダ遺憾デ
アリマス、此法案ガ既ニ以前ニ於キマシテ
モ、通過ハ致シテ居リマシタケレドモ、審
議未了ニナツテ貴族院ニ於テ之ヲ葬ラレテ居
ルノデアリマス、貴族院ノ諸公ノ如キハ、
此日本帝國ノ津々浦々ノ山林ノ今日ノ實狀
ト云フコトニ付テハ、餘リ御存知ナイデア
ラウト思フ、私ハ此點ニ付テ貴族院諸公ハ
深ク御留意ニナリマセヌト云フト、今日ノ
狀態デ閣下御置キマシタナラバ、近キ將
來ニ於テ我が帝國ハ非常ナル容易ナラヌ、
取返シノ付カヌ大問題ガ出來ルト思フノデ
アリマス、此法案ニハ大賛成デアルコ
トヲ申述ベテ置キマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ノ第二讀會
ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○井本常作君 直ニ本案ノ第一讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り
可決セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ
御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會
ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

造林助成法案 第二讀會(確定議)

○副議長(小泉又次郎君) 別ニ御發議ガア
リマセヌ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ
通り可決確定致シマス

○井本常作君 議事日程變更ノ動議ヲ提出
致シマス、此際日程第五十六、五十七、五
十八ヲ繰上ゲ上程シ、逐次議題トシ、其審
議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ
御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決
シマシタ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、
即チ日程第五十六、廣島縣ニ於ケル三部制
廢止ニ關スル建議案、日程第五十七、廣島
縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案、日
程第五十八、廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ
關スル建議案ヲ一括シテ、ソレトシ、其趣旨
辯明ヲ許シマス、湯淺凡平君

第五十六 廣島縣ニ於ケル三部制廢止
ニ關スル建議案(湯淺凡平君提出)

第五十七 廣島縣ニ於ケル三部制廢止
ニ關スル建議案(渡邊伍君外一名提
出)

第五十八 廣島縣ニ於ケル三部制廢止
ニ關スル建議案(金田平兵衛君外一
名提出)

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル
建議案

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關ス
ル建議

政府ハ速ニ廣島縣ニ於ケル三部制ヲ廢止
スヘシ

右建議ス

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建
議案理由書

六大都市所在府縣ノ外三部制ヲ存スルハ
廣島縣ノミナリ故ニ縣費負擔ノ不均衡ヲ
正フシ地方費ノ輕減ヲ行ヒ且廣島縣會ニ
於テ多數ヲ以テ可決シタル決議ヲ實行ス
ルニアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

〔湯淺凡平君登壇〕

○湯淺凡平君 簡單ニ説明ヲ致シマス、但
シ本問題ハ其歸趨如何ニ依リマシテハ、或
ハ第二ノ長野事件ヲ惹起スニアラズヤト云
フ程急迫シタル重大ナル問題デアリマスガ
故ニ、暫ク御清聴ヲ希望致シマス、此廣島
ニ於ケル三部制、即チ縣ノ經濟ヲ市、郡及
ビ連帶ノ三部ニ區別ヲ致シテ居リマスル制
度ハ、六大都市ノ外ニハ、獨リ我が廣島
ニアルノミデアリマス、而モ此六大都市ノ
中ニ於テモ既ニ大阪及ビ横濱ハ之ヲ撤廢致

シ、他ノ是等ノ地方ニ於テモ之ヲ撤廢スル
ニ付テノ相當ノ議論ガアル、且ツ調査ヲ進
メラレテ居ル事ハ事實デアリマス、此問題
ハ昨年ノ廣島縣會ニ於テ多數ヲ以テ撤廢ス
ルコトノ決議ガ行ハレマシタ、即チ其決議
ニ從テ縣民ハ最も猛烈ナル、其決議ノ實行
サレル爲ニ運動ヲ起シテ居リマス、幾十回
トナク縣民大會ガ開カレ、サウシテ多數ノ
縣會議員若クハ市町村長或ハ有志ハ此一月
以來多數上京ヲ致シマシテ、屢、政府當局若
クハ議院ニ對シテ猛烈ナル運動ヲ起シテ居
ルノデアリマス、而シテ縣民ノ之ニ對スル
所ノ輿論ハ最早沸騰點ニ達シタト申シテモ
差支ナイノデアリマス、餘リ此問題ノ解
決ガ容易ナラザル事情ニ對シテ、或ハ近日
縣民ハ大舉シテ或ハ縣廳ニ陳情スル、或ハ
縣廳ニ請願スル、ソレ等ニ付テハ如何ナル
有力者ガ之ヲ差控ヘテ居ルカラ、マダ其
實現ヲ見ナイト云フヤウナ有様ニナツテ居
ルノデアリマス、何故ニ左様ナ縣ノ輿論ガ
盛デアルカ、沸騰スルカト申シマスルト、
之ニハ大ナル根據ガアルノデアリマス、私
ハ簡單ニ申シマスガ、第一ハ縣ノ政治ニ對
スル所ノ所謂參加ノ權、現在參加ノ權利ノ
上ニ非常ナル不公平ガアルノデ、第二ハ縣ノ
費用、縣費ノ負擔ノ上ニ於テ著シキ不均衡
ガアリマス、第三ハ之ニ依リマシテ縣ノ經
濟、所謂地方費ノ膨脹ヲ來シテ居リマス、
第四ハ是ガ爲ニ農村ノ疲弊ヲ益助長スル
ノ傾向ヲ免レナイノデアアル、第五番目ニ於
テハ、此問題ハ會テ本員ノ建議ニ依リマシ
テ、滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シテ居ル次第
デアリマス、斯ウ云フ事ガ主ナル箇條デア
リマスルガ、此問題ヲ解決致シマスルニ
モ、左程法律ノ改正ヲ爲ストカ、或ハ困難
ナ手續ヲ經ナケレバナラヌト云フ程ノ問題
ニ非ズシテ、唯、明治三十二年六月內務省
令ノ第二十五號、之ヲ撤廢スルカ、即チ之
ニ依テ指定サレマシタル所ノ指定ヲ取消
スト云フダケニ依ツテ、是等ノ問題ハ解決ヲ
致スノデアリマス、此内容ニ付テハ詳シク
申上ゲタイノデアリマスガ、何レソレハ委

員會ニ讓ルコトニ致シマス、ケレドモ此結果トシマシテ、現ニ我ガ廣島縣ハ縣債ト云フモノヲ八百萬圓程有シテ居リマスケレドモ、其八百萬圓ノ縣債中、市ガ單純ニ之ヲ負擔シテ居ルモノハ一厘モアリマセヌ、唯、郡市ノ連帶ノ負擔ガ二百五十萬圓ノ金額ニ上テ居リマスガ、其餘ノ五百五十萬圓ハ全部郡部ノ負擔トナテ居ルノデアリマス、ソレカラ縣費負擔ノ割合ヲ郡市ニ別テ之ヲ調ベテ見マス、直接國稅一圓ニ對シマシテ市ハ僅ニ五十九錢一厘デアルニ拘ラズ、郡部ハ一圓八十一錢一厘ト云フ負擔ヲシテ居ル、勿論郡市ニ於テ負擔ニ區別ノアルコトハ、三部制ヲ實行シテ居ル所ノ土地ニ於テハ、悉ク其通りデアリマスケレトモ、廣島縣ノ殊ニ其負擔ノ均衡ヲ誤テ居ルノ例ヲ申シマスレバ、例ヘバ東京、大阪、京都、愛知、福岡ノ五大都市ノ割合ヲ見マス、縣費負擔ノ割合ガ、市都ニ於テ四・八、郡部ニ於テ五・二、即チ四分八厘ト五分二厘ノ割合ニナテ居リマス、連帶支辨ニ於キマシテハ、市ノ四分九厘ニ對シテ郡部ハ五分一厘、但シ此五大都市ヲ除キテ、兵庫縣タケガ多少是ヨリハ割合ガ違、テ居リマス、兵庫縣ハ市ノ二分六厘二毛ニ對シテ郡部ハ七分三厘八毛、連帶ニ於テ市部ハ二分九厘八毛、郡部ニ於キマシテハ六分二毛ト云フ割合ニナテ居リマスガ、廣島縣ニ至リマシテハ市ノ負擔ハ僅ニ一分三厘、之ニ對シテ郡部ハ八分七厘、連帶費用ニ於キマシテハ、市ノ一分三厘四毛ニ對シテ郡部ハ八分六厘六毛ト云フ、數字ノ上カラ申シマシテモ驚クベキ不均衡ノ事實ガ現ハレテ居ルノデアリマス、是等ノ事實ガアルノミナラズ、其結果ト致シマシテ、現ニ吳廣島間ノ道路ニ於キマシテモ、此修繕費ハ廣島市ニ非常ノ關係ヲ有シテ居ルニ拘ラズ廣島市ハ一厘ノ負擔モ致シテ居リマセヌ、更ニ又昨年非常ノ慘事ヲ惹起シマシタ所ノ彼ノ山陽線ノ崩壞ノ場所ニ於キマシテモ、之ヲ復舊修繕スル所ノ費用ニ對シテモ、極メテ廣島市ノ附近ニ起タル事實デアルニ拘ラズ、市ハ之ニ對シテ何等ノ負擔ヲシテ居ナ

イ、殊ニ廣島市ニ流レ込メテ居リマスル所ノ彼ノ太田川ト云フ川ニモ、莫大ノ費用ヲ要スルケレドモ、是亦市ハ一厘モ負擔ヲシナイト云フヤウナ不公平ガ行ハレテ居ル、全體各縣ハ都會ト云ハズ郡部ト云ハズ、所謂共存共榮ノ實ヲ舉ゲナケレバナラヌニ拘ラズ、全然廣島市ハ廣島市ダケノ利益ヲ恣ニ致シマシテ、郡部ノ事ハ更ニ顧ミテ居ナイト云フコトガ(ノ)數字ニ於テ明ニ物語ラレテ居ルノデアリス、併シ是等ノ問題ニ對シマシテ、市ニハ又市相當ノ議論モアルヤウデアリマスケレドモ、併ナガラ此三部制ノ出來マシタ時ト、今日トノ時勢ノ變遷ヲ顧ミテ見マスレバ、既ニ三十有餘年ヲ經過致シテ居ルノデアリマスケラ、各種ノ點ニ於テ非常ノ變化ヲ來シテ居ルコトハ明カデアル、而モ其變化ハ市ノ發達ニ驚クベキモノガアルニ反シテ、郡部ハ少シモ其發達ノ痕ヲ見ルコトガ出來マセヌ、ソレハ其苦ナシデアル、斯ノ如ク市郡ト郡トニ於キマシテ負擔ノ差ガアリマスガ故ニ、今日ハソレデナクとも郡部ヨリ市ニ向テ移轉スル所ノ有産階級ノ數ガ多イニ拘ラズ、左様ニ郡部ヨリ市ノ移住致シマスレバ、負擔ノ輕クナルト云フ點カラシテ、爭ウテ郡部ノ有力者ハ悉ク市ニ集マリ、ソレガ爲ニ農村ノ疲弊ハ益々甚シクナヘテ來ルノデアリマスカラ、何レノ點カラ考ヘテ見マシテモ此三部制ト云フガ如キ時代錯誤ノ制度ハ、一日モ早く撤廢ヲシナケレバナラヌモノト考ヘマシテ、本案ニ對シマシテハ憲政會政友會並ニ私共ト、苟モ廣島縣ニ於テ衆議院ニ代表者ヲ送テ居リマスル所ノ總テノ黨派ハ一致シテ提案ヲ致シ居ル次第デアリマスルカラ、何卒十分御審議ノ上此事情ヲ察シテ御贊成アラントヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第五十七、提案者渡邊伍君

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案

府縣中ヨリ廣島縣ヲ除外セシムルコトヲ望ム

右建議ス

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案理由書

明治三十二年內務省令第二十五號ノ指定府縣中廣島縣ヲ含ムハ時代ノ進運ニ副ハス六大都市ト雖已ニ廢止セムトスルノ氣運ニ在リ故ニ縣費負擔ノ均衡ヲ期スル上ニ於テ當然ノ事由ニ存スレ本案ヲ提出スル所以ナリ

○渡邊伍君 本案ハ只今湯淺君ガ御述ニナタ建議案ト大體ニ於テ同ジデアリマスルカラ、簡單ニ此席カラ申上ゲマス、多少湯淺君ニ對シテ數行ヲ致シテ置ク程度ニ於キマシテ、此問題ハ最早議論ノ問題デハナイノデアリマス、實際ノ問題デアリマシテ、現ニ御承知ノ如ク大阪市モ既ニ之ヲ廢止致シタノデアリマス、東京モ間ク所ニ依リマス、神奈川縣亦然リト云フコトヲ聞イタノデアリマス、然ラバ唯、單ニ我ガ廣島縣ノミガ殘テ居ルト云フコトモ事實ノ上ニ於キマシテ既ニ錯誤デアアルコトガ明瞭デアラウト思フノデアリマス、何卒御贊成ヲ願ヒマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 日程第五十八、提出者金田平兵衛君

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案

府縣ハ速ニ廣島縣ニ於ケル三部制ヲ廢止スヘシ

右建議ス

廣島縣ニ於ケル三部制廢止ニ關スル建議案理由書

六大都市所在府縣ノ外三部制ヲ存スルハ廣島縣ノミナリ故ニ縣費負擔ノ不均衡ヲ正フシ且地方費ノ輕減ヲ行ヒ廣島縣會ニ於テ多數ヲ以テ廢止ヲ可決シタル決議ヲ實行スルニ在リ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ(金田平兵衛君登壇)

○金田平兵衛君 只今上程サレマシタ三部制廢止建議案ハ、前二君カラ理由ハ大體申述ベラレマシタ、ソレト同様デアリマスガ、今日ハ廣島縣ニ於テハ重大ナル問題トナテ居リマス、詳シク理由ヲ申上ゲタイノデスガ、ソレニ代ヘマシテ議長ノ許可ヲ得テ茲ニ書イタモノヲ速記録ニ載セテ御一覽ヲ願ヒタイ、サウシテ滿場ノ御贊成ヲ祈ル次第デアリマス(拍手)

(補足)

廣島縣ニ三部經濟制度ヲ施行シアルハ一六錯誤ニシテ之カ爲メ同縣ノ地方行政上ニ種々ナル支障ヲ生シ縣政ノ進歩發達ヲ阻害スルコト頗ル大ナリ其ノ理由ノ大要ヲ左ニ陳述ス

從來我カ帝國三府四十三縣中三部制度施行府縣ハ六大都市ト廣島縣ナルカ就中大阪府ト神奈川縣ハ已ニ廢止セラレ四大都市ト廣島縣ノミニ存置セラレ然ルニ四大都市ハ何レモ人口二百萬乃至六十萬ヲ有スル大都市ナルニ獨リ廣島市ハ人口僅カ二十九萬アルノ廣島市ト殆ト同様ノ人口ト資力ヲ有スル函館、長崎、金澤等ハ三部制度ヲ施行セサルモ何等地方行政上支障ナキノミナラス反テ縣治ハ圓滿ニ進歩發達セルヲ見ル況ンヤ廣島縣ニハ廣島市ノ外吳、尾道、福山ノ三市アリ吳市ノ如キ人口十四萬ヲ有シ其ノ實力廣島市ト伯仲ノ間ニ在リ廣島市ノミニ此ノ變體制度ヲ施行スルハ何等意義ヲナサス加之四大都市ノ府縣會議員ハ府縣制施行令第四十八條ニ依リ最少限度十二人以上ヲ選出スル實力アルニ廣島市ハ縣會議員五人ヲ選出スルノ實力アルノミ然ルニ施行令ノ明文ニ依リ十二人ヲ選出スル特典ヲ與ヘラレ參事會員ハ郡部議員三十九人中六人市部議員十二人中六人ヲ置クノ奇恠ナル制度ニシテ參政權ノ上ニ非常ナル不平等アルハ最モ重大ナル錯誤ナリ次ニ三部經濟制度アル府縣ニテハ施行令第五十二條ニ依リ市部及郡部ノ分擔及收入割合ノ議決ハ全議員ノ五分ノ四以上ノ出席者アルニアラサレハ議決スルヲ得ストノ規定ア

○金田平兵衛君 只今上程サレマシタ三部制廢止建議案ハ、前二君カラ理由ハ大體申述ベラレマシタ、ソレト同様デアリマスガ、今日ハ廣島縣ニ於テハ重大ナル問題トナテ居リマス、詳シク理由ヲ申上ゲタイノデスガ、ソレニ代ヘマシテ議長ノ許可ヲ得テ茲ニ書イタモノヲ速記録ニ載セテ御一覽ヲ願ヒタイ、サウシテ滿場ノ御贊成ヲ祈ル次第デアリマス(拍手)

(補足)

廣島縣ニ三部經濟制度ヲ施行シアルハ一六錯誤ニシテ之カ爲メ同縣ノ地方行政上ニ種々ナル支障ヲ生シ縣政ノ進歩發達ヲ阻害スルコト頗ル大ナリ其ノ理由ノ大要ヲ左ニ陳述ス

從來我カ帝國三府四十三縣中三部制度施行府縣ハ六大都市ト廣島縣ナルカ就中大阪府ト神奈川縣ハ已ニ廢止セラレ四大都市ト廣島縣ノミニ存置セラレ然ルニ四大都市ハ何レモ人口二百萬乃至六十萬ヲ有スル大都市ナルニ獨リ廣島市ハ人口僅カ二十九萬アルノ廣島市ト殆ト同様ノ人口ト資力ヲ有スル函館、長崎、金澤等ハ三部制度ヲ施行セサルモ何等地方行政上支障ナキノミナラス反テ縣治ハ圓滿ニ進歩發達セルヲ見ル況ンヤ廣島縣ニハ廣島市ノ外吳、尾道、福山ノ三市アリ吳市ノ如キ人口十四萬ヲ有シ其ノ實力廣島市ト伯仲ノ間ニ在リ廣島市ノミニ此ノ變體制度ヲ施行スルハ何等意義ヲナサス加之四大都市ノ府縣會議員ハ府縣制施行令第四十八條ニ依リ最少限度十二人以上ヲ選出スル實力アルニ廣島市ハ縣會議員五人ヲ選出スルノ實力アルノミ然ルニ施行令ノ明文ニ依リ十二人ヲ選出スル特典ヲ與ヘラレ參事會員ハ郡部議員三十九人中六人市部議員十二人中六人ヲ置クノ奇恠ナル制度ニシテ參政權ノ上ニ非常ナル不平等アルハ最モ重大ナル錯誤ナリ次ニ三部經濟制度アル府縣ニテハ施行令第五十二條ニ依リ市部及郡部ノ分擔及收入割合ノ議決ハ全議員ノ五分ノ四以上ノ出席者アルニアラサレハ議決スルヲ得ストノ規定ア

リテ其ノ分別ト負擔率トハ容易ニ更正スルコトヲ得ス廣島縣ハ明治三十七年十一月市部ト郡部ノ戸數ヲ基準トシテ郡部ハ八割八歩二厘六毛市部ハ一割一步七厘四毛ト云フ一定不動ノ負擔率ヲ定メ二十五

年ノ久シキ此ノ歩合ニ依リテ市郡ノ分賦ヲナシタリ現在ニ於テハ廣島市ノ人口九割ヲ増シ(郡部ハ八割八歩増加)國稅六十割ヲ増加(郡部ハ十六割ノ増加)セルヲ以テ其ノ負擔ハ廣島市ニ於テ五十六萬圓輕ク郡部ニ於テ五十六萬圓重シ此ノ偏重偏輕ナル負擔ノ更正ヲナサントスルモ市部議員故意ニ缺席シテ定數ノ五分ノ四ヲ缺ク時ハ分擔額ノ更正ハ絕對ニ不可能ナリ現ニ昨年通市議會ニ於テ三部經濟制度ノ意見書上程ニ當リ五日間ニ亙ルノ論戰ヲナシ其ノ議決ニ當リテハ市部議員ハ故意ニ退場シ五分ノ四ヲ缺キタル例アリ都市勢力集中ハ時代ノ趨勢ナリ廣島市ノ人口ト實力トノ増加スルニ從ヒ此ノ偏重ナル負擔ハ倍々不均衡ヲ來スハ爭ハレヌ事實ナリトス 普選ニ直面セル今日參政權ニ於テ如此不平等アリ負擔ニ於テ敍上ノ不均衡アルハ一日モ觀過スル能ハサル重大事ナリト信ス廣島縣ニ於テ三部制度ノ可否ハ已ニ八箇年ノ久シキニ亙リテ問題トナリ今ヤ同縣ニ於ケル撤廢ノ聲ハ頗ル高ク之カ存廢ハ廣島市ヲ除ク三市十六郡ノ盛衰興亡ニ關スル重大案件トシテ輿論沸騰シ同縣ノ縣治ハ一大危期ニ遭遇シ居レリ速ニ廣島縣ノ變體制度ヲ廢止シテ地方行政ノ進歩發展ヲ圖ラレンコトヲ要望ス

○井本常作君 各案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○井本常作君 殘餘ノ日程ハ延期セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕異議ナシトノ聲起ル

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決

シマス、御諮リスル事ガアリマス、第五部選出豫算委員小西和君、第八部選出請願委員富永孝太郎君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ノ聲起ル

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メ、許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ、御届アランコトヲ望ミマス、次回ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是デ散會致シマス
午後六時三十八分散會

衆議院議事速記録第二十六號中正誤

頁 段 行 誤 正
六四四 一 一七 ノ議事 衍

